

総合講義(Ⅱ)

責任者・コーディネーター		生理学講座（病態生理学分野） 黒瀬 雅之 教授 歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野） 深澤 翔太 准教授		
担当講座（分野）		歯学部全講座（分野）		
対象学年	6	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	通期		前期 518.8時間	—
			後期 332.8時間	—

学修方針（講義概要等）

これまでに修得した基礎歯科医学、臨床歯科医学、および歯科医療に関わる膨大な知識を再構築し、その有機的な統合を図る。これまでの科目ごとの「縦割的学習」から脱却し、解剖・生理等の基礎的根拠と臨床的診断・処置を繋ぐ「横断的学習」を実践する。

本講義を通じて、複雑な臨床的課題に対して的確に対応できる専門知識を定着させるとともに、臨床現場において科学的根拠（エビデンス）に基づいた論理的思考ができる「医療人としての基盤」を総合的に修得する。単なる暗記に留まらず、多様な症例に対しても基礎知識を応用して最適解を導き出す、歯科医師としての高度な思考力を涵養することを目的とする。

教育成果（アウトカム）

これまでに系統別・科目別に修得してきた基礎歯科医学および臨床歯科医学の広範な知識を有機的に統合し、個々の疾患のみならず、患者の全身状態や背景を考慮した「包括的且つ継続的な歯科医療」を実践するための最適な判断を下すことができる。生体の構造・機能といった基礎的根拠に基づき、高水準の基本的診査・診断および治療計画の立案を行う能力を修得する。また、医療チームの一員として不可欠なコミュニケーション能力とプロフェッショナリズムを体現し、常に最新の知見を取り入れながら、歯科医師としての自らの可能性を真摯に追求し続ける、医療人としての強固な基盤が形成される。

（関連するディプロマポリシー：1、2、3、4、6）

到達目標 (SB0s)

1. 医療倫理・プロフェッショナリズム

- ・医療倫理の四原則を理解し、臨床現場での適切なプロフェッショナリズムを説明できる。
- ・インフォームド・コンセントの概念に基づき、患者の権利と尊厳を守る歯科医療を説明できる。

2. 社会と歯科医療・保健制度

- ・歯科医師法等の関係法規を遵守し、医療保険や介護保険制度の仕組みを正しく説明できる。
- ・地域包括ケアシステムにおける多職種連携の意義と、歯科医師が果たすべき役割を説明できる。

3. 予防と健康管理・増進

- ・ライフステージに応じた健康増進策と、エビデンスに基づいた口腔健康管理を説明できる。
- ・フッ化物応用や口腔清掃指導による、歯科疾患の一次予防から三次予防までを概説できる。

4. 人体の正常構造と機能

- ・全身および顎口腔領域の解剖学/組織学的構造を、臨床的な手技や画像診断と関連付けて説明できる。
- ・ホメオスタシス維持に関わる生理学/生化学的な機序を、全身状態の管理や評価に応用できる。

5. 発生・成長・発達・加齢変化

- ・受精から組織形成に至る発生過程を理解し、先天異常の病態や特徴を正しく説明できる。
- ・乳幼児から高齢者までの発育・加齢に伴う形態的・生理的な変化を、臨床的に説明できる。

6. 主要な疾患の病因・病態

- ・炎症、腫瘍、循環障害などの病態と免疫応答の機序を理解し、全身および口腔疾患の発生原理を説明できる。
- ・先天異常や発育異常、細胞損傷と修復のプロセスを理解し、各組織の病的な変化を病理学的に説明できる。

7. 主要症候と全身疾患の関連

- ・疼痛や腫脹などの口腔症候から予測される病態を分析し、全身疾患に伴う口腔症状を的確に説明できる。
- ・バイタルサインや一般的症候の変化から、全身疾患の悪化や救急事態の緊急度を論理的に判断できる。

8. 診察の基本と医療面接

- ・患者との信頼関係を築くための医療面接技術と、適切な基本的診察技法を臨床で実践できる。
- ・小児、高齢者、障害者等の心理・社会的背景を考慮した、適切な配慮に基づく診察と対応法を説明できる。

9. 検査・画像診断・臨床判断

- ・各種検体検査や生体機能検査の結果を解釈し、EBMに基づいた臨床推論と診断・判断を説明できる。
- ・画像検査の原理を理解し、放射線防護を徹底した上で、主要疾患の適切な読影と鑑別診断を説明できる。

10. 薬理作用と臨床薬物療法

- ・薬物の作用機序および体内動態（薬物動態）を理解し、歯科用薬剤の適切な選択根拠を説明できる。
- ・全身疾患の常用薬（和漢薬含む）の相互作用や、副作用・有害事象を考慮した安全な処方計画を説明できる。

11. 初期救急と安全管理

- ・診療中の不慮の事故や全身的偶発症に対し、一次救命処置を含む迅速な初期対応を説明できる。
- ・医療安全の発生要因を分析し、院内感染対策への適切な安全管理対策を説明できる。

12. 歯科材料と医療機器の応用

- ・各種生体材料の物理的・生物学的性質を理解し、症例に応じた材料選択の適切性を科学的に説明できる。
- ・歯科用ユニットや切削工具、デジタル機器などの構造を理解し、臨床における安全な取扱いを説明できる。

13. 包括的歯科診療と術式

- ・歯・歯髄・歯周疾患および顎口腔領域の諸疾患に対し、適切な保存的・外科的処置を説明できる。
- ・不正咬合や顎変形症の病態を分析し、機能・形態回復のための動的・静的な矯正治療や処置を説明できる。

14. 口腔機能の回復とリハビリテーション

- ・補綴装置の設計原則を理解し、咀嚼・嚥下・構音等の機能回復に向けた管理を説明できる。
- ・摂食嚥下障害に対し、多職種連携による評価と効果的なリハビリテーション手法を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている各回の授業内容および到達目標を事前に確認し、教科書、既出の国家試験問題、および低学年時に配布された講義レジュメや自作ノート等を用いて、能動的な事前・事後学修を行うこと。各授業に対する事前・事後学修の時間は、平均30分+45分で計75分を要するものとする。

(事前学修：平均30分を要する。 事後学修：平均45分を要する。)

総合講義（Ⅱ）講義日程表：解剖学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	3/30 (月)	2 後半	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	肉眼解剖学・歯の解剖学に必要な知識の整理と勉強法 肉眼解剖学と歯の解剖学の重要領域を確認し、適切な対策を立てることができる。	1. 歯科医師として必要な頭頸部の肉眼解剖学領域について臨床的視点も含め、知識を整理し、重要項目を説明できる。 2. 歯の正常形態について好発する異常形態と共に整理し、各歯の鑑別をするための重要項目を説明できる。 3. 各自の弱点領域を見つけることができる。 [必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-ア, イ, ウ-a, エ-a, オ-a, b, キ-a, ク-b, c, d, e, ケ-a, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 5-ア, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, IV-2, 各論Ⅰ-2-ア, イ] 事前学修：過去3年の歯科医師国家試験の解剖学領域の問題をチェックし、弱点領域を確認しておくこと。講義でその問題及び関連事項について資料を使ってフィードバックする。所要時間15分程度 事後学修：講義資料を元に弱点領域の項目を具体的に把握すると共に、学修内容の要点をまとめること。所要時間20分程度

A 講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/11 (月)	1	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	骨学のまとめ1 頭頸部の骨の発達と、構成する骨の連結、頭蓋骨にみられる構造、隣接する骨同士の関係を理解する。 頭蓋骨を構成する各骨の解剖学的特徴と管、孔、裂による構造間の空間交通を理解する。	1. 骨の配列と縫合について頭蓋骨の成長と関連づけて説明できる。 2. 頭蓋を構成する骨の軟骨結合と骨化の時期から頭蓋の成長について説明できる。 3. 頭蓋腔と外頭蓋底の交通、翼口蓋窩、口腔、鼻腔、副鼻腔、眼窩の構成と周囲との交通を説明できる。 4. 頸椎の構造と頭蓋骨との接続について説明できる。 5. 頭蓋を構成する各骨の解剖学的特徴を説明できる。 [必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-イ, ウ-a, エ-a, ク-b, c, d, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, IV-2] 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去5年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

講義	5/11 (月)	2	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	骨学のまとめ2 頭頸部の骨の発達と、構成する骨の連結、頭蓋骨にみられる構造、隣接する骨同士の関係を理解する。 頭蓋骨を構成する各骨の解剖学的特徴と管、孔、裂による構造間の空間交通を理解する。 顎関節の構造について理解する。	1. 頭蓋を構成する各骨の解剖学的特徴を説明できる。 2. 頭蓋骨各部の構造とそこに付着する筋との関係を説明できる。 3. 顎顔面の各領域に向う動脈や神経の走行、その走行に関連する骨の構造を説明できる。 4. 顎関節の構造、特に顎関節に関わる骨、筋、靭帯とその機能との関連を説明できる。 [必修-4-A-e, 5-U, E, 総論Ⅱ-1-I, U-a, E-a, K-b, c, d, 4-A, I, U, E, O, K, 6-A-a, b, c, I-a, c, U-a, E, 7-U, E, 8-A, I, U-a, E, IV-2] 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：30分 過去5年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度
講義	6/15 (月)	1	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	頭頸部の筋学のまとめ 頭頸部の筋の種類とその走行、支配神経を確認し、機能について理解する。 筋隙を構成する筋と筋隙に存在する構造について理解する。	1. 表情筋と頸部の筋の走行と機能、神経支配について説明できる。 2. 咀嚼筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群の起始停止、走行の特徴について機能との関係性から説明できる。 3. 筋隙を構成する筋の走行、筋隙に存在する器官を説明できる。 [必修-4-A-e, 5-U, E, 総論Ⅱ-1-I, U-a, E-a, K-b, c, d, 4-A, I, U, E, O, K, 6-A-a, b, c, I-a, c, U-a, E, 7-U, E, 8-A, I, U-a, E, IV-2] 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去5年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

講義	6/15 (月)	2	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	骨学・筋学と画像解剖学 エックス線画像、CT及びMRIから構造を読み解く際に必要な解剖学的構造と鑑別ポイントを理解する。	1. エックス線写真、CT及びMRIで見られる画像と骨形態との関係性を説明できる。 2. エックス線写真、CT及びMRIで見られる画像と筋、筋隙及び軟組織の位置や周囲との関係性を説明できる。 3. 血管造影写真に写る構造を動静脈の走行経路と周辺部位との三次元的関係性に基づいて説明できる。 [必修-4-A-e, 5-U, E, 総論II-1-I, U-a, E-a, K-b, c, d, 4-A, I, U, E, O, K, 6-A-a, b, c, I-a, c, U-a, E, 7-U, E, 8-A, I, U-a, E, IV-2] 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去5年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度
講義	7/6 (月)	1	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	頭頸部の神経学のまとめ 頭頸部の筋肉、皮膚や粘膜に分布する脳神経、脊髄神経の種類とその走行経路、機能について理解する。	1. 頰弓神経について説明できる。 2. 頭頸部の筋の運動を支配する神経とその走行経路、機能について説明できる。 3. 頭頸部の特殊感覚と知覚に関わる神経の走行経路と支配領域について説明できる。 4. 頭頸部の器官と機能の制御に関わる脳神経について説明できる。 5. 交感神経、副交感神経の神経節、節後線維の走行経路と関連する機能を説明できる。 [必修-4-A-e, 5-U, E, 総論II-1-I, U-a, E-a, K-b, c, d, 4-A, I, U, E, O, K, 6-A-a, b, c, I-a, c, U-a, E, 7-U, E, 8-A, I, U-a, E, IV-2] 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去5年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

講義	7/6 (月)	2	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	頭頸部の脈管学 心臓と周辺血管のまとめ 頭頸部の動脈・静脈の走行経路や分布範囲について理解する。 心臓と心臓に出入りする血管の解剖学的特徴を理解する。 所属リンパ節と炎症の関係を理解する。	1. 頭頸部の主要な動脈とその枝の走行について説明できる。 2. 頭頸部、口腔内の各部位の栄養血管について説明できる。 3. 顔面・口腔領域の動脈、静脈の走行を説明できる。 4. 心臓の構造と心臓に出入りする血管、その血管を流れる血液の性状について説明できる。 5. 大動脈弓から分岐する血管とその枝の走行について説明できる。 6. 頭頸部のリンパと炎症の波及について説明できる。 [必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-イ, ウ-a, エ-a, ク-b, c, d, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, IV-2] 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去5年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度
講義	8/3 (月)	1	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	歯の形態と咬合 歯の形態的特徴を整理し、すべての歯種の鑑別ポイント、好発する異常形態について説明できるようにする。 咬合関係など臨床的視点で歯の形態的特徴について説明できるようにする。	1. 永久歯・乳歯の歯種ごとの基本形態を説明できる。 2. 永久歯・乳歯に好発する異常形態を説明できる。 3. 上顎と下顎の歯の排列を理解し、咬合との関連性について説明できる。 [必修-4-ア-e, 5-ウ, 総論Ⅱ-5-ア, 6-イ-a, c, ウ-a, 7-エ, 8-ア, イ, エ, IV-2-ア, イ, ウ, 各論Ⅰ-2-ア, イ] 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去5年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその問題及び関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

講義	8/3 (月)	2	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	口腔内臓学のまとめ 口腔～喉頭領域の構造、粘膜を裏打ちする筋の走行と機能を説明できるようになる。	1. 口唇・口腔前庭、固有口腔、口腔底、咽頭、喉頭などの区分を説明できる。 2. 舌、口蓋、口蓋帆に存在する構造、粘膜を裏打ちする筋、脈管、神経を説明できる。 3. 咽頭、喉頭周囲の筋の走行、軟骨の配置を機能に基づいて説明できる。 [必修-4-ア-e, 総論Ⅱ-4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, IV-2-エ, オ, カ, キ, ク] 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去5年分の歯科医師国家試験問題（配布済）の該当領域ならびに周辺領域の問題について復習しておくこと。講義でその関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ重要項目を振り返り、学修内容の要点についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度
----	------------	---	-------------------------------	--	---

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/30 (月)	2	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	解剖学領域の必修問題対策 頭頸部領域の解剖学の基本的知識を整理し、理解力不足の項目を整理し、理解を深める。	1. 頭頸部の解剖学関連領域の基本的知識を整理、抽出し、理解が不十分な必修領域を認識し、強化することができる。 2. 頭頸部、口腔の栄養血管や神経とそれらの走行経路に関わる構造などの基本事項について説明することができる。 [必修-4-ア-e, 総論Ⅱ-4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, IV-2-エ, オ, カ, キ, ク] 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去の歯科医師国家試験および今年度受験した各試験問題について振り返り、理解不足の領域を認識し復習しておくこと。講義で問題を解く上でのポイント及び関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：講義資料を元に必修領域の内容全体を具体的に把握し理解を深めるために補足すべき内容についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	第1回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	1. 歯科医師として必要な頭頸部の 肉眼解剖学の内容について臨床的視 点も含め、知識を整理し、重要項目 を説明できる。 2. 歯の正常形態について好発する 異常形態と共に整理し、各歯の鑑別 をするための重要項目を説明でき る。 3. 各自の弱点領域を見つけること ができる。 [必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1- ア, イ, ウ-a, エ-a, オ-a, b, キ-a, ク- b, c, d, e, ケ-a, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 5-ア, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ- a, エ, オ, カ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, IV-2, 各論Ⅰ-2-ア, イ] 事前学修：試験を通して自分の理解 力不足を感じた領域を抽出しておく こと。所要時間15分程度 事後学修：講義資料を元に弱点領域 の項目を具体的に把握すると共に、 学修内容の要点を教科書、講義資料 などで振り返り整理し、理解を深め ること。所要時間20分程度

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	1. 歯科医師として必要な頭頸部の肉眼解剖学の内容について臨床的視点も含め、知識を整理し、重要項目を説明できる。 2. 歯の正常形態について好発する異常形態と共に整理し、各歯の鑑別をするための重要項目を説明できる。 3. 各自の弱点領域を見つけることができる。 [必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-ア, イ, ウ-a, エ-a, オ-a, b, キ-a, ク-b, c, d, e, ケ-a, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 5-ア, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, IV-2, 各論Ⅰ-2-ア, イ] 事前学修：試験を通して自分の理解力不足を感じた領域を抽出しておくこと。所要時間15分程度 事後学修：講義資料を元に弱点領域の項目を具体的に把握すると共に、学修内容の要点を教科書、講義資料などで振り返り整理し、理解を深めること。所要時間20分程度

※ 2025年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/22 (月)	4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	解剖学領域の弱点克服 (口腔内臓・唾液腺を 中心に) 頭頸部の各部位の構造と栄養血管、支配神経の関係についての基本的知識を整理し、理解力不足の項目を整理する。	1. 頭頸部および口腔の構造、唾液腺、血管、神経についての知識を整理、抽出し、局所解剖学的視点から説明できる。 2. 臨床的視点から解剖学的構造を整理し、その重要性を説明できる。 [必修-4-ア-e, 総論Ⅱ-4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, IV-2-エ, オ, カ, キ, ク] 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去の歯科医師国家試験および今年度受験した各試験問題について振り返り、理解不足の領域を認識し復習しておくこと。講義で問題を解く上でのポイント及び関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：講義資料を元に必修領域の内容全体を具体的に把握し、理解を深めるために補足すべき内容についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/19 (月)	4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能 形態学分野)	解剖学領域の弱点克服 (摂食嚥下に関わる解剖学的構造と機能の視点から) 摂食嚥下に関わる筋と構造、特に舌筋、口蓋帆の筋、咽頭の筋とこれらの機能的関係性及び神経支配を理解する。	1. 口腔、鼻腔、咽頭の構造を説明できる。 2. 気道の解剖学的特徴を説明できる。 3. バクシネータメカニズムと関係する構造について説明できる。 4. 内舌筋・外舌筋の種類と機能を説明できる。 5. 口蓋帆から咽頭に存在する筋と嚥下における機能的意義を説明できる。 6. 喉頭の解剖学的構造を説明できる。 7. 摂食嚥下と関連する解剖学的構造を整理し、臨床的視点で説明できる。 [必修-4-A-e, 総論Ⅱ-4-A, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-A-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, IV-2-エ, オ, カ, キ, ク] 配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。 事前学修：過去の歯科医師国家試験および今年度受験した各試験問題について振り返り、理解不足の領域を認識し復習しておくこと。講義で問題を解く上でのポイント及び関連事項についてフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：講義資料を元に必修領域の内容全体を具体的に把握し、理解を深めるために補足すべき内容についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

総合講義（Ⅱ）講義日程表：組織学・発生学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	3/31 (火)	4 後半	原田英光教授 (解剖学講座・発生生物・再生医学分野)	組織学の国家試験傾向と対策 組織学領域の基本的な内容について、統合的かつ体系的に整理、理解できるようになる。	1. 国家試験に出題された問題を理解し、傾向をつかむことができる。 [出題された問題による] 事前学修：事前に配布したテキストの必要な項目に目を通しておくこと。また問題集については各自で解答して理解不足の点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/8 (水)	1	大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	一般組織・上皮系のまとめ 人体を構成する組織・器官系とこれらの構成要素である細胞に関する組織学的特徴や機能について説明できるようになる。	1. 人体を構成する器官系を列挙できる。 2. 上皮組織の組織学的分類とそれぞれの存在部位について説明できる。 3. 重層扁平上皮の各層の特徴と構成細胞について説明できる。 4. 天疱瘡・類天疱瘡などの疾患を組織学的視点から説明できる。 5. 細胞間接着装置について理解できる。 [必修4-A-d, 総論II-1-A, 総論III-2-A, 総論IV-1-イ, 各論III-1-ク-b] ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/8 (水)	2	<p>大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)</p>	<p>一般組織（結合組織系）のまとめ 間葉系幹細胞に由来する細胞、造血系幹細胞に由来する細胞とそれらの機能について説明できるようになる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 間葉系幹細胞に由来する細胞を列挙できる。 2. 結合組織について理解できる。 3. 造血系幹細胞に由来する細胞を列挙できる。 4. 血球について組織学的特徴について説明できる。 5. 結合組織に存在する炎症系細胞について組織学的特徴や機能を説明できる。 <p>[必修4-ア-d, 必修5-ウ, エ, 総論II-1-ア, イ, 総論II-8-ア、ウ, 総論III-2-ア-e, 総論IV-2-オ, 各論-1]</p> <p>ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
講義	4/15 (水)	1	<p>池崎晶二郎講師 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)</p>	<p>一般組織（骨・筋・内分泌・ホルモン）のまとめ 骨・筋組織の細胞とそれらの機能について説明できるようになる。 内分泌・ホルモンに関わる器官の構造や細胞について説明でき、さらに生体恒常性的視点から理解できるようになる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨と筋の細胞に由来する細胞を列挙できる。 2. 骨と筋の組織について理解できる。 3. 軟骨について組織学的特徴について説明できる。 4. 内分泌・ホルモンを構成する細胞について説明できる。 5. 内分泌・ホルモンの組織学的特徴について説明できる。 6. 血糖・血中カルシウム・血圧の恒常性維持について説明できる。 <p>[必修-4-ア-d, e, f, 総論II-1-イ, キ, ケ, 8-ウ]</p> <p>ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>

講義	4/15 (水)	2	池崎晶二郎講師 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	<p>一般組織（神経組織）と顎顔面の発生のまとめ</p> <p>中枢神経・末梢神経に関わる組織の構造や細胞について説明でき、さらに神経のネットワークの視点から生体恒常性を理解できる。顎顔面の発生過程を成体の構造と関連づけて説明できるようになる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経・末梢神経を構成する細胞について説明できる。 2. 脳・脊髄の組織学的特徴について説明できる。 3. 感覚器官について説明できる。 4. 人体の発生，鰓弓(咽頭弓)、鰓嚢(咽頭嚢)、鰓溝(咽頭溝)について説明できる。 5. 鰓弓・鰓嚢・鰓溝由来の構造について説明できる。 6. 神経堤について説明できる。 7. 神経堤に由来する組織について説明できる。 8. 口蓋の発生過程について説明できる。 9. 頭蓋の発生過程について説明できる。 10. 前頭鼻突起、内側鼻突起、外側鼻突起、上顎突起、下顎突起と顎顔面形成の関係について説明できる。 <p>[必修-4-ア-d, -5, 総論II-1-ク-a, -8-ア, ウ, エ, 各論I-1]</p> <p>ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
講義	4/22 (水)	1	原田英光教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	<p>歯の発生とエナメル質・象牙質・歯髄複合体について</p> <p>エナメル質形成・象牙質・歯髄複合体に関わる細胞やエナメル質・象牙質・歯髄の構造について説明でき、さらに発生学的視点から理解できるようになる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. エナメル器を構成する細胞の由来について説明できる。 2. エナメル芽細胞の分化と形態変化について説明できる。 3. エナメル質の組織学的特徴について説明できる。 4. エナメル質に見られる成長線について説明できる。 5. エナメル基質中に見られる構造について説明できる。 6. 象牙質・歯髄複合体を構成する細胞の由来について説明できる。 7. 象牙芽細胞の分化と形態変化について説明できる。 8. 象牙質の種類と組織学的特徴について説明できる。 9. 象牙質に見られる成長線について説明できる。 10. 象牙細管、基質の石灰化の状態によって見られる構造について説明できる。 11. 歯髄の組織学的特徴や構成細胞を説明できる。 12. 歯髄の脈管・神経系について説明できる。 13. 象牙質・歯髄複合体の生理的加齢変化について説明できる。 <p>[総論II-5-イ, -7-エ-a, -8-イ]</p> <p>ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>

講義	4/22 (水)	2	原田英光教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	歯の発生と歯周組織 歯周組織(歯肉・セメント質・歯根膜・歯槽骨)を構成する細胞や構造について説明でき、さらに発生学的視点から理解できるようになる。	1. 歯周組織やその構成細胞の由来について説明できる。 2. 歯肉の組織学的特徴について説明できる。 3. 付着上皮の特異性と臨床的意義について説明できる。 4. セメント質の特徴と形成機序について説明できる。 5. 歯根膜の組織学的特徴と構成細胞について説明できる。 6. 歯槽骨の組織学的特徴について説明できる。 7. 歯槽硬線を組織学的特徴から説明できる。 8. 歯槽骨・歯根膜のリモデリングについて説明できる。 9. 歯周組織の脈管・神経・機械的受容器について説明できる。 [総論II-5-イ, -7-エ-a, -8-イ] ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/13 (水)	1	大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	唾液腺 大唾液腺の構造と組織学的特徴について説明できるようになる。	1. 耳下腺・顎下腺・舌下腺の位置、排出導管の開口部の位置について説明できる。 2. 大唾液腺の終末部の組織学的特徴について説明できる。 3. 大唾液腺の導管の構造と機能について説明できる。 4. 唾液の組成や唾液成分の機能について説明できる。 [総論II-4-オ-b, -6-カ-a] ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	5/13 (水)	2	<p>大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)</p> <p>歯肉・口腔粘膜(重層扁平上皮の特徴)・顎関節 歯肉やその他の口腔粘膜、顎関節について組織学的特徴を説明できるようにする。</p>	<p>1. 口腔粘膜上皮と角化の有無について説明できる。 2. 歯肉・歯槽粘膜の組織学的特徴について説明できる。 3. 歯-歯肉境の組織学的特徴について説明できる。 4. 頬粘膜・口蓋の組織学的特徴について説明できる。 5. 口唇の組織学的特徴について説明できる。 6. 舌・扁桃の組織学的特徴について説明できる。 7. 顎関節の組織学的特徴について説明できる。 8. 関節円板や関節包内層(滑膜)の特徴について説明できる。 [必修4-ア-d, 総論II-1-ア-a, -4-イ-b, -4-オ, -5-イ-b,] ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
----	-------------	---	--	---

C 講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/17 (火)	1	<p>大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)</p>	<p>組織学 必修問題対策</p> <p>組織学, 発生学領域の基本的な内容について、統合的かつ体系的に整理、理解できるようにする</p>	<p>1. 組織・器官系・発生学の重要領域について説明できる。 2. 組織・器官系・発生学における自分自身の弱点を認識し、自分にあった勉強法を見つけることができる。 [必修-4-ア-e, 必修-5-ア] ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	<p>原田英光教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)</p>	<p>第1回総合試験解説講義</p> <p>試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。</p>	<p>各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。</p>

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	※	※	大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 【出題された問題による】 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	5/20 (水)	4	原田英光教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	組織学、発生学弱点領域の強化 組織・発生学の弱点問題領域を整理し、関連領域も含めて統合的に説明できるようになる。	1. 組織・発生学の弱点領域について確認し、人体組織を体系的に説明できる。 【必修-4-A-e, 必修-5-A, 総論II-1, 4-オ, -8-A】 事前学習：復習試験の誤回答を中心に再復習すること。事前に配布したテキストの必要な項目に目を通しておくこと。 ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	9/8 (火)	4	池崎晶二郎講師 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	口腔組織学の弱点領域の強化 口腔組織学領域を整理し、関連領域も含めて統合的に説明できるようになる。	1. 口腔組織学領域の重要項目(頻出課題)について確認し、口腔組織を体系的に説明できる。 【総論II-5, -8-A, イ】 事前学習：復習試験の誤回答を中心に再復習すること。事前に配布したテキストの必要な項目に目を通しておくこと。 ICT端末を持参すること。 事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：生理学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	3/30 (月)	2 前半	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	生理学領域に必要な知識と勉強法 生理学の重要事項を理解し、勉強法をみつけることができる。	1. 第119回国家試験での生理学/口腔生理学に関連する問題の傾向を理解し、これからの総合講義に役立てることができる。 【A全般】 事前学習 ：第119回歯科医師国家試験問題を必ず解いておく。1・2年次に使用した教科書、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと。所要時間60分程度。 事後学修 ：再度、該当する国家試験問題を解き、自分で説明しながら回答できるようにする。所要時間45分程度。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	4/13 (月)	1	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	生理学総論① 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う (ブループリント：循環器系)	1. 循環器系の機能を列挙できる。 2. 興奮伝導系を説明できる。 3. 心周期を説明できる。 4. 心筋の興奮を説明できる。 5. 循環器疾患を説明できる 【総論Ⅱ-1-ウ-a, b】 事前学修 ：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修 ：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	4/13 (月)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	生理学総論② 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う (ブループリント：呼吸器系・腎泌尿器系)	1. 呼吸器系の機能を列挙できる。 2. 呼吸器系の構造を説明できる。 3. 呼吸器筋を説明できる。 4. ガス交換系を説明できる。 5. 酸素解離曲線を説明できる。 6. 腎臓の構造を説明できる。 7. ネフロンを構成を図示できる。 8. 腎臓の機能を列挙できる。 9. 尿細管の物質輸送を説明できる。 【総論Ⅱ-1-エ-a, b, c 総論Ⅱ-1-キ-a, b, c】 事前学修 ：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修 ：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

講義	4/13 (月)	3	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	生理学総論③ 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う (ブループリント：消化器系)	1. 消化管系の機能を列挙できる。 2. 栄養素の消化様式を説明できる。 3. グルコースの管理を説明できる。 4. カルシウムの管理を説明できる。 [総論Ⅱ-1-オ-a, b] 事前学修：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	4/20 (月)	1	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	生理学総論④ 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う (ブループリント：神経系：ニューロン・グリア・感覚機能・運動機能)	1. 神経線維の解剖を説明できる。 2. 興奮伝導の様式を説明できる。 3. 活動電位発生機序を説明できる。 4. グリア細胞の役割を説明できる。 5. シナプス伝達を説明できる。 6. 感覚受容を説明できる。 7. 反射と随意運動を説明できる。 [総論Ⅱ-1-ク-a, b, c] 事前学修：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	4/20 (月)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	生理学総論⑤ 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う (ブループリント：神経系：高次脳機能・自律機能)	1. 中枢神経系の解剖を説明できる。 2. 脳器官の働きを説明できる。 3. 脳幹の働きを説明できる。 4. 自律神経系を概説できる。 5. 神経伝達物質と受容体の関係を説明できる。 [総論Ⅱ-1-ク-d, e] 事前学修：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	4/20 (月)	3	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	生理学総論⑥ 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う (ブループリント：内分泌系)	1. 内分泌器官を列記できる。 2. 各種ホルモンを説明できる。 3. 神経分泌を説明できる。 [総論Ⅱ-1-ケ-a, b] 事前学修：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

講義	4/24 (月)	1	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	口腔生理学総論① 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う (グループプリント：感覚・運動・咀嚼・嚥下)	1. 口腔感覚の受容を説明できる。 2. 子音の作成機序を説明できる。 3. 破裂音と破擦音を説明できる。 4. 唾液の種類を説明できる。 5. 唾液分泌機能について説明できる。 [総論Ⅱ-6-ア-a, b, c, d, e Ⅱ-6-イ-a, b, c, d Ⅱ-6-ウ-a, b Ⅱ-6-エ-a, b] 事前学修：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	4/24 (月)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	口腔生理学総論② 重要事項の確認と理解と知識の強化を行う (グループプリント：発声、構音、唾液分泌)	1. 母音の作成機序を説明できる。 2. 子音の作成機序を説明できる。 3. 破裂音と破擦音を説明できる。 4. 唾液の種類を説明できる。 5. 唾液分泌機能について説明できる。 [総論Ⅱ-6-オ Ⅱ-6-カ-a, b] 事前学修：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/24 (火)	3	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	生理学/口腔生理の必修事項 基本事項の確認と理解の強化(全身・口腔の構造と機能)	1. 生理学/口腔生理学の必修事項を説明できる。 [必修4-a 全般] 事前学修：DESSを活用し、114回から118回までの生理学関係の必修問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修：114回から118回までの生理学関係の必修過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (基盤形成講義Ⅱ期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/30 (火)	4	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	実力確認試験 復習 解説と解析 生理学/口腔生理学の自身の弱点領域を知り、学ぶ。	1. 生理学/口腔生理学の弱点領域について説明できる。 [出題された問題による] 事後学修：1・2年次に使用した教科書、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：弱点と感じた箇所について、教科書・講義ノートを用いて知識の整理をする。所要時間45分程度。

選抜講義② (必修問題特化講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/29 (火)	4	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	到達度/全国模試 復習 解説と解析 生理学/口腔生理学の自身の弱点領域を知り、学ぶ。	1. 生理学/口腔生理学の弱点領域について説明できる。 [出題された問題による] 事後学修：1・2年次に使用した教科書、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：弱点と感じた箇所について、教科書・講義ノートを用いて知識の整理をする。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：生化学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	3/30 (月)	4 前半	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	生化学領域の知識の整理 生化学領域の重要項目ならびに修得すべき知識を理解する。	1. 歯科医師として必要な生化学・分子生物学・細胞生物学の知識を列挙できる。 2. 理解が不十分な領域を確認するとともに、重要項目の概要を説明できる。 [出題された問題による] 事前学習：過去の国家試験の生化学関連問題を見直して講義に臨むこと。 事後学修：国家試験に出題された問題に関連する内容を講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/9 (木)	1	石崎 明教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	細胞と遺伝子 細胞小器官と生体膜の機能ならびに核酸の構造とセントラルドグマを理解する。	1. 細胞小器官の機能を説明できる。 2. 生体膜の構造と機能を説明できる。 3. 核酸の構造を説明できる。 4. セントラルドグマを説明できる。 [必修-4-ア-b・C, 総論Ⅱ-1, 総論Ⅲ-1-イ-b] 事前学習：1年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	4/9 (木)	2	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	遺伝子の変異 遺伝病/配偶子病の発現ならびに発癌や転移/浸潤のしくみを理解する。	1. 染色体の構造と配偶子形成を説明できる。 2. 遺伝病・配偶子病が発現するしくみを説明できる。 3. 癌遺伝子と癌抑制遺伝子の機能を説明できる。 4. 発癌や転移・浸潤のしくみを説明できる。 [必修-4-ア-b, 必修-6-ア, 総論Ⅲ-1-コ-a, 総論Ⅲ-2-ア-a, 総論Ⅵ-3-ア-g] 事前学習：事前学習：2年次の講義や5年次の総合講義Ⅰの内容や講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。

講義	4/16 (木)	1	石崎 明教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	<p>生体成分と代謝</p> <p>生体成分の基本構造と三大栄養素の代謝経路を理解する。</p>	<p>1. 糖質・脂質・タンパク質の構造と性質を説明できる。</p> <p>2. 各生体成分の役割を説明できる。</p> <p>3. 生体における糖質・脂質・タンパク質の代謝とエネルギー産生を説明できる。</p> <p>4. 血糖調節機構を説明できる。</p> <p>[必修-4-ア-a・f, 必修-9-エ-c, 総論Ⅱ-1-コ, 総論Ⅵ-3-c]</p> <p>事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。</p> <p>事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。</p>
講義	4/16 (木)	2	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	<p>生理活性物質</p> <p>ホルモン/サイトカイン/ケミカルメディエーターの構造と機能を理解する。</p>	<p>1. ホルモンの性状や受容体について説明できる。</p> <p>2. 局所ホルモンとしてのサイトカインの役割を説明できる。</p> <p>3. 炎症性細胞の役割を説明できる。</p> <p>4. ケミカルメディエーターの性状や産生を説明できる。</p> <p>[必修-4-ア-a・e・g, 必修-6-ア-d, 総論Ⅱ-1-ケ, 総論Ⅱ-3-ア, 総論Ⅲ-1-カ-a]</p> <p>事前学習：5年次の総合講義Ⅰの内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。</p> <p>事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。</p>
講義	5/14 (木)	1	石崎 明教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	<p>細胞外マトリックス</p> <p>結合組織の成分と機能ならびに細胞接着を理解する。</p>	<p>1. コラーゲンの構造・機能・生合成を説明できる。</p> <p>2. プロテオグリカンの構造・機能・組織分布を説明できる。</p> <p>3. インテグリンの構造と機能を説明できる。</p> <p>4. 主要な接着性タンパク質の機能と分布を説明できる。</p> <p>[必修-4-ア-d・e, 総論Ⅱ-1,]</p> <p>事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。</p> <p>事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。</p>

講義	5/14 (木)	2	<p>帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)</p> <p>石灰化と骨リモデリング</p> <p>石灰化と骨リモデリングならびに血清カルシウムの調節機構を理解する。</p>	<p>1. 硬組織を構成する成分と細胞の役割を説明できる。</p> <p>2. 骨リモデリングのメカニズムを説明できる。</p> <p>3. 血清カルシウム調節ホルモンの構造と機能を説明できる。</p> <p>4. ホルモンによる血清カルシウムの調節機構を説明できる。</p> <p>[必修4-A-d・e, 総論Ⅱ-1-イ-a, 総論Ⅱ-8-ウ]</p> <p>事前学習：5年次の総合講義Iの内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。</p> <p>事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。</p>
講義	5/21 (木)	1	<p>石崎 明教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)</p> <p>血液と生化学検査</p> <p>血液の成分や機能と生化学検査の原理を理解する。</p>	<p>1. 血液凝固やヘム・ポルフィリン代謝を説明できる。</p> <p>2. 血漿成分の機能や疾患における変動を説明できる。</p> <p>3. 逸脱酵素を説明できる。</p> <p>4. 糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝関連物質を説明できる。</p> <p>5. 含窒素成分を説明できる。</p> <p>[必修4-A-d・e, 必修9-E-b・c, 総論Ⅵ-3-A-b・c]</p> <p>事前学習：2年次の講義内容や関連分野の検査に関する講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。</p> <p>事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。</p>
講義	5/21 (木)	2	<p>帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)</p> <p>唾液と歯の堆積物</p> <p>唾液成分の機能とプラーク細菌の代謝を理解する。</p>	<p>1. 唾液成分の由来や機能について説明できる。</p> <p>2. プラークの形成過程と性質を説明できる。</p> <p>3. プラーク細菌による有機酸の産生を説明できる。</p> <p>4. プラーク細菌による口臭原因物質の産生を説明できる。</p> <p>[必修4-I-c, 総論Ⅱ-2-イ, 総論Ⅱ-6-カ, 総論Ⅲ-1-カ-a]</p> <p>事前学習：5年次の総合講義Iの内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。</p> <p>事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。</p>

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/19 (木)	3	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	生化学領域の必修知識 生化学の重要項目ならびにキーワードについて理解する。	1. 歯科医師として必要な生化学領域の必修知識を理解する。 2. 重要キーワードを列挙し生体内における機能を説明できる。 [必修-4-ア, 必修-4-イ-c, 必修-6-ア-d, 必修-9-エ-b・c] 事前学修：6年次の総合講義IIの内容や実力確認試験/到達度評価試験/全国模擬試験の生化学関連問題を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料を参考に提示された課題に取り組むこと。所要時間45分程度。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	第2回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（A講義期間中）

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	6/4 (木)	4	石崎 明教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	弱点領域の強化 中～高正答率問題について理解を深める。	1. 生化学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 【試験等の分析による】 事前学修：6年次の実力確認試験/到達度評価試験/全国模擬試験の生化学関連問題を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料を参考に提示された課題に取り組むこと。所要時間45分程度。

選抜講義②（B-C講義期間中）

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	9/15 (火)	4	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	弱点領域の強化 中～高正答率問題について理解を深める。	1. 生化学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 【試験等の分析による】 事前学修：6年次の実力確認試験/到達度評価試験/全国模擬試験の生化学関連問題を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料を参考に提示された課題に取り組むこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：微生物学・免疫学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	3/30 (月)	3 前半	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	微生物学領域の歯科医師として必要な知識 国家試験問題の解説と歯科医師として修得すべき微生物学の基本的知識を理解する。	歯科医師として必要な微生物学の知識を修得するための、効率的な勉強法を確立することができる。 [<必修>4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ-e、<総論>Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ-3-ア-e] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間15分程度。 事後学修：今春の国家試験問題について、周辺知識も含め整理すること。所要時間25分程度。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/17 (金)	1	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	微生物学・細菌学総論 院内感染対策 病原微生物の生物分類学上の位置づけおよびその性状を理解する。滅菌と消毒の方法、感染性廃棄物の処理を理解する。	1. 微生物の構造・性状について説明できる。 2. 感染の概念と感染症について説明できる。 3. 宿主-寄生体相互作用について説明できる。 4. 物理的、化学的方法による滅菌法を説明できる。 5. 主な消毒薬の分類とその効果について説明できる。 6. 歯科医療における院内感染とその予防法について説明できる。 [<必修>2-キ-c、4-イ、6-ア-e、9-エ-e、<総論>Ⅰ-7-ア、Ⅱ-2-ア、Ⅲ-1-キ、Ⅵ-3-ア-e] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

講義	4/17 (金)	2	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	微生物学・細菌学各論 病原微生物による感染症およびその病原因子について理解する。	1. 病原微生物の性状について説明できる。 2. 病原微生物による感染症・病原因子について説明できる。 【<必修>4-イ、6-ア-e、9-エ-e、<総論>II-2-ア、III-1-キ、VI-3-ア-e] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。
講義	4/17 (金)	3	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	ウイルス学各論 ウイルスの性状と感染経路、標的器官および感染症を理解する。	主要な病原性ウイルスの性状・感染経路・標的器官および感染症を説明できる。 【<必修>4-イ、6-ア-e、9-エ-e、<総論>II-2-ア、III-1-キ、VI-3-ア-e] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。
講義	4/21 (火)	3	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	免疫学 免疫応答による生体防御の仕組みを理解する。	1. 免疫応答に関与する器官と細胞について説明できる。 2. 自然免疫と獲得免疫について説明できる。 3. 主なサイトカインとその生物活性について説明できる。 4. 微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 5. 各過敏症の発症メカニズムと代表的な疾患について説明できる。 6. 主な免疫不全症の発症機序と疾患について説明できる。 7. 自己免疫疾患発現に関与する因子と代表的な自己免疫疾患について説明できる。 【<必修>4-ア-g、<総論>II-3、III-1-ク] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

講義	4/30 (木)	1	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	口腔細菌総論・各論 口腔の正常フローラ、 口腔細菌の性状および 病原因子を学び、う 蝕・歯周疾患・歯内疾 患の成立・発症機序を 理解する。	1. 口腔のニッチとその構成細菌に ついて説明できる。 2. 口腔病原微生物の特徴と病原因 子について説明できる。 3. う蝕原性細菌の特徴と病原因子 について説明できる。 4. 歯周病原細菌の特徴と病原因子 について説明できる。 [<必修>4-イ、6-ア-e, f、9-エ-e、< 総論>II-2、III-1-キ、VI-3-ア-e] 事前学習：過去5年間の国家試験の 微生物学・免疫学に関連する問題に ついて学習しておくこと。所要時間 30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域の DESS演習を行うこと。所要時間45分 程度。
演習	4/30 (木)	2	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	微生物学・免疫学領域 の苦手領域の補完 問題演習を通じ苦手な 領域を理解し、問題解 決に必要な基本的な考 え方を理解する。	1. 微生物学領域の必修問題、一般 問題に求められる基本的な考え方を 説明できる。 2. 免疫学領域の必修問題、一般問 題に求められる基本的な考え方を説 明できる。 3. 提示された課題の学習を通し て、自ら新たな問題点を見出すこと ができる。 4. 提示された課題についての学習 方法を説明できる。 [<必修>4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ -e、<総論>II-2, 3、III-1-キ, ク、VI -3-ア-e] 事前学習：過去5年間の国家試験の 微生物学・免疫学に関連する問題に ついて学習しておくこと。所要時間 30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域の DESS演習を行うこと。所要時間45分 程度。
講義	8/6 (木)	1	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	重点講義1 微生物学・免疫学領域 全般について知識を強 化し、理解を深める。	1. 微生物学領域の必修問題、一般 問題に求められる基本的な考え方を 説明できる。 2. 免疫学領域の必修問題、一般問 題に求められる基本的な考え方を説 明できる。 [<必修>4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ -e、<総論>II-2, 3、III-1-キ, ク、VI -3-ア-e] 事前学習：過去5年間の国家試験の 微生物学・免疫学に関連する問題に ついて学習しておくこと。所要時間 30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域の DESS演習を行うこと。所要時間45分 程度。

講義	8/6 (木)	2	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	重点講義2 微生物学・免疫学領域 全般について知識を強 化し、理解を深める。	1. 微生物学領域の必修問題、一般 問題に求められる基本的な考え方を 説明できる。 2. 免疫学領域の必修問題、一般問 題に求められる基本的な考え方を説 明できる。 [<必修>4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ -e、<総論>Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ -3-ア-e] 事前学習：過去5年間の国家試験の 微生物学・免疫学に関連する問題に ついて学習しておくこと。 事後学修：講義内容に準じる領域の DESS演習を行うこと。所要時間45分 程度。
----	------------	---	---------------------------------	--	--

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/10 (火)	3	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	微生物学・免疫学一必修問題に向けた復習講義 微生物学・免疫学の基本的知識の整理をする。	微生物学・免疫学領域の必修問題に 頻出項目について理解し、問題を解 くことができる。 [<必修>4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ -e、<総論>Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ -3-ア-e] 事前学習：過去5年間の国家試験の 微生物学・免疫学に関連する問題に ついて学習しておくこと。所要時間 30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域の DESS演習を行うこと。所要時間45分 程度。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	第1回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/19 (金)	4	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	選抜講義① 微生物学・免疫学領域全般について知識を強化し、理解を深める。	実力確認試験・復習試験・模擬試験の結果から見えてきた微生物学・免疫学領域に関する理解が不十分な領域を説明できる。 [<必修>4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ-e、<総論>Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ-3-ア-e] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/1 (木)	4	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	選抜講義② 微生物学・免疫学領域全般について知識を強化し、理解を深める。	実力確認試験・復習試験・模擬試験の結果から見えてきた微生物学・免疫学領域に関する理解が不十分な領域を説明できる。 [<必修>4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ-e、<総論>Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ-3-ア-e] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：薬理学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	3/30 (月)	3 後半	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	薬理学の国家試験傾向と対策 薬理学の基本的な内容について理解する。	1. 国家試験問題の解説と傾向を理解する。 [必修-11-コ、総論Ⅶ-8] 事前学修：国家試験問題を確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/8 (水)	3	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	薬力学、自律神経系作用薬 薬力学（用量反応曲線）、自律神経作用薬、交感神経作用薬・副交感神経作用薬	1. 薬力学を説明できる。 2. 自律神経作用薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 [必修-11-コ、総論Ⅶ-8] 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	4/10 (金)	3	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	鎮痛薬 解熱鎮痛薬、NSAIDs、麻薬性鎮痛薬、神経障害性疼痛治療薬、漢方薬（立効散）	1. 鎮痛薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 [必修-11-コ、総論Ⅶ-8] 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	4/15 (水)	3	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	麻酔関連薬 局所麻酔薬、全身麻酔薬、筋弛緩薬	1. 麻酔関連薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 [必修-11-コ、総論Ⅶ-8] 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	4/22 (水)	3	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	その他の処方薬 和漢薬（漢方薬）、糖尿病治療薬、中枢神経系疾患治療薬、高血圧症治療薬、抗アレルギー薬、免疫抑制薬	1. 糖尿病治療薬等の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 [必修-11-コ、総論Ⅶ-8] 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	4/24 (金)	3	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	抗微生物薬 抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、歯性感染症ガイドライン	1. 抗微生物薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 [必修-11-コ、総論Ⅶ-8] 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

講義	5/1 (金)	3	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	抗腫瘍薬 化学療法薬、分子標的治療薬、漢方薬(半夏瀉心湯薬)、口腔癌ガイドライン	1. 抗腫瘍薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 [必修-11-コ、総論VII-8] 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	5/13 (水)	3	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	臨床薬理学 薬事関連法規(医薬品医療機器等法)、臨床試験、薬物動態、治療薬物モニタリング	1. 薬事関連法規を説明できる。 2. 臨床薬理学について説明できる。 [必修-11-コ、総論VII-8] 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。
講義	5/15 (金)	3	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	抗血栓薬、骨粗鬆症治療薬 抗血小板薬、抗凝固薬、抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン2020年版 ビスホスホネート製剤、抗RANKL抗体、顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023	1. 抗血栓薬等の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 [必修-11-コ、総論VII-8] 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/11 (水)	2	田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	薬理学の必修事項 基本事項の確認と理解の強化	1. 薬理学の必修事項を説明できる。 [必修-11-コ、総論VII-8] 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/27 (水)	4	田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	薬理学の復習1 要点の理解	1. これまで学修した薬理学の要点を説明できる。 [必修-11-コ、総論VII-8] 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/18 (金)	4	田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	薬理学の復習2 要点の理解	1. これまで学修した薬理学の要点を説明できる。 [必修-11-コ、総論VII-8] 事前学修：到達目標について教科書等で確認する。所要時間30分。 事後学修：教科書等で知識を整理する。所要時間45分。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：病理学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/3 (金)	4 前半	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	今春の国家試験の必修問題解説-病理学の必修領域の出題内容とその傾向- 病理学の重要事項を理解し、勉強法をみつけることができる。	1. 今春の国家試験で問われた病理学領域の歯科医師に必要な知識を説明できる。 2. 歯科医師として必要な病理学の知識を修得するための年間計画が立案できる。 [必修-6、必修-9-キ、総論Ⅲ-1-3、総論Ⅳ-3-f, 各論Ⅲ] ディスカッション方式の講義を行う。講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して学生の理解度を逐次確認する。 事前学習：本年度の歯科医師国家試験の口腔病理学関連問題を抜粋し、その問題を解説できるようにしておくこと。

A 講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/10 (金)	1	佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	染色体・遺伝子および発生の異常 発生の異常やそれに関わる原因について理解する。	1. 染色体・遺伝子の基本概念を説明できる。 2. 発生異常について説明できる。 3. 染色体異常による疾患について説明できる。 4. 遺伝子異常による疾患について説明できる。 [必修6-7-b, 総論Ⅲ-2-7-a, 各論Ⅲ-4-7]
講義	4/10 (金)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	細胞傷害の機序 どのような代謝過程の異常がいかなる機能的ないし形態的異常を生じるのか理解する。	1. 細胞傷害をきたす因子について説明できる。 2. 細胞傷害の機序と形態学的変化について説明できる。 3. 空胞変性、脂肪変性、好酸性変性、硝子様変性、硝子滴変性、フィブリノイド変性、角質変性、粘液変性について説明できる。 4. 壊死とアポトーシスについて説明できる。 5. 萎縮について説明できる。 [必修6-7-c, 総論Ⅲ-1-4]

講義	5/12 (火)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	<p>循環障害</p> <p>体液の循環の異常によりどのような障害が生じるのか理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水腫の定義・病態生理・形態学的変化について説明できる。 2. 虚血の定義・原因・転帰について説明できる。 3. 充血とうっ血について説明できる。 4. 出血と出血性素因について説明できる。 5. 血液凝固機序と血栓症について説明できる。 6. 塞栓症の定義・種類・結果・転帰について説明できる。 7. 梗塞の定義・種類・形態学的な変化について説明できる。 8. ショックの定義・発生・種類・形態学的な変化について説明できる。 9. 傍側循環について定義・種類・病態生理を説明できる。 10. 高血圧と低血圧について説明できる。 <p>[必修6-7-h, 総論Ⅲ-1-㊦]</p>
講義	5/25 (月)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	<p>炎症</p> <p>障害的刺激・侵襲に対する局所ならびに全身的な防御反応について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 炎症の定義と原因について説明できる。 2. 炎症反応のカスケードについて説明できる。 3. 炎症巣の構造と浸潤細胞について説明できる。 4. 炎症のケミカルメディエーターについて説明できる。 5. 急性炎症について説明できる。 6. 慢性炎症について説明できる。 7. 炎症の転帰について説明できる。 8. 炎症の名称と分類について説明できる。 <p>[必修6-7-d, 総論Ⅲ-1-㊧]</p>
講義	6/15 (月)	3	佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	<p>腫瘍</p> <p>正常細胞が自律性をもった過剰増殖を示すようになった状態を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腫瘍の定義と分類について説明できる。 2. 組織学的分類と命名法について説明できる。 3. 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。 4. 腫瘍の生物学について説明できる。 5. 良性腫瘍の組織型について説明できる。(乳頭腫・腺腫・線維腫・脂肪腫・骨腫・平滑筋腫・血管腫・リンパ管腫・神経鞘腫・色素性母斑) 6. 悪性腫瘍の組織型について説明できる。(扁平上皮癌・紡錘形細胞癌・腺癌・軟骨肉腫・骨肉腫・平滑筋肉腫・多発性骨髄腫・悪性黒色腫) 癌の広がり方と進行度について説明できる。前癌病変と境界病変について説明できる。 <p>[必修6-7-c, 総論Ⅲ-1-㊨]</p>

講義	7/27 (月)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	唾液腺腫瘍 唾液腺腫瘍の病因と病態を理解する。	1. 唾液腺の良性上皮性腫瘍について説明できる。 2. 唾液腺の悪性上皮性腫瘍について説明できる。 3. 唾液腺の非上皮性腫瘍について説明できる。 [必修6-4-n, 総論Ⅲ-2-7-f] 事前学習：新口腔病理学p257-270を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	7/31 (金)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	口腔粘膜疾患・免疫応答に関連した口腔病変 口腔粘膜に生じる疾患・免疫応答に関連した口腔病変の病因と病態について理解する。	1. 水疱性病変について説明できる。 2. 赤色病変について説明できる。 3. 潰瘍性病変について説明できる。 4. 白色病変について説明できる。 5. 黒色病変について説明できる。 6. 舌炎・口唇炎について説明できる。 7. ウイルス性・細菌性感染症について説明できる。 [必修6-4-m, 総論Ⅲ-2-7-c] 事前学習：新口腔病理学p143-161, p283-291を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	8/3 (月)	3	佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	加齢に伴う口腔病変 加齢に伴う口腔病変の病因と病態について理解する。	1. 加齢と老化について説明できる。 2. 加齢に伴う歯と歯周組織の変化について説明できる。 3. 加齢に伴う顎骨と顎関節の変化について説明できる。 4. 加齢に伴う口腔軟組織の変化について説明できる。 5. 加齢に伴う唾液と唾液腺の変化について説明できる。 [必修5-1-a, b, 総論Ⅲ-2-4-a, b] 事前学習：新口腔病理学p292-311を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	8/21 (金)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	歯原性腫瘍 歯原性腫瘍の病因と病態について理解する。	1. 良性歯原性腫瘍について説明できる。 2. 悪性歯原性腫瘍について説明できる。 [必修6-4-k, 総論Ⅲ-2-7-e] 事前学習：新口腔病理学p196-211を読み、疑問点を抽出しておくこと。

C 講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/16 (月)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	顎骨の非歯原性腫瘍・腫瘍様病変と顎骨内に生じる非歯原性腫瘍・腫瘍様病変 顎骨の非歯原性腫瘍・腫瘍様病変と顎骨内に生じる非歯原性腫瘍・腫瘍様病変の病因と病態について理解する。	1. 線維性病変について説明できる。 2. 骨形成性病変について説明できる。 3. 軟骨形成性病変について説明できる。 4. 巨細胞性病変について説明できる。 5. 円形細胞腫瘍について説明できる。 [必修6-4-k, 総論Ⅲ-2-7-e] 事前学習：新口腔病理学p212-238を読み、疑問点を抽出しておくこと。

講義	11/30 (月)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	歯源性・非歯源性嚢胞 歯源性・非歯源性嚢胞の病因と病態について理解する。	1. 発育性嚢胞について説明できる。 2. 炎症性嚢胞について説明できる。 3. 顎骨内に発生する非歯源性嚢胞について説明できる。 4. 軟組織に発生する非歯源性嚢胞について説明できる。 [必修6-4-k, 総論Ⅲ-1-7-a, b, c] 事前学習：新口腔病理学p182-195を読み、疑問点を抽出しておくこと。
----	--------------	---	---------------------------	--	---

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	第2回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/22 (金)	4	佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	全身性疾患と口腔病変と歯科医療における病理診断 口腔に影響を及ぼす全身性疾患と歯科医療における病理診断を理解する。	1. ウイルス感染症について説明できる。 2. 細菌性感染症について説明できる。 3. 内分泌代謝障害について説明できる。 4. 栄養障害について説明できる。 5. 細胞診について説明できる。 [必修6-4-p, 総論Ⅲ-2-7-g] 事前学習：新口腔病理学p312-330を読み、疑問点を抽出しておくこと。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/2 (金)	4	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	歯の発育異常・齲蝕 歯の発育異常・う蝕の病因と病態について理解する	1. 歯の形・大きさ・数・構造の異常について説明できる。 2. 歯の物理的・化学的損傷について説明できる。 3. 歯の沈着物・着色・変色について説明できる。 4. 齲蝕の疫学について説明できる。 5. 齲蝕の分類と好発部位について説明できる。 6. 齲蝕の原因と成り立ちについて説明できる。 7. 齲蝕の病理学的特徴について説明できる。 [必修6-4-a, h, 総論Ⅲ-2-7-a, b] 事前学習：新口腔病理学p2-47を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	10/9 (金)	4	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	口腔病理学の一般・必修問題対策 2回全国模試 (DESS120-1 9月10, 11日実施) の解説と重要な各種疾患の病態を理解する。	1. 到達度試験、第1回総合試験、復習試験、第1回全国模擬試験の結果から明らかになった弱点項目を理解し、それらの解答に必要な知識を正しく説明できる。 2. 炎症について説明できる。 3. 感染症について説明できる。 4. 免疫異常について説明できる。 5. 増殖と修復について説明できる。 [必修6, 総論Ⅲ] ディスカッション方式の講義を行う。講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して学生の理解度を逐次確認する。 事前学習：スタンダード病理学 p110-188, p42-60を読み、疑問点を抽出しておくこと。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯科理工学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	4/1 (水)	4 後半	武本真治教授 (医療工学講座)	歯科理工学領域に必要な知識と勉強法 歯科理工学の重要項目を理解し、勉強法を見つけてることができる。	1. 第118回国家試験での歯科理工学関連問題の傾向を理解し、これからの総合講義に役立てることができる。 【必修13セ、総論VIII、各論IV】 事前学習：第118回歯科医師国家試験問題を解いておく（30分程度）。 事後学修：解説を聞いて、2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートに関連項目を確認し、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

A 講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	4/14 (火)	1 ・ 2	武本真治教授 (医療工学講座)	歯科材料の科学 歯科材料の機械的・物理的・化学的・生物学的性質（化学構造、物質の状態、基本的な化学反応）を学ぶ。	1. 歯科臨床における歯科材料の構成を説明できる。 2. 歯科臨床における歯科材料の物理的性質を説明できる。 3. 歯科臨床における歯科材料の化学的性質を説明できる。 4. 口腔内環境と化学反応性（金属の腐食、高分子の加水分解など）を説明できる。 5. 各種材料の応力-ひずみ特性（弾性係数、レジリエンス、降伏強さなど）を説明できる。 6. 歯科臨床における歯科材料の機械的性質を説明できる。 【必修13セa、総論VIII-1】 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

<p>講義</p>	<p>4/21 (火)</p>	<p>1 ・ 2</p>	<p>武本真治教授 (医療工学講座)</p>	<p>歯冠修復(直接法)に用いる器械、道具 歯冠修復材①</p> <p>診断、切削に用いる器械と道具について学ぶ。 直接修復に用いる成形修復方法を学ぶ。</p>	<p>1. う蝕の診断に用いる器械を説明できる。 2. 歯科用回転駆動装置の名称、構造と性能を説明できる。 3. 切削に用いる器械・道具を説明できる。 4. 直接修復に用いる歯科材料を分類できる。 5. 成形修復材の特徴を説明できる。 6. コンポジットレジンの接着方法を説明できる。 7. 研磨に用いる道具を説明できる。 [必修13b, e, h、総論VIII-2, 5, 8ア]</p> <p>事前学習：2・3年次に使用した教科書(スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジメ、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと(15分程度)。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する(60分程度)。</p>
<p>講義</p>	<p>5/12 (火)</p>	<p>1 ・ 2</p>	<p>武本真治教授 (医療工学講座)</p>	<p>印象材と模型材</p> <p>印象採得に用いられる材料の種類、成分、特徴を学ぶ。石膏の性質、特に硬化の機構、硬化膨張について学ぶ。</p>	<p>1. 印象材の成分・組成と硬化機構および性質を説明できる。 2. 歯科臨床における石膏の所要性質を説明できる。 3. 石膏の硬化機構を説明できる。 4. 石膏の硬化時間に影響を与える因子(混水比、温度、添加剤)を説明できる。 5. 石膏の硬化膨張に影響を与える因子を説明できる。 [必修13セc, d、総論VIII-3, 4、各論IV-3イd, 4イb, 4ウa, 5イb, 5ウa, 6ウc]</p> <p>事前学習：2・3年次に使用した教科書(スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジメ、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと(15分程度)。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する(60分程度)。</p>

講義	5/19 (火)	1 ・ 2	<p>武本真治教授 (医療工学講座)</p> <p>歯冠修復材②金属材料とその成形技術</p> <p>金属材料の成形法を学ぶ。 歯科精密鑄造に用いる材料(ワックス、埋没材、歯科用金属)の理工学的性質を学ぶ。 金属同士の接合を学ぶ。</p>	<p>1. 歯科用ワックスの種類と用途、性質を説明できる。 2. 埋没材の種類、組成、成分の役割、性質を説明できる。 3. 鑄造用金属の組成と特徴を説明できる。 4. 金属材料の成形法を列挙できる。 5. 金属の接合方法の種類と特徴について説明できる。 [必修13セd, f, g、総論VIII-6イa, ウ, エ、7イab, ウ, エ、各論IV-3ウabc, 4ウd]</p> <p>事前学習：2・3年次に使用した教科書(スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジメ、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと(15分程度)。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する(60分程度)。</p>
講義	6/23 (火)	3	<p>武本真治教授 (医療工学講座)</p> <p>合着・接着用材料</p> <p>歯科用合着・接着用材料の種類、成分、硬化機構および性質について学ぶ。</p>	<p>1. 歯科用合着材の種類、成分、特徴を説明できる。 2. 歯科用接着材の種類、成分、特徴を説明できる。 [必修13セh、総論VIII-8, 9, 10、各論IV-3イj]</p> <p>事前学習：2・3年次に使用した教科書(スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジメ、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと(15分程度)。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する(60分程度)。</p>
講義	6/30 (火)	3	<p>武本真治教授 (医療工学講座)</p> <p>セラミックスの成形技術・機器</p> <p>セラミックスの成形加工法を学ぶ</p>	<p>1. セラミックスの主要な成形法とその特徴を説明できる。 2. 耐火模型の概要を説明できる。 3. 加熱加圧成形法を説明できる。 4. CAD/CAMによるセラミックス成形法の概要を説明できる。 [必修13セfg、総論VIII-6イ, ウ, 7イエ、各論IV-3ウbc]</p> <p>事前学習：2・3年次に使用した教科書(スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジメ、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと(15分程度)。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する(60分程度)。</p>

講義	7/7 (火)	3	武本真治教授 (医療工学講座)	CAD/CAM技術・機器 セラミックスの成形加工法を学ぶ	1. CAD/CAMによるセラミックス成形法の概要を説明できる。 2. 付加製造技術について説明できる。 3. CAD/CAMで使用できる材料を説明できる。 [必修13セfg、総論VIII-7エ、各論IV-3ウbc] 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。
講義	7/21 (火)	3	武本真治教授 (医療工学講座)	義歯用材料とその成形方法 義歯床用材料、特にアクリルレジンについて学ぶ。 アクリルレジンの重合ならびに熱可塑性レジンの成形法について学ぶ。	1. アクリルレジンの粉液成分と役割を説明できる。 2. 歯科臨床におけるアクリルレジンの重合方法の違いを説明できる。 3. アクリルレジンの加熱重合と常温重合の共通点と相違点を説明できる。 4. 加熱重合レジンと常温重合レジンの物性比較ができる。 5. 熱可塑性レジンの成分と特徴を説明できる。 [必修13セfg、総論VIII-6ア, 7ア, 7エ、各論IV-4ウef, 5ウcd] 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。
講義	7/28 (火)	3	武本真治教授 (医療工学講座)	インプラント材料、矯正歯科用材料、歯周治療用材料 インプラント材料、矯正歯科用材料、歯周治療用材料について学ぶ	1. 歯科用インプラントに用いられる材料の種類と特徴を説明できる。 2. 矯正歯科に用いられる材料の種類と特徴を説明できる。 3. 歯周治療に用いられる材料の種類と特徴を説明できる。 [必修13セij、総論VIII-10, 11] 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

講義	8/4 (火)	2	武本真治教授 (医療工学講座)	修復物、補綴装置の研磨 修復物の研磨に用いる道具とその構造を学ぶ	1. 修復物、補綴装置の研磨に用いる道具を説明できる。 2. 修復物、補綴装置の研磨の手順を説明できる。 3. 歯科理工学の弱点領域について説明できる。 [必修13セb、総論VIII-2] 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。
----	------------	---	--------------------	--	--

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/17 (火)	2・3	服部雅之客員教授	歯科理工学の基本的事項 歯科理工学の頻出問題に対応できるようになるために歯科材料の基本的知識を整理する。	1. 歯科理工学の頻出問題を解くための歯科材料の基本的知識について説明できる。 [必修13セ、総論VIII] 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートに関連項目に目を通して講義に臨むこと（15分程度）。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する（60分程度）。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	武本真治教授 (医療工学講座)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	武本真治教授 (医療工学講座)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/23 (火)	4	武本真治教授 (医療工学講座)	歯科理工学の基本的事項のレベルアップ 復習試験と模擬試験から弱点の抽出とその理解を深める。	1. 復習試験および模擬試験から弱点を抽出することができる。 [必修13セ、総論VIII] 事前学習：復習試験、模擬試験の問題を見直しておく(30分程度)。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する(60分程度)。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/27 (火)	4	武本真治教授 (医療工学講座)	歯科理工学の必修強化 歯科理工学の必修問題に対応する項目を整理する。	1. 歯科理工学の必修問題を解くための基本事項を説明できる。 [必修13セ、総論VIII] 事前学習：復習試験、模擬試験の問題を見直しておく(30分程度)。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する(60分程度)。
講義	11/17 (火)	4	服部雅之客員教授	歯科理工学の基本的事項 歯科理工学の頻出問題に対応できるようにするために歯科材料の基本的知識を整理する。	1. 歯科理工学の頻出問題を解くための歯科材料の基本的知識を理解できる。 [必修13セ、総論VIII] 事前学習：復習試験、模擬試験の問題を見直しておく(30分程度)。 事後学修：DESSの関連項目、復習試験問題の確認を行い、各自不足している知識を補完する(60分程度)。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：法歯科医学・災害歯科医学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	3/31 (火)	4 前半	熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	法歯学・災害口腔医学 領域の知識修得のため の対策 法歯学・災害口腔医学 の重要事項を理解でき る。	1. 歯科医師として必要な法歯学・ 災害口腔医学領域の理解すべき事項 を列挙できる。 2. 理解不十分な領域を認識でき る。 [必修2-イ-a][必修2-ウ-a、b][必修 2-カ-a、g][必修2-ク-a、b][必修2- サ-c、d][総論Ⅰ-1-エ-i、j][総論 Ⅰ-1-オ-h][総論Ⅰ-2-ア-g][総論Ⅰ -3-ア-a、b、c][総論Ⅲ-3-ア、イ] 事前学修：国家試験の法歯学・災害 口腔医学領域の過去問を見直してお くこと。所要時間30分程度。 事後学修：不明点について知識の補 充を行うこと。所要時間30分程度。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	7/1 (水)	3	熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	災害歯科保健医療 災害時の歯科医師の役 割を理解できる。	1. 災害医療に関わる法律について 説明できる。 2. 平時と災害時の歯科医療の違い を説明できる。 3. 多職種による災害時対応の意義 を説明できる。 4. 災害傷病者のトリアージについ て説明できる。 5. 災害被災者や犠牲者に対する歯 科医師の役割を説明できる。 [必修2-ウ-a、b][総論Ⅰ-1-エ-i、 j][総論Ⅰ-1-オ-h] 事前学修：法歯科医学p181-194 を 読み、疑問点を抽出しておくこと。 所要時間30分程度。 事後学修：不明点について知識の補 充を行うこと。所要時間45分程度。

講義	7/8 (水)	3	熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	法歯科医学 法科学領域における歯 科の役割と歯科的個人 識別の意義を理解でき る。	1. 生活（生体）反応を説明でき る。 2. 死後変化を説明できる。 3. 身元確認、死因究明に関する法 律を説明できる。 4. 歯科的個人識別法を説明でき る。 5. 身元不明死体の年齢推定方法を 説明できる。 6. 性別鑑定に必要な所見を説明で きる。 7. 虐待防止に関する法律を説明で きる。 8. 被虐待者の特徴を説明できる。 9. 歯科医師にできる虐待の早期発 見と防止、虐待を疑った際の対応を 説明できる。 [必修2-カ-a、g][必修2-サ-c、 d][総論Ⅰ-2-ア-g][総論Ⅰ-3-ア- a、b、c] 事前学修：法歯科医学p17-25, p38- 40, p54-64, p83-87, p100-129, p134-145, p156-167を読み、疑問点 を抽出しておくこと。所要時間30分 程度。 事後学修：不明点について知識の補 充を行うこと。所要時間45分程度。
----	------------	---	--	--	---

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/18 (水)	2	熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	法と歯科学 法律と歯科医療を理解 できる。	1. 歯科医師の法的責任を説明でき る。 2. 正当行為と不法行為を説明でき る。 3. 医療事故調査制度を説明でき る。 4. 医療事故・過誤を説明できる。 5. 死体解剖について説明できる。 6. 死因究明等の推進制度を説明で きる。 7. 死の判定について説明できる。 [必修2-イ-a][必修2-カ-a、b、 g][必修2-ク-a、b][必修2-サ-c、 d][総論Ⅰ-3-a][総論Ⅲ-3-ア、イ] 事前学修：法歯科医学p6-16, p195- 220を読み、疑問点を抽出しておく こと。所要時間30分程度。 事後学修：不明点について知識の補 充を行うこと。所要時間45分程度。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	第1回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/18 (水)	4	熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	弱点領域の強化 法医学、法歯学領域の 知識を強化する。	1. 法医学、法歯学領域に関する専門 用語の再確認と弱点の見直しをし、 過去の試験を確実に解答することが できる。 [総論Ⅰ-3-ア-a、b、c] [総論Ⅲ-3- ア、イ] 事前学修：法医学、法歯学について 4年次に使用したレジメ、講義ノー ト、過去5年間の国家試験問題につ いて再確認してから講義に臨むこ と。所要時間30分程度。 事後学修：不明点について知識の補 充を行うこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯内療法学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	3/31 (火)	3 前半	相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	保存修復・歯内療法領域問題 保存修復・歯内療法領域の必修・一般・臨床実地問題について理解する。	試験解説講義を通して保存修復・歯内療法領域の問題を解くことができるようになる。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/22 (月)	3	野田 守教授 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分)	歯髄疾患、根尖性歯周炎疾患 歯髄疾患、根尖性歯周炎の病因病態、主要症候について理解する。	1. 歯髄疾患、根尖性歯周炎の病因、病態を説明できる。 2. 歯髄疾患、根尖性歯周炎の臨床的分類を説明できる。 3. 歯髄疾患、根尖性歯周炎の主要症候を説明できる。 [必修6-イ-b、7-イ-c、総論Ⅲ-2-ア-b] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/29 (月)	3	浅野明子准教授 (歯科保存学 う蝕治療学分野)	検査、診断 歯髄疾患、根尖性歯周炎の検査法、診断について理解する。	1. 歯髄、歯周組織の検査法を説明できる。 2. 検査に用いる器材等の特徴について説明できる。 3. 歯内特有の画像検査について説明できる。 4. 実態顕微鏡の特徴について説明できる。 5. 歯と歯髄腔の形態異常について説明できる。 [必修9-オ-a、総論Ⅵ-1-ア-b] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/16 (木)	3	東 兼司助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	歯髄保存療法 歯髄保存療法について理解する。	1. 待機的診断法について説明できる。 2. 歯髄保存の治療法について説明できる。 [各論Ⅱ-2-イ-a] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/23 (木)	3	東 兼司助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	歯内療法の基本的手技① 歯髄除去療法の基本的術式について理解する。	1. 歯髄除去の術式を説明できる。 2. 歯内療法に用いる器材について説明できる。 2. 根管形成について説明できる。 3. 根管の化学的清掃について説明できる。 4. 歯内の隔壁法、仮封について説明できる。 [各論Ⅱ-2-イ-b] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/30 (木)	3	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分)	歯内療法の基本的手技② 根管充填法の基本的術式について理解する。	1. 根管充填法の術式を説明できる。 2. 根管充填に用いる材料、器材について説明できる。 3. 根管充填後の治癒機転について説明できる。 4. 即時根管充填法について説明できる。 5. 再根管治療について説明できる。 [各論Ⅱ-2-イ-d] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

B 講義：臨実特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/1 (木)	3	浅野明子准教授 (う蝕治療学分野)	漂白方法 変色歯の漂白について理解する。	1. 変色歯の分類について説明できる。 2. 変色歯の漂白方法について説明できる。 3. 適応症、禁忌症、偶発症について説明できる。 [各論Ⅱ-1-ウ-f] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/8 (木)	1	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う蝕治療学分)	外傷歯、病的吸収 外傷歯、病的吸収について理解する。	1. 歯の外傷の病態について説明できる。 2. 歯の外傷の対処法について説明できる。 3. 内部吸収、外部吸収の病因、病態、対処法について説明できる。 [各論Ⅱ-2-ア-e、イ-h] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/8 (木)	2	東 兼司助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	緊急処置、根未完成歯、歯内一歯周疾患 歯内治療における緊急処置、根未完成歯、歯内一歯周疾患について理解する。	1. 根尖性歯周疾患の緊急処置について説明できる。 2. 急性歯髄炎の緊急処置について説明できる。 3. 疼痛に対する緊急処置について説明できる。 4. 根未完成歯の処置法について説明できる。 5. 歯内一歯周疾患の分類、臨床症状、治療法について説明できる。 [各論Ⅱ-2-イ-cf] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	10/8 (木)	3	野田 守教授 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分)	外科的歯内療法 外科的歯内療法について理解する。	1. 外科的歯内治療の適応症と種類について説明できる。 2. 外科的歯内治療の術式および治療機転、予後について説明できる。 【各論Ⅱ-2-イ-g】 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/15 (木)	1	東 兼司助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	根管治療手技の強化 根管治療の基本的術式について理解する。	1. 麻酔抜髄法、感染根管処置法の術式を説明できる。 2. 手用ファイル、ローターリーファイルの使用用について説明できる。 【各論Ⅱ-2-イ-bde】 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/15 (木)	2	東 兼司助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	高齢者の歯内療法 高齢者の歯内治療の特徴を理解する。	1. 高齢者の歯の形態的特徴を説明できる。 2. 象牙質・歯髄複合体の老化による変化を説明できる。 3. 高齢者の歯内治療の留意点を説明できる。 4. 彎曲根管へのアプローチ、治療法の留意点を説明できる。 【各論Ⅴ-6-ア】 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/15 (木)	3	浅野明子准教授 (う蝕治療学分野)	滅菌・消毒、歯内治療器具 歯科用機器の滅菌・消毒、歯内治療に用いる器具について理解する。	1. 歯内治療に用いる滅菌、消毒について説明できる。 2. スタンダードプレコーションについて説明できる。 3. 根管処置後の歯冠修復、歯冠漏洩について説明できる。 【必修11-エ-ad、11-ケ-b、総論Ⅶ-2-ア-b、各論Ⅱ-2-イ-d】 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/12 (木)	1 2	東 兼司助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	必修・一般の強化 復習試験、総合試験、 模擬試験の結果から弱 点領域を総合的に理解 する。	1. 歯内療法学の弱点項目を理解し説明できる。 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分)	第1回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/29 (月)	4	相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	歯髄保護療法 歯髄保存療法について理解する。	1. 待機的診断法について説明できる。 2. 歯髄保存に用いる薬剤について説明できる。 3. 歯髄保存療法の手順について説明できる。 [各論Ⅱ-2-ア-a] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/8 (木)	4	相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	歯髄疾患、根尖性歯周炎疾患 歯髄疾患、根尖性歯周炎の病因病態、主要症候について理解する。	1. 歯髄疾患、根尖性歯周炎の病因、病態を説明できる。 2. 歯髄疾患、根尖性歯周炎の臨床的分類を説明できる。 3. 歯髄疾患、根尖性歯周炎の主要症候を説明できる。 [必修6-イ-b、7-イ-c、総論Ⅲ-2-ア-b、総論Ⅳ-2-ア] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	10/15 (木)	4	相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	<p>偶発症と安全対策 歯内治療における偶発症と安全対策について理解する。</p>	<p>1. 穿孔の原因と対処法を説明できる。 2. 根管内の器具破折の原因と対処法を説明できる。 3. 誤飲、吸引の原因と対処法を説明できる。 4. 皮下気腫の原因と対処法を説明できる。 5. 歯性上顎洞炎の原因と対処法を説明できる。 6. 根管充填材の溢出の原因と対処法を説明できる。 7. 化学的損傷の原因と対処法を説明できる。</p> <p>[各論Ⅱ-2-イ-j] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、歯内療法学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
----	--------------	---	---------------------------------	--	--

総合講義（Ⅱ）講義日程表：保存修復学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	3/31 (火)	3 後半	相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分)	保存修復・歯内療法領域問題 保存修復・歯内療法領域の必修・一般・臨床 実地問題について理解する。	試験解説講義を通して保存修復・歯内療法領域の問題を解くことができるようになる。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	6/1 (月)	3	野田 守教授 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分)	歯に関する硬組織疾患① う蝕の病因病態、主要 症候について理解する。	1. う蝕の発生機序について説明できる。 2. う蝕のリスクファクターについて説明できる。 3. う蝕の進行形態について説明できる。 4. 急性齲蝕と慢性齲蝕について説明できる。 【必修6-I-a、7-I-b、総論Ⅲ-2-A-b】 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/8 (月)	3	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分)	歯に関する硬組織疾患② 非齲蝕性硬組織疾患の 病因病態、主要症候について理解する。	1. 非齲蝕性硬組織疾患の病因について説明できる。 2. tooth wear、象牙質知覚過敏症の病態について説明できる。 3. 非齲蝕性硬組織疾患の主要症候について説明できる。 【必修7-I-a、7-I-b】 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/18 (木)	3	相上雄亮助教 (歯科保存学う蝕治療学分野)	画像検査、検体検査 硬組織疾患の検査について理解できる。	1. 硬組織の検査法を列挙できる。 2. 硬組織の検査機器の特徴を説明できる。 【必修9-オ-a、11-カ-dc、総論VI-1-a】 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/25 (木)	3	野田 守教授 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	器具、機器、関連歯科材料 硬組織疾患治療に必要な機器、材料について理解する。	1. 切削器具について説明できる。 2. 光照射器について説明できる。 3. 成形修復材料について説明できる。 【必修11-セ-ce、総論Ⅷ-2-アイ、5-ア-ab、6-エ、8-アイウ】 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/2 (木)	3	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う蝕治療学分)	硬組織疾患の治療手技 硬組織疾患の治療の基本について説明できる。	1. 窩洞形成について説明できる。 2. 直接修復法と間接修復法の窩洞形態の違いについて説明できる。 【必修11-ケ-b、各論Ⅱ-1-ウ】 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

B 講義：臨実特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/7 (月)	1 2	浅野明子准教授 (歯科保存学講座う 蝕治療学分)	硬組織疾患の病因・病態 硬組織疾患の病因・病態について理解する。	1. ICDASについて説明できる。 2. エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕について説明できる。 3. う蝕の分類について説明できる。 4. tooth wearのの原因、病態について説明できる。 5. 象牙質知覚過敏症も原因、病態について説明できる。 [必修6-イ-a、7-イ-b, 総論Ⅲ-2-ア-b、Ⅳ-2-ア、Ⅶ-2-a、各論Ⅱ-1-ア] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/14 (月)	1 2	野田 守教授 高満正宜助教 (歯科保存学講座う 蝕治療学分)	硬組織疾患の治療 硬組織疾患の治療法について理解する。	1. 補助法について説明できる。 2. 直接修復法(窩洞形成、充填、研磨)について説明できる。 3. 間接修復法(窩洞形成、印象、仮封、装着)について説明できる。 4. ベニア修復について説明できる。 [必修11-ケ-b、総論Ⅶ-2-ア-a、各論Ⅱ-1-ウ-abc] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/14 (月)	3	相上雄亮助教 (歯科保存学う蝕治療学分)	根面齲蝕 根面齲蝕の特徴、対処法について理解する。	1. 根面齲蝕の病因、病態について説明できる。 2. 根面齲蝕への対応が説明できる。 3. ARTについて説明できる。 [必修6-イ-b、7-イ-b、総論Ⅲ-2-ア-b、Ⅶ-1-ウ-c、各論Ⅱ-1-オ] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	9/28 (月)	2 3	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分)	硬組織疾患の予防管理 硬組織疾患の包括的な マネージメントについ て理解する。	1. MIDについて説明できる。 2. 歯質の石灰化について説明でき る。 3. フッ化物応用について説明でき る。 4. 非齲蝕性硬組織疾患の対処法を説 明できる。 5. 補修修復について説明できる。 6. 治療後のトラブル対応について説 明できる。 [各論Ⅱ-イ] 事前学修：WEB CLASSにアップした 講義資料を読んで、保存修復学の教 科書を確認すること。所要時間30分 程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
----	-------------	--------	---------------------------------	---	---

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/26 (木)	1 2	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分)	必修・一般の強化 復習試験、総合試験、 模擬試験の結果から弱 点領域を総合的に理解 する。	必修・一般の強化 復習試験、総合試験、模擬試験の結果 から弱点領域を総合的に理解す る。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分)	第1回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第6 学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	浅野明子准教授 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第6 学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/25 (木)	4	相上雄亮助教 (歯科保存学講座う 蝕治療学分野)	有病者・高齢者での治療 有病高齢者の治療について理解する。	1. 高齢者、有病者の診療時の留意点を説明できる。 2. 高齢者の口腔内の特徴を説明できる。 3. 高齢者の保存修復処置を説明できる。 [各論Ⅱ-1-オ] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/14 (月)	4	相上雄亮助教 (歯科保存学講座う 蝕治療学分野)	補修修復 補修修復について理解する。	1. 補修修復に用いる処理剤を説明できる。 2. 補修修復の手順について説明できる。 [各論Ⅱ-1-ウ-e] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/28 (月)	4	相上雄亮助教 (歯科保存学講座う 蝕治療学分野)	間接修復 間接修復法について理解する。	1. メタルインレーの装着手順を説明できる。 2. コンポジットレジン、セラミックインレーの装着手順を説明できる。 3. 装着の際の修復体内面、歯質の処理剤を説明できる。 [各論Ⅱ-1-ウ-b] 事前学修：WEB CLASSにアップした講義資料を読んで、保存修復学の教科書を確認すること。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯周病学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/1 (水)	2	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	歯周療法学領域の国家試験の傾向と勉強法 歯周領域の国家試験問題を理解し、勉強法を見つけることができる。	1. 歯周領域に求められる学力の水準を説明できる。 2. 歯周領域の演習問題の理解ができる。 3. 自分にあった勉強法を修得できる。 [必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア・イ・ウ・エ] 事前学修：3年次で使用したレジメ, 講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/1 (月)	1	村井 治講師 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	歯周病の概念 歯周病のリスクファクター, 疫学, 歯周医学, ライフステージ, 特殊な歯周疾患の対応を理解する。	1. 歯周病のリスクファクターを説明できる。 2. 歯周病の疫学を説明できる。 3. ペリオドンタルメディシンを説明できる。 4. 歯周領域におけるライフステージを説明できる。 5. 特殊な歯周疾患を説明できる。 [必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 総論Ⅰ-6-エ-b, 総論Ⅱ-8-イ-c, 総論Ⅲ-1-キ-a・b, 総論Ⅳ-2-イ, 各論Ⅱ-3-ア-a・b] 事前学修：3年次で使用したレジメ, 講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/1 (月)	2	村井 治講師 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	特殊な治療法 (歯周病) 急性症状を呈する歯周組織、歯周-歯内病変、根分岐部病変の治療法や局所薬物療法、レーザーを用いた治療を理解する。	1. 歯周-歯内病変を説明できる。 2. 根分岐部病変の治療法を説明できる。 3. 局所薬物療法を説明できる。 4. レーザーによる治療を説明できる。 5. 象牙質知覚過敏の治療法を説明できる。 6. 急性症状を呈する歯周組織の治療法を説明できる。 [必修3-ウ-c, 必修4-イ-c, 必修7-イ-d, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-2-ア-b, 総論Ⅳ-2-ア, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 総論Ⅶ-8-ア-b, 総論Ⅶ-9-エ, 各論Ⅱ-3-ア-g, 各論Ⅱ-3-イ-c, 各論Ⅱ-3-ウ-a・b・g・i] 事前学修：3年次で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/9 (火)	1	鈴木啓太助教 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	検査・診断からの歯周基本治療 歯周病の検査・診断から歯周基本治療までを理解する。	1. 歯周病の診察と検査を説明できる。 2. 歯周病の分類と診断を説明できる。 3. 応急処置を説明できる。 4. プラークコントロールを説明できる。 5. SRPを説明できる。 6. 咬合調整, 暫間固定を説明できる。 7. 再評価を説明できる。 [必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-カ-b, 総論Ⅳ-2-ア, 総論Ⅴ-1-ア・イ, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア-d-e, 各論Ⅱ-3-ウ-a・b・c・i] 事前学修：3年次で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/9 (火)	2	鈴木啓太助教 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	口腔機能回復治療から定期管理 (歯周病) 口腔機能回復治療からメンテナンス・SPT, 予防管理までを理解する。	1. 口腔機能回復治療を説明できる。 2. メンテナンスを説明できる。 3. SPTを説明できる。 4. 予防管理を説明できる。 [必修3-ウ-c, 必修7-イ-d, 必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-カ-b, 総論Ⅳ-2-ア, 総論Ⅴ-1-ア・イ, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-イ-a・b・c・e, 各論Ⅱ-3-ウ-h・j] 事前学修：3年次で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/16 (火)	1	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	歯周外科治療1 (ポケット除去) 歯周外科治療の概念と歯周外科治療のポケットの治療法である組織付着療法, 切除療法を理解する.	1. 歯周外科治療の概念を説明できる. 2. 仮性ポケットと真性ポケットの違いを説明できる. 3. 骨縁下ポケットの種類を説明できる. 4. 歯周外科治療の目的と基本事項を説明できる. 5. 組織付着療法を説明できる. 6. 切除療法を説明できる. [必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a-b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 総論Ⅷ-11-エ・オ, 各論Ⅱ-3-ウ-d] 事前学修: 3年次で使用したレジメ, 講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修: 講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/16 (火)	2	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	歯周外科治療2 (歯周組織再生療法) 歯周組織再生療法の概念, 種類, 術式を理解する.	1. 歯周組織再生療法の概念を説明できる. 2. 骨移植術を説明できる. 3. GTR 法を説明できる. 3. エナメルマトリックスタンパク質の応用を説明できる. 4. FGF-2 製剤の応用を説明できる. [必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a-b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 総論Ⅷ-11-エ・オ, 各論Ⅱ-3-ウ-e] 事前学修: 3年次で使用したレジメ, 講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修: 講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

B 講義：臨床特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/8 (火)	1	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	臨床実地問題の解き方 (歯周病) 歯周領域の臨床実地問題の解き方を理解する.	1. 歯周病領域の臨床実地問題の主文, 副文のポイントを説明できる. 2. 歯周組織検査表, 口腔内写真, 術中写真, エックス線画像の診るべきポイントを説明できる. [必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a-b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア・イ・ウ] 事前学修: A講義、選抜講義で使用したレジメ, 講義ノートおよび教科書を把握してこること。また所要時間30分程度。 事後学修: 講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	9/8 (火)	2	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	<p>歯周領域の臨床実地問題対策①</p> <p>歯周外科治療（ポケット除去）に関連する臨床実地問題を理解する。</p>	<p>1. 臨床実地問題の歯周外科治療（ポケット除去：切除療法，組織付着療法，歯周組織再生療法）領域を確実に答えることができる。 [必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 総論Ⅷ-11-エ・オ, 各論Ⅱ-3-ウ-d・e] 事前学習：A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくる。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
講義	9/15 (火)	1	村井 治講師 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	<p>歯周領域の臨床実地問題対策②</p> <p>歯周-歯内病変、薬物療法，レーザー治療，特殊な歯周疾患に関連する臨床実地問題を理解する。</p>	<p>1. 臨床実地問題の歯周病領域にある特殊な治療法を確実に答えることができる。 [必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア-a・b・c・d・e・g, 各論Ⅱ-3-イ, 各論Ⅱ-3-ウ-a・c・i・k] 事前学習：A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくる。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
講義	9/15 (火)	2	村井 治講師 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	<p>歯周領域の臨床実地問題対策③</p> <p>歯周基本治療（象牙質知覚過敏，プラークコントロール）に関連する臨床実地問題を理解する。</p>	<p>1. 臨床実地問題の歯周基本治療（象牙質知覚過敏，プラークコントロール）を確実に答えることができる。 [必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア・イ, 各論Ⅱ-3-ウ-a・b・c] 事前学習：A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくる。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>

講義	9/29 (火)	1	八重柏隆客員教授 佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 周療法学分野) 歯	<p>歯周形成外科の基本と歯周領域の臨床実地問題対策④</p> <p>歯周外科治療（歯周形成手術）に関連する基本となる知識と臨床実地問題を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周形成外科の種類を説明できる。 2. 遊離歯肉移植術を説明できる。 3. 結合組織移植術を説明できる。 4. 歯肉弁側方移動術を説明できる。 5. 歯肉弁根尖側移動術を説明できる。 6. 歯肉弁歯冠側移動術を説明できる。 7. 口腔前庭拡張術他を説明できる。 8. 臨床実地問題の歯周外科治療（歯周形成外科）領域を確実に答えることができる。 <p>[必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ウ-f]</p> <p>事前学修：3年次で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
講義	9/29 (火)	2	八重柏隆客員教授 佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 周療法学分野) 歯	<p>歯周領域の臨床実地問題対策⑤</p> <p>根分岐部病変に関連する臨床実地問題を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実地問題の根分岐部病変の治療法を確実に答えることができる。 <p>[必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ウ-g]</p> <p>事前学修：A講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
講義	9/29 (火)	3	八重柏隆客員教授 佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 周療法学分野) 歯	<p>歯周領域の臨床実地問題対策⑥</p> <p>歯周病領域に関連する頻出傾向にある臨床実地問題を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実地問題の歯周病領域における頻出問題を確実に答えることができる。 <p>[必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 総論Ⅷ-11-エ・オ, 各論Ⅱ-3-ア・イ・ウ・エ]</p> <p>事前学修：3年次、A講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>

講義	10/6 (火)	1	鈴木啓太助教 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	<p>歯周領域の臨床実地問題対策⑦</p> <p>歯周基本治療 (SRP, 咬合) に関連する臨床実地問題を理解する。</p>	<p>1. 臨床実地問題の歯周基本治療 (SRP, 咬合) を確実に答えることができる。</p> <p>[必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア-d・e, 各論Ⅱ-3-ウ-a・b]</p> <p>事前学習: A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくる。所要時間30分程度。</p> <p>事後学修: 講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
講義	10/6 (火)	2	鈴木啓太助教 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	<p>歯周領域の臨床実地問題対策⑧</p> <p>口腔機能回復治療に関連する臨床実地問題を理解する。</p>	<p>1. 臨床実地問題の口腔機能回復治療領域を確実に答えることができる。</p> <p>[必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア-h, 各論Ⅱ-3-ウ-h]</p> <p>事前学習: A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくる。所要時間30分程度。</p> <p>事後学修: 講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
講義	10/6 (火)	3	鈴木啓太助教 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	<p>歯周領域の臨床実地問題対策⑨</p> <p>メンテナンス・SPT, 予防管理に関連する臨床実地問題を理解する。</p>	<p>1. 臨床実地問題のメンテナンス・SPT, 予防管理を確実に答えることができる。</p> <p>[必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア-h, 各論Ⅱ-3-イ, 各論Ⅱ-3-ウ-i・j・k]</p> <p>事前学習: A講義、選抜講義で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してくる。所要時間30分程度。</p> <p>事後学修: 講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/10 (火)	1	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	必修対策(歯周)① 歯周疾患, その検査・診断までの基本的な考え方を理解する。	1. 歯周疾患を説明できる。 2. 歯周病の検査, 診断を説明できる。 [必修3-ウ-c, 必修4-イ-c, 必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 必修7-ウ-h, 必修8-キ-c, 必修9-ア-a, b, 必修9-オ-b] 事前学習: A講義, B講義, 選抜講義で使用したレジメ, 講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修: 講義で理解が不十分であった箇所について, 講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	11/10 (火)	2	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	必修対策(歯周)② 歯周疾患の治療について基本的な考え方を理解する。	1. 歯周病治療の基本をを説明できる。 [必修11-ア-b, 必修11-ケ-d] 事前学習: A講義, B講義, 選抜講義で使用したレジメ, 講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修: 講義で理解が不十分であった箇所について, 講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	鈴木啓太助教 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修: 試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修: 試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	第2回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修: 試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修: 試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/1 (月)	4	村井 治講師 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周領域における弱点 補強① 歯周領域の弱点を補強 する.	1. 歯周領域における基本事項を確認し、基本的知識を補強する. 2. ビスフォスホネート関連顎骨壊死と歯周病治療の関係を説明できる. [必修6-イ-c-q, 必修7-イ-d, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a-b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア-イ-ウ-エ] 事前学修: 3年次で使用したレジメ, 講義ノートおよび教科書を把握して くること。所要時間30分程度。 事後学修: 講義で理解が不十分で あった箇所について、講義資料や教 科書を用いて知識を整理しておくこ と。所要時間45分程度。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/6 (火)	4	八重柏隆客員教授 佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	歯周領域における弱点 補強② 歯周領域の弱点を補強 する.	1. 歯科医師国家試験において歯周 領域で頻出する歯周外科治療 (ポ ケット除去) の基本知識を補強す る。 2. 歯科医師国家試験において歯周 領域で頻出する歯周外科治療 (歯周 形成外科) の基本知識を補強する。 3. 歯科医師国家試験において歯周 領域で頻出する根分岐部病変の病 態、治療法の基本知識を補強する。 [必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 必修9-オ -b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a- b, 総論Ⅳ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア-イ-ウ-エ] 事前学修: 3年次、A講義で使用した レジメ, 講義ノートおよび教科書を 把握してくること。所要時間30分程 度。 事後学修: 講義で理解が不十分で あった箇所について、講義資料や教 科書を用いて知識を整理しておくこ と。所要時間45分程度。

講義	10/7 (水)	4	相原恵子助教 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	<p>歯周領域における弱点補強③</p> <p>歯周領域の弱点を補強する。</p>	<p>1. 試験結果から見た歯周領域の弱点となっている基本的知識を補強する。</p> <p>2. 歯科関係者と多職種との連携について説明できる。</p> <p>[必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア・イ・ウ・エ]</p> <p>事前学修：3年次、A講義で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。</p> <p>事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
----	-------------	---	-----------------------------	--	---

総合講義（Ⅱ）講義日程表：冠橋義歯学・口腔インプラント学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	4/1 (水)	3 前半	今 一裕教授 (歯科補綴学講座 冠 橋義歯・口腔インプ ラント学分野)	歯科補綴学領域の国家 試験の傾向と勉強法 国家試験の解説と傾向 を理解する。	1. 今春の国家試験で問われたイン プラント域の歯科医師に必要な知識 を説明できる。 【IV-6, 8】 事前学習30分、事後学習45分と設定 し、昨年度の国家試験を教科書、レ ジメ、講義ノートを用いて見直す。
講義	4/1 (水)	3 後半	深澤 翔太准教授 (歯科補綴学講座 冠 橋義歯・口腔インプ ラント学)	歯科補綴学領域の国家 試験の傾向と勉強法 歯科補綴学領域の国家 試験問題を理解し、勉 強法を見つけることが できる。	1. 今春の歯科補綴学領域の国家試 験問題を通して傾向を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つける ことができる。 【IV-1, 2, 3, 8】 事前学習30分、事後学習45分と設定 し、昨年度の国家試験を教科書、レ ジメ、講義ノートを用いて見直す。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	6/24 (水)	1	今 一裕教授 (歯科補綴学講座 冠 橋義歯・口腔インプ ラント学分野)	クラウンブリッジの前 処置 前処置に関する知識を 深め整理できる。	1. 講義を通してクラウンブリッジに よる補綴に必要な前処置に関連する 問題を解くことができるようになる。 【IV-3-イ-a】 事前学習30分、事後学習45分と設定 し、4・5年次に使用したレジメ、講 義ノートに目を通して講義に臨むこ と。また、教科書の該当項目にも目 を通すこと。
講義	6/24 (水)	2	福德 暁宏講師 (歯科補綴学講座 冠 橋義歯・口腔インプ ラント学)	支台歯形成 クラウンの種類と支台 歯形成に関する知識を 深め整理できる。	1. 講義を通してクラウンの種類とそ の支台歯形成法に関連する問題を解 くことができるようになる。 【IV-3-イ-b】 事前学習30分、事後学習45分と設定 し、4・5年次に使用したレジメ、講 義ノートに目を通して講義に臨むこ と。また、教科書の該当項目にも目 を通すこと。
講義	7/1 (水)	1	福德 暁宏講師 (歯科補綴学講座 冠 橋義歯・口腔インプ ラント学)	支台築造 支台築造に関する知識 を深め、整理できる。	1. 講義を通して支台築造に関連する 問題を解くことができるようになる。 【IV-3-イ-c, e】 事前学習30分、事後学習45分と設定 し、4・5年次に使用したレジメ、講 義ノートに目を通して講義に臨むこ と。また、教科書の該当項目にも目 を通すこと。

講義	7/1 (水)	2	深澤翔太准教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	精密印象採得 印象採得方法に関する知識を深め、整理できる。	1. 講義を通してクラウンブリッジの印象採得に関連する問題を解くことができるようになる。 [IV-3-イ-d] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	7/15 (水)	1	深澤 翔太准教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	顎間関係記録 咬合採得に関する知識を深め、整理できる。	1. 講義を通してクラウンブリッジの咬合採得に関連する問題を解くことができるようになる。 [IV-3-イ-f] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	7/15 (水)	2	深澤 翔太准教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	作業模型製作と咬合器装着 作業模型製作と咬合器装着に関する知識を深め、整理できる。	1. 講義を通して作業模型の製作法、咬合器装着に関連する問題を解くことができるようになる。 [IV-3-ウ-a] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	7/22 (水)	1	横田 潤講師 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	ワックスパターン形成 ワックスパターン形成法に関する知識を深め、整理できる。	1. 講義を通してワックスパターン形成法に関連する問題を解くことができるようになる。 [IV-3-ウ-a] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	7/22 (水)	2	横田 潤講師 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	埋没、鑄造、研磨 埋没・鑄造・研磨に関する知識を深め整理できる。	1. 講義を通してクラウンの埋没、鑄造、研磨に関連する問題を解くことができるようになる。 [IV-3-ウ-a] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	7/29 (水)	1	八戸 勇樹助教 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	口腔内試適、調整、装着 口腔内試適・調整法に関する知識を深め、整理できる。	1. 講義を通してクラウンの試適、調整、調整法に関連する問題を解くことができるようになる。 [IV-3-イ-h] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。

講義	7/29 (水)	2	福徳 暁宏講師 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	クラウンブリッジ領域における必修対策 クラウンブリッジ領域における必修問題等基礎的内容に関する知識を深め、整理できる。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきた必修問題でのクラウンブリッジ補綴顎領域に関する理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 [IV-3-ウ-b, c] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	8/5 (水)	1	齊藤 裕美子助教 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	前装金属冠の種類と特徴 前装冠の種類と製作過程に関する知識を深め、整理できる。	1. 講義を通して前装金属冠に関連する知識を深め問題を解くことができるようになる。 [IV-3-ウ-a, b, c] 事前学習：4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	8/5 (水)	2	齊藤 裕美子助教 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	下顎位・下顎運動 下顎運動に関する知識を深め、整理できる。	1. 講義を通して下顎運動に関連する問題を解くことができるようになる。 [IV-2-ア, イ, ウ, エ] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	8/19 (水)	1	今 一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	口腔インプラント臨床 口腔インプラントの診断およびインプラント体の材料について	1. 口腔インプラント治療の診断が説明できる。 [IV-6-ア-a, b, c] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	8/19 (水)	2	今 一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	口腔インプラント臨床 診断用ステントから治療計画立案のながれについて。シミュレーションによる治療計画も理解する。	1. 口腔インプラント治療の診断が説明できる。 [IV-6-イ-a, b] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。

B 講義：臨実特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/30 (水)	1	今 一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	口腔インプラントの臨床 口腔インプラント治療の骨移植および1次手術を理解する。	1. 口腔インプラントの一次手術およびコンピューター支援手術、骨造成法の付随手術について説明することができる。 [IV-6-ウ-a] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	9/30 (水)	2	今 一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	口腔インプラントの臨床 口腔インプラントの外科術式および2次手術を理解する。	1. 口腔インプラントの二次手術および軟組織移植の付随手術について説明することができる。 [IV-6-ウ-b] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/7 (水)	1	齊藤 裕美子助教 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	ブリッジの種類(接着ブリッジを含む)とポンティック 接着ブリッジを含む固定性補綴装置のブリッジに関する特徴ならびに基底面に関する知識を深め整理できる。	1. 講義を通してブリッジの種類に関連する問題を解くことができるようになる。 2. 接着Brに関連する知識を深め、問題を解くことができるようになる。 [IV-3-ウ-a] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/7 (水)	2	福德 暁宏講師 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	ろう着 Br.の連結法 ブリッジの連結法(ろう付け)に関する知識を深め整理できる。	1. 講義を通してブリッジに関連する材料の知識を深め、問題を解くことができるようになる。 [IV-3-ウ-a] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/14 (水)	2	今 一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	口腔インプラント臨床インプラント補綴 総論 インプラントの補綴術式を理解する。	1. インプラントの上部構造の印象採得と咬合採得について説明できる。 2. プロビジョナルレストレーションの意義を荷重時期について説明できる。 [IV-6-ウ-c, d, e] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。

講義	10/14 (水)	3	今 一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	口腔インプラント臨床インプラント補綴 総論 インプラントの補綴術式を理解する。	1. インプラント最終上部構造の製作手順について説明できる。 2. インプラントインプラント最終上部構造の構造、固定方法、装着について説明することができる。 [IV-6-ウ-f, g, エ-a, b, c, d] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/21 (水)	2	佐々木 溪斗助教 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	口腔インプラント臨床インプラントの指導と管理 インプラント治療後のメンテナンスについて理解する。	1. インプラント周囲粘膜炎、インプラント周囲炎についての理解ならびにその支持療法について説明することができる。 [IV-6-ウ-f, g, エ-a, b, c, d] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/21 (水)	3	横田 潤講師 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	CAD/CAMとセラミッククラウン セラミッククラウンの基本事項に関する知識を深め整理できる。	1. 講義を通してセラミッククラウンの基本事項に関する問題を解くことができるようになる。 [IV-3-イ-g, IV-3-ウ-b, c] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/28 (水)	2	今 一裕教授 星 美貴助教 島崎伸子先生 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	顎補綴対策 顎義歯の特徴、適応、製作方法を理解する。	1. 顎義歯の適応症およびその病態を説明できる。 2. 顎義歯の特徴を説明できる。 [IV-7-ア, イ, ウ, エ, オ] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。
講義	10/28 (水)	3	田邊 憲昌 非常勤講師 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	スポーツ歯科の臨床 スポーツなどによる外傷や予防法について理解する。	1. スポーツなどによる外傷や予防法について説明することが出来る。 [I-4-オ, III-5-イ-d] 事前学習30分、事後学習45分と設定し、4・5年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。また、教科書の該当項目にも目を通すこと。

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	12/2 (水)	1	近藤 尚知 非常勤講師 (愛知学院大学)	弱点領域の強化⑦ CAD/CAM冠のポイント クラウンブリッジ補綴学領域について知識を強化できる。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきたクラウンブリッジ補綴顎領域に関する理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 【IV-3-ウ-b, c】
講義	12/2 (水)	2	近藤 尚知 非常勤講師 (愛知学院大学)	口腔インプラント治療とデジタル技術 インプラント治療に应用されているデジタル技術との関連を整理する。	1. 近年発達してきたデジタル技術とインプラント治療との関連を理解し、説明できる。 2. 光学印象を応用した印象採得や技工ステップの流れを理解し、説明できる。 【D-5-3-3-6】

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	※	※	深澤 翔太准教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 【出題された問題による】 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。
講義	※	※	福德 暁宏講師 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 【出題された問題による】 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	※	※	深澤 翔太准教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	第2回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 【出題された問題による】 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

講義	※	※	今 一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。
----	---	---	--------------------------------------	---	--

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/17 (水)	4	星 美貴助教 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	5年次臨床試験、必修・臨床試験、復習試験、模擬試験問題の解説&関連講義 復習試験の解説と関連釘によって弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. クラウンブリッジ補綴学、顎顔面補綴学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [IV-1, 2, 3, 8] [IV-7-ア, イ, ウ, エ, オ]
講義	6/24 (水)	4	今 一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	5年次臨床試験、必修・臨床試験、復習試験、模擬試験問題の解説&関連講義 復習試験の解説と関連釘によって弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. インプラント補綴学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [IV-6, 8]

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/14 (水)	4	福德 暁宏講師 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学)	総合試験、復習試験、模擬試験、到達度試験結果問題の解説&関連講義 復習試験の解説と関連釘によって弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. クラウンブリッジ補綴学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [IV-1, 2, 3, 8]
講義	10/21 (水)	4	今 一裕教授 (歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	総合試験、復習試験、模擬試験、到達度試験結果問題の解説&関連講義 復習試験の解説と関連釘によって弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. インプラント補綴学領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [IV-1, 2, 3, 8]

講義	10/28 (水)	4	田邊 憲昌 非常勤講師 (歯科補綴学講座 冠 橋義歯・口腔インプ ラント学)	総合試験、復習試験、 模擬試験、到達度試験 結果問題の解説&関連 講義 復習試験の解説と関連 釘によって弱点を強化 して苦手分野について 理解を深める。	1. インプラント補綴学領域の中～ 高正答率問題を確実に答えることが できる。 [IV-6, 8]
----	--------------	---	--	---	--

総合講義（Ⅱ）講義日程表：有床義歯補綴学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/3 (金)	3 前半	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	歯科補綴学領域の国家試験の傾向と勉強法 歯科補綴学領域の国家試験問題を理解し、勉強法を見つけることができる。	1. 今春の歯科補綴学領域の国家試験問題をとおして傾向を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることができる。 [必修5, 6, 9, 11] [総論Ⅲ, V~Ⅷ] [各論Ⅳ, V] 事前学習：国家試験過去問題に目を通して講義に臨むこと。

A 講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/19 (火)	3	米澤 悠 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	全部床義歯① 知っておかなければいけない全部床義歯の基礎知識 無歯顎の病態と加齢に伴う変化を理解する。 無歯顎の印象採得を理解する。 様々な印象採得法を理解する。	1. 無歯顎の病態と加齢変化について説明できる。 2. 上下顎無歯顎の解剖学的ランドマークと圧負担域を図示できる。 3. 上下顎の筋圧形成に関わる筋を説明できる。 4. 筋圧形成の意義を説明できる。 5. 精密印象の目的と方法を説明できる。 6. いろいろな手法を用いた印象採得方法を説明できる。 [必修5-エ, 6-イ, 11-ケ, 11-セ] [総論Ⅲ-2, VII-2, VIII-3] 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目をとって講義に臨むこと。
講義	6/2 (火)	3	米澤 悠 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	全部床義歯② 知っておかなければいけない全部床義歯の基礎知識 顎間関係記録を理解する。 ゴシックアーチ描記法を理解する。	1. 咬合床の機能と仮想咬合平面の決定方法を説明できる。 2. 垂直的顎間関係の形態的、機能的な決定方法を説明できる。 3. 水平的顎間関係の記録方法を説明できる。 4. 咬合床に記入する標示線を説明できる。 5. ゴシックアーチ描記法を説明できる。 [必修9-オ, 11-ケ, 11-セ] [総論VI-1, VII-2, VIII-3, VIII-4] 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目をとって講義に臨むこと。

講義	6/9 (火)	3	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	全部床義歯③ 知っておかなければいけない全部床義歯の基礎知識 下顎運動と咬合器を理解する。 咬合器への模型装着・顎路調節を理解する。	1. 平均値咬合器と調節性咬合器について説明できる。 2. アルコン型とコンダイラー型咬合器について説明できる。 3. 下顎運動について説明できる。 4. 上下顎模型の装着方法を説明できる。 5. 顔弓と顔弓記録の基準点を説明できる。 6. 顔弓を使用する臨床的意義を説明できる。 7. 顎路の調節方法を説明できる。 [必修9-オ, 11-ケ, 11-セ] [総論VI-1, VII-2, VIII-3, VIII-4] 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目をとおして講義に臨むこと。
講義	6/16 (火)	3	米澤 悠 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	全部床義歯④ 知っておかなければいけない全部床義歯の基礎知識 人工歯排列を理解する。 ろう義歯試適における検査内容を理解する。	1. 人工歯選択基準（基本的な顔型、SPA要素、標示線、大きさ）を説明できる。 2. 前歯部排列方法を説明できる。 3. 垂直被蓋と水平被蓋について説明できる。 4. 臼歯部人工歯排列の基本原則を説明できる。 5. 歯槽頂間線法則、ニュートラルゾーン、パウンドライン、調節彎曲を説明できる。 6. ろう義歯試適時の検査項目を列挙できる。 7. 発音に関連する解剖学的・生理学的事項を説明できる。 [必修9-オ, 11-ケ, 11-セ] [総論VI-1, VII-2, VIII-4, VIII-6] [各論IV-5] 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目をとおして講義に臨むこと。
講義	6/23 (火)	1	原総一郎 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	部分床義歯① 知っておかなければいけない部分床義歯の基礎知識 歯の欠損による障害、欠損様式、義歯の分類を理解する。	1. 分類の必要性和臨床的意義を説明できる。 2. 1～3次性障害について説明できる。 3. 部分床義歯製作時の検査項目を説明できる。 [必修6-イ, 9-ア, 9-オ, 11-ケ] [総論III-2, VI-1, VI-2, VII-2] 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

講義	6/23 (火)	2	原総一郎 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	部分床義歯② 知っておかなければいけない部分床義歯の基礎知識 部分床義歯の支持・把持・維持機構を理解する。 部分床義歯の支台装置の選択と連結子の選択を理解する。	1. 部分床義歯の支持・把持・維持について説明できる。 2. 支台装置の一般的所要条件を説明できる。 3. 支台装置の種類、特徴、利点・欠点を説明できる。 4. 連結子の種類、特徴、利点・欠点を説明できる。 [必修11-ケ, 11-セ] [総論VII-2, VIII-6] 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	6/29 (月)	1	佐藤宏明 講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	部分床義歯③ 知っておかなければいけない部分床義歯の基礎知識 前処置・印象採得・オルタードキャスト法を理解する。 サベイングの目的と意義について理解する。 義歯の設計手順について理解する。	1. 部分床義歯の前処置を説明できる。 2. 部分床義歯の精密印象採得を説明できる。 3. オルタードキャストテクニックを説明できる。 4. サベイングの目的を説明できる。 5. サベイングの手順と意味を説明できる。 6. サベイングと義歯設計の関係を説明できる。 7. 義歯の設計手順を説明できる。 [必修9-オ, 11-ケ, 11-セ] [総論VI-1, VII-2, VIII-3, VIII-4] [各論IV-4] 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	6/29 (月)	2	佐藤宏明 講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	部分床義歯④ 知っておかなければいけない部分床義歯の基礎知識 部分床義歯の咬合採得・人工歯排列・蟬義歯試適を理解する。	1. 症例に応じた部分床義歯の咬合採得の特徴について説明できる。 2. 部分床義歯の人工歯排列について説明できる。 3. 部分床義歯のろう義歯試適について説明できる。 [必修11-ケ, 11-セ] [総論VII-2, VIII-6] 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	7/10 (金)	1	織田展輔 非常勤講師	部分床義歯⑤ 知っておかなければいけない部分床義歯の基礎知識 金属床義歯の製作過程を理解する。 様々な種類の義歯について理解する。	1. フレームワークの製作過程について説明できる。 2. 金属床義歯の特徴について説明できる。 3. オーバーデンチャーについて説明できる。 4. アタッチメントについて説明できる。 [必修11-ケ, 11-セ] [総論VII-2, VIII-3, VIII-4, VIII-6, VIII-7] [各論IV-4] 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

講義	7/10 (金)	2	織田展輔 非常勤講師	<p>全部・部分床義歯① 知っておかなければいけない有床義歯の基礎知識</p> <p>重合義歯の咬合器再装着と咬合調整について説明できる。</p>	<p>1. 咬合器再装着法について説明できる。 2. 咬合様式について説明できる。 3. 咬合調整について説明できる。 [必修11-ケ, 11-セ] [総論Ⅶ-2, Ⅶ-6] [各論Ⅳ-4, Ⅳ-5]</p> <p>事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。</p>
講義	7/10 (金)	3	織田展輔 非常勤講師	<p>全部・部分床義歯② 知っておかなければいけない有床義歯の基礎知識</p> <p>床義歯装着、装着後の短期的・長期的な変化と対応を理解する。</p>	<p>1. 義歯装着の基本的術式について説明できる。 2. 義歯装着後、短期的に生じる生体と材料の変化について説明できる。 3. 義歯装着後の短期予後の対応を説明できる。 4. 義歯装着後、長期経過後に生じる生体と材料の変化について説明できる。 5. 義歯装着後の長期予後の対応を説明できる。 [必修6-1, 11-ケ, 11-セ] [総論Ⅲ-2, Ⅶ-2, Ⅶ-6] [各論Ⅳ-2, Ⅳ-4, Ⅳ-5, Ⅳ-8]</p> <p>事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。</p>

B 講義：臨床特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/13 (火)	1	米澤 悠 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	<p>一般・臨床実地問題対策①</p> <p>義歯の設計・印象採得・作業用模型の製作と治療の流れを理解する。</p>	<p>1. 義歯の設計について説明できる。 2. 印象採得について説明できる。 3. 作業用模型の作製について説明できる。 [総論Ⅶ-2, Ⅶ-3, Ⅶ-4] [各論Ⅳ-5]</p> <p>事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。</p>
講義	10/13 (火)	2	米澤 悠 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	<p>一般・臨床実地問題対策②</p> <p>顎間関係の記録と咬合器装着と顎路調節の目的と治療の流れを理解する。</p>	<p>1. 顎間関係記録について説明できる。 2. フェイスボウトランスファーについて説明できる。 3. 咬合器装着と調節について説明できる。 [総論Ⅶ-2, Ⅶ-3, Ⅶ-4] [各論Ⅳ-5]</p> <p>事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。</p>

講義	10/13 (火)	3	原総一郎 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	一般・臨床実地問題対策③ 人工歯選択と排列・歯肉形成・ろう義歯試適の目的と治療の流れを理解する。	1. 人工歯選択と排列について説明できる。 2. ろう義歯試適について説明できる。 【総論Ⅶ-2, Ⅷ-4, Ⅷ-6】 【各論Ⅳ-5】 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/19 (月)	3	米澤 悠 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	一般・臨床実地問題対策④ 埋没重合・咬合調整・装着・患者指導の目的と治療の流れを理解する。	1. 埋没・重合について説明できる。 2. 咬合調整について説明できる。 3. 装着について説明できる。 4. 患者指導について説明できる。 【総論Ⅲ-2, Ⅶ-2, Ⅷ-4, Ⅷ-6, Ⅷ-7】 【各論Ⅳ-2, Ⅳ-5, Ⅳ-8】 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/20 (火)	1	佐藤宏明 講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	一般・臨床実地問題対策⑤ 構成要素とその役割・サベイングの目的と治療の流れを理解する。	1. 義歯の構成要素と役割について説明できる。 2. 印象採得について説明できる。 3. 義歯設計とサベイングについて説明できる。 【総論Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4】 【各論Ⅳ-2, Ⅳ-4】 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/20 (火)	2	佐藤宏明 講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	一般・臨床実地問題対策⑥ 前処置・印象採得・オルタードキャスト法を理解する。	1. 部分床義歯の前処置を説明できる。 2. 部分床義歯の精密印象採得を説明できる。 3. オルタードキャストテクニックを説明できる。 【総論Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4, Ⅷ-6】 【各論Ⅳ-4】 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/20 (火)	3	原総一郎 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	一般・臨床実地問題対策⑦ 金属床義歯の製作の流れを理解する。 様々な種類の義歯について理解する。	1. フレームワークの製作過程について説明できる。 2. 金属床義歯の特徴について説明できる。 3. ろう義歯試適について説明できる。 4. 様々な種類の義歯について説明できる。 【総論Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4, Ⅷ-6, Ⅷ-7】 【各論Ⅳ-4, Ⅳ-7】 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

講義	10/26 (月)	3	原総一郎 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	一般・臨床実地問題対策⑧ 義歯装着後のメンテナンス、リライン、修理の目的と治療の流れを理解する。	1. メンテナンスについて説明できる。 2. リラインについて説明できる。 3. 修理について説明できる。 【総論Ⅶ-2, Ⅷ-6】 【各論Ⅳ-4, Ⅳ-5, Ⅳ-8】 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/27 (火)	1	佐藤宏明 講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	一般・臨床実地問題対策⑨ 義歯製作において必要な技工手順および使用器材、材料を理解する。	1. 義歯製作における各治療手順において必要な技工操作について説明できる。 2. 技工操作時に用いる器材および使用材料について説明できる。 【総論Ⅶ-2, Ⅷ-3, Ⅷ-4, Ⅷ-6, Ⅷ-7】 【各論Ⅳ-4, Ⅳ-5】 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/27 (火)	2	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	臨床実地対策① こうやって解く！全部床義歯の臨床問題 全部床義歯症例への治療法と問題に対する対応を理解する。	1. 症例に対する治療法を説明できる。 2. 症例の問題点を挙げられる。 3. 症例の問題点への対応方法を説明できる。 【総論Ⅶ-2】 【各論Ⅳ-2, Ⅳ-5, Ⅳ-8】 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
講義	10/27 (火)	3	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	臨床実地対策② こうやって解く！部分床義歯の臨床問題 部分床義歯症例への治療法と問題に対する対応を理解する。	1. 症例に対する治療法を説明できる。 2. 症例の問題点をあげられる。 3. 症例の問題点への対応方法を説明できる。 【総論Ⅶ-2】 【各論Ⅳ-2, Ⅳ-4, Ⅳ-7, Ⅳ-8】 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

C 講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	12/1 (火)	1	米澤 悠 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	必修問題対策① 全部床義歯補綴学の基礎知識を整理し理解を深める。	1. 有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 【必修5, 6, 9, 11】 【総論Ⅶ-2,】 【各論Ⅳ-2, Ⅳ-5, Ⅳ-8】 事前学習：講義内容について教科書に目を通して講義に臨むこと。

講義	12/1 (火)	2	原総一郎 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	必修問題対策② 部分床義歯補綴学の基礎知識を整理し理解を深める。	1. 有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [必修5, 6, 9, 11] [総論Ⅶ-2,] [各論Ⅳ-2, Ⅳ-4, Ⅳ-7, Ⅳ-8] 事前学習：講義内容について教科書に目を通して講義に臨むこと。
----	-------------	---	--	--	---

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	第2回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/9 (火)	4	原総一郎 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	弱点強化① 各試験問題から見えた弱点を強化し、苦手分野について理解を深める。	1. 有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [必修5, 6, 9, 11] [総論Ⅲ, Ⅴ～Ⅷ] [各論Ⅳ, Ⅴ] 事前学習：講義内容について教科書とレジメに目をとおして講義に臨むこと。
講義	6/16 (火)	4	佐藤宏明 講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	弱点強化② 各試験問題から見えた弱点を強化し、苦手分野について理解を深める。	1. 有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [必修5, 6, 9, 11] [総論Ⅲ, Ⅴ～Ⅷ] [各論Ⅳ, Ⅴ] 事前学習：講義内容について教科書とレジメに目をとおして講義に臨むこと。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/20 (火)	4	原総一郎 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	弱点強化① 各試験問題から見えた弱点を強化し、苦手分野について理解を深める。	1. 有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [必修5, 6, 9, 11] [総論Ⅲ, V～Ⅷ] [各論Ⅳ, V] 事前学習：講義内容について教科書とレジメに目をとおして講義に臨むこと。
講義	10/26 (月)	4	佐藤宏明 講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	弱点強化② 各試験問題から見えた弱点を強化し、苦手分野について理解を深める。	1. 有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [必修5, 6, 9, 11] [総論Ⅲ, V～Ⅷ] [各論Ⅳ, V] 事前学習：講義内容について教科書に目を通して講義に臨むこと。
講義	12/1 (火)	4	米澤 悠 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	弱点強化③ 各試験問題から見えた弱点を強化し、苦手分野について理解を深める。	1. 有床義歯補綴学に関する中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [必修5, 6, 9, 11] [総論Ⅲ, V～Ⅷ] [各論Ⅳ, V] 事前学習：講義内容について教科書に目を通して講義に臨むこと。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：摂食嚥下・訪問・高齢者歯科学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	4/3 (金)	3 後半	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	歯科補綴学領域の国家試験の傾向と勉強法 歯科補綴学領域の国家試験問題を理解し、勉強法を見つけることができる。	1. 今春の摂食嚥下・訪問・高齢者歯科学領域の国家試験問題を通して傾向を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることができる。 【必修4, 7, 8, 9, 11】 【総論Ⅰ, Ⅱ, Ⅳ~Ⅶ】 【各論Ⅳ, Ⅴ】 事前学習：国家試験過去問題に目を通して講義に臨むこと。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	5/26 (火)	3	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	摂食嚥下リハビリテーション① 高齢者に対する様々なアセスメントを理解する。	1. 高齢者の日常生活動作を説明できる。 2. 高齢者の手段的日常生活動作を説明できる。 3. 高齢者の認知機能を説明できる。 4. 高齢者の運動機能を説明できる。 【必修8-イ, 8-エ】 【総論Ⅴ-1, Ⅴ-5, Ⅶ-1】 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p2~18を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	7/7 (火)	1	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	摂食嚥下リハビリテーション② 口腔機能の評価を理解する。 口腔機能低下症を理解する。	1. 口腔機能検査について説明できる。 2. 口腔機能低下症について説明できる。 【必修8-イ, 8-エ】 【総論Ⅳ-2, Ⅵ-1, Ⅶ-6】 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p130-155を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	7/27 (月)	1	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	摂食嚥下リハビリテーション③ 摂食嚥下機能と5期モデルを理解する。	1. 摂食嚥下に関与する解剖について説明できる。 2. 摂食嚥下のメカニズムについて説明できる。 3. 摂食嚥下機能と5期モデルについて説明できる。 【必修4-ア】 【総論Ⅱ-6】 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p20~49, 58~67, 70~110を読み、疑問点をまとめておくこと。

講義	7/27 (月)	2	小林琢也 教授 島田崇史 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	摂食嚥下リハビリテーション④ 摂食嚥下障害と検査法を理解する。	1. スクリーニング検査について説明できる。 2. 嚥下内視鏡検査について説明できる。 3. 嚥下造影検査について説明できる。 [必修9-ア, 9-オ, 11-シ] [総論VI-1] 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 130-155を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	8/4 (火)	1	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	摂食嚥下リハビリテーション⑤ 摂食嚥下障害の間接訓練について理解する。	1. 摂食嚥下障害に対する間接訓練法について説明できる。 [必修8-イ] [総論IV-2, V-5, VI-1, VII-6] [各論V-7] 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 170~174を読み、疑問点をまとめておくこと。

B講義：臨実特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/7 (月)	3	小林琢也 教授 島田崇史 助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	摂食嚥下リハビリテーション⑥ 摂食嚥下障害の直接訓練について理解する。	1. 摂食嚥下障害に対する直接訓練法について説明できる。 [総論IV-2, V-5, VI-1, VII-6] [各論IV-1, IV-8, V-1~4, V-7] 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 174~181を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	9/8 (火)	3	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	摂食嚥下リハビリテーション⑦ 摂食嚥下障害に対する口腔ケア法と高齢者の栄養管理法について理解する。	1. 摂食嚥下障害患者の口腔健康管理を説明できる。 2. 高齢者の栄養管理について説明できる。 [総論IV-2, V-5, VII-1, VII-6] [各論IV-1, IV-2, IV-8] 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 185~195を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	9/15 (火)	3	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	摂食嚥下リハビリテーション⑧ 摂食嚥下障害に対する歯科的対応・補綴的対応	1. PAP・PLPを説明できる。 2. 補綴的対応以外の歯科的対応について説明できる。 [総論VII-6] [各論IV-7, IV-8, V-6, V-7] 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 196~212を読み、疑問点をまとめておくこと。

C 講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/24 (火)	1	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	訪問歯科診療① 訪問歯科診療について理解する。	1. 訪問歯科診療を行う上での医療制度を説明できる。 2. 要介護高齢者の歯科治療時の注意点を説明できる。 3. 訪問診療に必要な機材を説明できる。 4. 在宅患者の全身評価ができる。 5. 医科担当医との情報交換ができる。 6. 介護職員との情報交換ができる。 7. 訪問診療を必要とする疾患を説明できる。 8. 訪問診療を必要とする疾患を持つ患者への対応を説明できる。 [総論 I-1, I-2, V-5, VII-1, VII-6] [各論 V-1, V-2, V-4, V-6, V-7, V-9] 事前学習：老年歯科医学、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学を読み、疑問点をまとめておくこと。
講義	11/24 (火)	2	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	摂食嚥下リハビリテーション⑨総論 訪問歯科診療②総論 高齢者歯科診療について理解する。	1. 高齢者歯科診療における対応について説明できる。 [総論 VII-1] [各論 V-1, V-2, V-4, V-6, V-7, V-9] DESS演習の準備をしておくこと。 歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 214～275を読み、疑問点をまとめておくこと。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	第2回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/26 (火)	4	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	試験問題の解説&関連講義 試験問題から見えた弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. 摂食嚥下リハビリテーション領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [必修4, 7, 8, 9, 11] [総論 I, II, IV ~ VII] [各論 IV, V] これまで受けた試験問題を復習しておくこと。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/10 (火)	4	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	試験問題の解説&関連講義 試験問題から見えた弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. 摂食嚥下リハビリテーション領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [必修4, 7, 8, 9, 11] [総論 I, II, IV ~ VII] [各論 IV, V] これまで受けた試験問題を復習しておくこと。
講義	11/24 (火)	4	小林琢也 教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	試験問題の解説&関連講義 試験問題から見えた弱点を強化して苦手分野について理解を深める。	1. 摂食嚥下リハビリテーション領域の中～高正答率問題を確実に答えることができる。 [必修4, 7, 8, 9, 11] [総論 I, II, IV ~ VII] [各論 IV, V] これまで受けた試験問題を復習しておくこと。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：口腔外科学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/2 (木)	5	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	口腔外科領域の試験の 傾向と勉強法 口腔外科領域の試験問 題を理解し、勉強法を 見つけることができ る。	1. 今春の口腔外科領域の試験問題を 通して傾向を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけるこ とができる。 [D-3-1~11]

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/22 (金)	1	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	口腔外科診断学1(主要 症候) 口腔外科疾患における 主要な症候を理解し、 診断に必要な知識を修 得する。	1. 主要な症候とその概略を説明でき る。 2. 主要な症候の原因、病理を説明で きる。 3. 主要な症候を有する主な疾患を列 挙できる。 [E-3-2-1, 2] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p26-44を参照し、レポート用紙半分 程度のレポートをWebClassにアップ ロードしておく。
講義	5/22 (金)	2	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	口腔外科診断学2(検査 法) 顎・口腔外科の診察に おいて必要な検査法を 修得する。	1. 基本的な検査法を上げ、その概略 を説明できる。 2. 基本的な検査法の臨床的意義が説 明できる。 3. 各臨床検査の基準値を述べ、異常 値の意味を説明できる。 [E-2-2-1, 2, 6] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p26-44を参照し、レポート用紙半分 程度のレポートをWebClassにアップ ロードしておく。
講義	5/22 (金)	3	秋本祐基助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	顎口腔の嚢胞 1顎嚢胞 2軟組織の嚢胞 口腔顎顔面領域に発生 する嚢胞の分類、発生 病因、診断、治療法を 修得する。	1. 顎骨および軟組織に発生する嚢胞 を分類し、それぞれの発生病因と臨 床症状、画像検査所見、病理組織所 見を述べ、治療法を概説できる。 2. 嚢胞に対する手術法および器具の 種類を列挙し用法を説明できる。 3. 術中、術後の偶発症と対処法を説 明できる。 [D-3-1-5-1, 2] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p272-291、378を参照し、レポート 用紙半分程度のレポートをWebClass にアップロードしておく。

講義	5/29 (金)	1	古城慎太郎講師 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	手術1 抜歯、難抜歯、歯根端 切除術、歯槽堤手術、 歯の再植・移植 抜歯を適切に実施する ために必要な知識を修 得する。	1. 抜歯の適応症と禁忌症を説明でき る。 2. 抜歯に必要な器具の用法と手技を 説明できる。 3. 抜歯の正常治癒経過および異常な 治癒経過とその対処法を説明でき る。 4. 埋伏歯の抜歯法を説明できる。 5. 歯根端切除術の適応症と禁忌症を 説明できる。 6. 歯槽堤整形術の適応症と手技を説 明できる。 7. 歯の移植・再植の適応症と手技を 説明できる。 8. 小帯に対する手術の適応症と手技 を説明できる。 [E-5-3-5-1 D-5-4-1, 2, 3, 5] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p484-506, 653-694を参照し、レ ポート用紙半分程度のレポートを WebClassにアップロードしておく。
講義	5/29 (金)	2	古城慎太郎講師 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	手術2 手術の基本手技 切開、縫合、止血、骨 切削などに用いる器具 について修得する。	1. 縫合の種類を列挙し、説明でき る。 2. 止血法の種類を列挙し、説明でき る。 3. メスの種類と特徴を列挙できる。 4. 縫合に必要な器材を列挙できる。 5. 止血に用いる器材を列挙できる。 6. 骨切削に用いる器具を列挙でき る。 7. 滅菌・消毒法について説明でき る。 [E-5-3-5-3, 4] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p493-506を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	6/5 (金)	1	秋本祐基助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	血液疾患 赤血球、白血球異常、 出血性素因 貧血や白血病の全身的 症状と口腔症状との関 連について修得する。 出血性素因に関する知 識を修得する。	1. 赤血球の異常を現す疾患を列挙で きる。 2. 貧血の症状と治療法を説明でき る。 3. 輸血、輸血製剤の種類について説 明できる。 4. 白血球の異常を現す疾患を列挙で きる。 5. 白血病の症状を説明できる。 6. 出血性素因を現す主要な疾患を列 挙できる。 7. 止血機能のスクリーニング検査項 目を列挙できる。 8. 主要な出血性素因の病因、病態、 治療法を説明できる。 9. 抗血栓療法について説明し適応疾 患を列挙できる。 10. 抗血栓療法薬を列挙できる。 [D-3-1-10-1] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p254-271を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。

講義	6/5 (金)	2	秋本祐基助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	口腔顔面痛と慢性疼痛 様々な口腔顔面痛なら びに心因性疾患につい て修得する。	1. 口腔顎顔面領域の疼痛の種類を列 挙できる。 2. 慢性疼痛と心因性病態との関連に ついて説明できる。 [D-3-1-9-1] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p341-361を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	6/19 (金)	1	川又慎介助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	顎関節疾患1・2 顎関節症 外傷、炎症、腫瘍 形態・機能異常 顎関節症の種類、原 因、症状、診断、治療 に関する知識を修得す る。 顎関節における形態と 機能異常、損傷、炎症 性疾患の原因、症状、 診断、治療に関する知 識を修得する。	1. 顎関節の構造を説明できる。 2. 顎関節の運動に関係する筋肉を説 明できる。 3. 顎関節の限界運動を説明できる。 4. 顎関節の形態と機能について説明 できる。 5. 顎関節疾患の種類と原因を列挙で きる。 6. 顎関節疾患の症状・診断法を概説 できる 7. 顎関節症の治療法を説明できる。 8. 主要な顎関節形態異常、機能異常 の種類、原因、症状、治療法を列挙 できる。 9. 顎関節損傷の種類、原因、症状、 治療法を列挙できる。 10. 顎関節の腫瘍、炎症性疾患の種 類、原因、症状、治療法を列挙でき る。 [D-3-1-7-1, 2] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p388-391、405-411を参照し、レ ポート用紙半分程度のレポートを WebClassにアップロードしておく。
講義	6/19 (金)	2	川又慎介助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	外傷1・2 歯の外傷・歯槽骨骨 折、顎骨骨折、軟組織 の損傷、創傷治療 歯の損傷および歯槽骨 骨折、顎顔面骨折の診 断法と治療について修 得する。	1. 歯の損傷の種類と特徴および治癒 過程を説明する。 2. 歯の損傷の診断と治療法を説明で きる。 3. 歯槽骨骨折の診断と治療法を説明 する。 4. 軟組織損傷について説明できる。 5. 創傷治療について説明できる。 6. 一般的な骨折の種類と特徴および 治癒過程を説明できる。 7. 顎顔面骨折の原因と種類を列挙で きる。 8. 上顎骨骨折、下顎骨骨折、頬骨・ 頬骨弓骨折および鼻骨骨折の症状と 検査法を列挙し、診断と治療法を説 明できる。 [D-3-1-2-1~5] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p149-157を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。

講義	6/26 (金)	1	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	顎口腔の腫瘍1 非歯原性良性腫瘍 腫瘍類似疾患 非歯原性良性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類を把握し、発生病因、臨床症状、病理組織像、診断、治療法を修得する。	1. 非歯原性良性腫瘍、腫瘍類似疾患の特徴と症状を説明できる。 2. 非歯原性良性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類、特徴、症状、診断および治療法を説明できる。 [D-3-1-6-1, 2] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	6/26 (金)	2	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	顎口腔の腫瘍2 癌腫、肉腫、悪性リンパ腫、悪性黒色腫 顎顔面口腔領域に発生する上皮性・非上皮性の悪性腫瘍に関する知識を修得する。	1. 非歯原性悪性腫瘍の分類について概説できる。 2. 悪性腫瘍の特徴について概説できる。 3. 腔癌の臨床症状を説明できる。 4. 口腔癌の各種画像所見を説明できる。 5. 口腔癌の病理組織像について説明できる。 6. 口腔癌の治療、予後について説明できる。 7. TNM分類について説明できる。 8. 口腔顎顔面領域に発症する主な悪性腫瘍を列挙できる。 9. 主な肉腫の種類を列挙できる。 10. 主な肉腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 11. 悪性リンパ腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 12. 悪性黒色腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 [D-3-1-6-3] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p341-365を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。
講義	7/3 (金)	1	川又慎介助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	口腔粘膜疾患 総論 口内炎およびアフタ性病変、感染症（ウイルス性疾患、特異性炎）口腔粘膜の解剖学的特徴について学習し、口内炎およびアフタ性病変に関する知識を修得する。 口腔内発症する感染症に関する知識を修得する。	1. 口腔粘膜の解剖学的構造について説明する。 2. 口内炎やアフタの成因、症状について説明できる。 3. 口内炎やアフタの治療法について説明できる。 4. 口腔粘膜に発症する感染症を列挙し、その特徴について説明できる。 5. 口腔粘膜に発症する感染症の治療法について説明できる。 [D-3-1-4-1, 2 D-3-1-10-3] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p214-234、243-251を参照し、レポート用紙半分程度のレポートをWebClassにアップロードしておく。

講義	7/3 (金)	2	川又慎介助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	口腔潜在的悪性疾患 口腔領域に発生する口 腔潜在的悪性疾患に関 する知識を修得する。	1. 口腔潜在的悪性疾患（前癌病変、 前癌状態）の概念を説明できる。 2. 口腔潜在的悪性疾患（前癌病変、 前癌状態）の種類を列挙できる。 3. 口腔潜在的悪性疾患（前癌病変、 前癌状態）の診断と治療法について 説明できる。 [D-3-1-6-5, 6] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p235-243、363-366を参照し、レ ポート用紙半分程度のレポートを WebClassにアップロードしておく。
講義	7/17 (金)	1	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	顎口腔の腫瘍3 唾液腺腫瘍の治療 唾液腺腫瘍の症状、診 断および治療法を修得 する。	1. 唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明で きる。 2. 唾液腺腫瘍の症状、検査および治 療法を説明できる。 3. 唾液腺の腫瘍性病変（良性腫瘍と 悪性腫瘍）の病理組織所見を説でき る。 [D-3-1-8-4] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p378-381を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	7/17 (金)	2	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	顎口腔の腫瘍4 化学療法、放射線療 法、その他の治療、緩和医療 顎顔面口腔領域に発生 する悪性腫瘍に対する 化学療法や免疫療法の 種類、適応について修 得する。	1. 悪性腫瘍の化学療法について概説 する。 2. 口腔悪性腫瘍に使用する化学療法 薬を列挙できる。 3. 化学療法薬の投与法を説明でき る。 4. 化学療法薬の副作用を説明でき る。 5. 放射線治療における副作用につい て説明できる。 6. 治療患者の口腔内管理、疼痛管理 について説明できる。 緩和医療について説明できる。 [D-3-1-6-3] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p341-361を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。

<p>講義</p>	<p>7/17 (金)</p>	<p>3</p>	<p>大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)</p> <p>先天異常・後天異常1 総論 顔面・口腔の裂奇形 先天性・後天性異常の 概念、成因、発生との 関連について理解し、 裂奇形に関する知識を 修得する。 口蓋裂患者への機能検 査を修得する。顎の異 常 顎の先天性・後天性異 常について理解し、顎 変形症に関する知識を 修得する。 顔面・口腔の裂奇形 先天性・後天性異常の 概念、成因、発生との 関連について理解し、 裂奇形に関する知識を 修得する。 口蓋裂患者への機能検 査を修得する。</p>	<p>1. 先天異常・後天異常の概念と成因 について説明できる。 2. 顔面・口腔の発生と先天異常との 関連について説明できる。 3. 裂奇形の種類を列挙できる。 4. 口唇裂の発生率、裂型、症状、治 療法を説明できる。 5. 口蓋裂の発生率、裂型、症状、治 療法を説明できる。 6. 主要な軟組織の異常と治療法を説 明できる。 7. 顎口腔に異常を現す主要な症候群 と系統的骨疾患を列挙し症状を説明 できる。 8. 主要な症候群と系統的骨疾患の診 断法を説明する。 [D-3-1-1-1, 2] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p126-137を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。</p>
<p>講義</p>	<p>7/24 (金)</p>	<p>1</p>	<p>大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)</p> <p>先天異常・後天異常2 軟組織の異常 顎・口腔に異常を現す 症候群と系統的骨疾患 先天性・後天性の軟組 織の異常ならびに顎・ 口腔に異常を現す症候 群と系統的骨疾患に関 する知識を修得する。</p>	<p>1. 主要な顎形態異常を列挙すること ができる。 2. 主要な顎変形症の症状を説明でき る。 3. 主要な顎変形症の診断法を説明で きる。 4. 主要な顎変形症の治療法を説明で きる。 [D-3-1-1-3] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p139-147を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。</p>

講義	7/24 (金)	2	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	顎口腔の炎症1・2 総論 蜂窩織炎 炎症の概念を理解し、 歯性感染症に関する知 識を修得する。 顎骨周囲組織の炎症お よび治療に必要な知識 を修得する。 歯周組織の炎症、顎骨 骨髓炎、薬剤関連顎骨 壊死、歯性上顎洞炎に 関する知識を修得す る。	1. 炎症の概念・種類を説明できる。 2. 炎症の症状、診断法、治療法を説明 できる。 3. 歯性感染症の概念を説明できる。 4. 歯性感染症の概念と感染経路を説明 できる。 5. 急性炎症と慢性炎症の差異を説明で きる。 6. 顎骨周囲・頸部の組織隙の位置を説 明できる。 7. 軟組織炎症の症状を説明できる。 8. 蜂窩織炎と膿瘍の違いを説明でき る。 9. 歯周組織の病態、症状、治療法を説 明できる。 10. 歯冠周囲炎(智歯周囲炎を含む)の 発症原因、症状、診断、治療について 説明できる。 11. 歯槽骨炎と顎骨炎の病態、症状、 診断、治療について説明できる。 12. 顎骨骨髓炎の分類について説明で きる。 13. 急性顎骨骨髓炎の症状、経過、治 療法について説明できる。 14. 薬剤関連顎骨壊死の症状、経過、 治療法について説明できる。 15. 歯性上顎洞炎の成因、検査法、治 療法を説明する。 [D-3-1-3-1~6] 事前学習：最新口腔外科学第5版p174- 198を参照し、レポート用紙半分程度 のレポートをWebClassにアップロード しておく。
講義	7/24 (金)	3	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	顎口腔の炎症3 特異性炎 歯性全身感染症 顎・口腔顔面領域にお ける特異性炎および歯 性感染症が全身に及ぼ す影響に関する知識を 修得する。	1. 特異性炎の概念を説明できる。 2. 顎・口腔顔面領域にみられる特異 性炎の種類を列挙できる。 3. 主要な特異性炎の原因菌を列挙で きる。 4. 主要な特異性炎の症状、検査法、 治療法を説明できる。 5. 歯性病変と全身感染症との関連に ついて説明できる。 6. 菌血症と敗血症の病態を説明でき る。 7. 歯性病巣感染の病態を説明でき る。 [D-3-1-3-7] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p206-213を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。

講義	7/31 (金)	1	太田藍理助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	神経疾患 神経痛 様々な神経痛ならび神 経麻痺の病態と治療 法について修得する。	1. 顎顔面口腔領域の疼痛の種類を列 挙できる。 2. 三叉神経痛の概念、症状および治 療法について説明できる。 3. 舌咽神経痛の概念、症状および治 療法について説明できる。 4. 神経麻痺の特徴、症状および治療 法を説明できる。 [D-3-1-9-1~5] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p412-441を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	7/31 (金)	2	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	全身疾患と口腔 口腔内に症状を呈する 全身疾患（症候群を含 む）についての知識を 修得する。	1. 全身疾患と口腔に関する一般・臨 床実地問題を確実に答えることがで きる。 [E-2-3-1, 3] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	8/21 (金)	1	秋本祐基助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	開口障害を生じる疾患 炎症、顎関節疾患など 開口障害を生じる疾患 に関する知識を修得す る。	歯槽骨炎と顎骨炎の病態、症状、診 断、治療について説明できる。 2. 顎関節疾患について説明できる。 [D-3-1-3-6, D-3-1-7-1, 2] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p174-198を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	8/21 (金)	2	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	骨髄炎と薬剤関連顎骨 壊死 骨髄炎と薬剤関連顎骨 壊死の知識を修得す る。	1. 顎骨骨髄炎の分類について説明す る。 2. 急性顎骨骨髄炎の症状、経過、治 療法について説明できる。 3. 薬剤関連顎骨壊死の症状、経過、 治療法について説明できる。 4. 硬組織の損傷の症状、治療法を説 明できる。 [D-3-1-3-6] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327, 762-775を参照し、レポ ート用紙半分程度のレポートを WebClassにアップロードしておく。

B 講義：臨床特化講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/18 (金)	1	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	炎症 顎口腔の炎症 顎骨骨髄炎、全身歯性 感染症に関する知識を 修得する。	1. 顎口腔の炎症に関する一般・臨床 実地問題を確実に答えることがで きる。 [D-3-1-3-1~7] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。

講義	9/18 (金)	2	平野大輔講師 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	外傷 顎顔面領域の外傷につ いての知識を修得す る。	1. 口腔顎顔面領域の外傷に関する一 般・臨床実地問題を確実に答えるこ とができる。 [D-3-1-2-1~5] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-3を参照し、レポート用紙半分 程度のレポートをWebClassにアップ ロードしておく。
講義	9/18 (金)	3	古城慎太郎講師 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	手術療法総まとめ 口腔外科領域における 手術療法に関する知識 を修得する。	1. 口腔外科手術療法について修得す る。 2. 一般・臨床実地問題を確実に答える ことができる。 [D-5-4-1, 2, 5, 6] 事前学習：口腔外科領域の手術療法 に関する疑問点についてレポート用 紙半分程度のレポートをWebClassに アップロードしておく。
講義	10/2 (金)	1	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	粘膜疾患 口腔領域に発生する粘 膜疾患（感染症を含 む）に関する知識を修 得する。	1. 口腔粘膜疾患に関する一般・臨床 実地問題を確実に答えることができ る。 [D-3-1-4-1, 2] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	10/2 (金)	2	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	唾液腺疾患 唾液腺疾患に関する知 識を修得する。	1. 唾液腺疾患に関する一般・臨床実 地問題を確実に答えることができ る。 [D-3-1-8-1~7] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	10/2 (金)	3	川又慎介助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	顎関節疾患 顎関節疾患に関する知 識を修得する。	1. 顎関節疾患に関する一般・臨床実 地問題を確実に答えることができ る。 [D-3-1-7-1, 2] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	10/3 (土)	1	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	口唇裂・口蓋裂 口唇裂・口蓋裂（機能 検査を含む）に関する 知識を修得する。	1. 口唇裂・口蓋裂に関する一般・臨 床実地問題を確実に答えることがで きる。 [D-3-1-1-1, 2] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	10/3 (土)	2	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	再建法 軟組織・硬組織、遊離 皮弁と有茎皮弁を使用 した再建法についての 知識を修得する。	1. 口腔顎顔面領域の再建法に関する 一般・臨床実地問題を確実に答える ことができる。 [D-3-1-6-3] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。

講義	10/9 (金)	1	矢菅絵里加助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	血液疾患 血液疾患・抗血栓療法 の知識を修得する。	1. 血液疾患に関する一般・臨床実地 問題を確実に答えることができる。 [D-3-1-10-1] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	10/9 (金)	2	矢菅絵里加助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	神経疾患 顎口腔領域における神 経に関する知識を修得 する。	1. 神経疾患に関する一般・臨床実地 問題を確実に答えることができる。 [D-3-1-9-2~4] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p149-173, 731-740を参照し、レポ ート用紙半分程度のレポートを WebClassにアップロードしておく。
講義	10/9 (金)	3	矢菅絵里加助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	慢性疼痛 顎口腔領域の慢性疼痛 に関しての症状、診断 および治療法を修得す る。	1. 慢性疼痛に関する一般・臨床実地 問題を確実に答えることができる。 [D-3-1-9-1] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p412-441を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	10/22 (木)	1	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	骨髄炎と薬剤関連顎骨 壊死 骨髄炎と薬剤関連顎骨 壊死の知識を修得す る。	1. 顎骨骨髄炎の分類について説明す る。 2. 急性顎骨骨髄炎の症状、経過、治 療法について説明できる。 3. 薬剤関連顎骨壊死の症状、経過、 治療法について説明できる。 4. 硬組織の損傷の症状、治療法を説 明できる。 5. 骨髄炎・薬剤関連顎骨壊死に関す る一般・臨床実地問題を確実に答える ことができる。 [D-3-1-3-6] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327, 762-775を参照し、レポ ート用紙半分程度のレポートを WebClassにアップロードしておく。
講義	10/22 (木)	2	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	顎口腔の機能 口蓋裂、摂食嚥下、睡 眠時無呼吸症候群につ いての知識を修得す る。	1. 口蓋裂患者に行う検査について説 明できる。 2. 摂食嚥下機能評価に行う検査につ いて説明できる。 3. 睡眠時無呼吸症候群に行う検査に ついて説明できる。 4. 顎口腔の機能に関する一般・臨床 実地問題を確実に答えることができ る。 [D-3-1-1-1, 2, D-3-1-11-2, 6] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p509-532を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。

講義	10/22 (木)	3	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	顎変形症 顎・口腔に異常を現す 症候群と系統的骨疾患 先天性・後天性の軟組 織の異常ならびに顎・ 口腔に異常を現す症候 群と系統的骨疾患に関 する知識を修得する。	1. 顎変形症に関する一般・臨床実地 問題を確実に答えることができ る。 [D-3-1-1-3] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p139-147を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	10/23 (金)	1	太田藍理助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	歯原性腫瘍 口腔顎顔面領域に発生 する歯原性腫瘍の分 類、発生病因、診断、 治療法を修得する。	1. 口腔顎顔面領域の歯原性腫瘍に関 する一般・臨床実地問題を確実に答 えることができる。 [D-3-1-6-1, 2] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	10/23 (金)	2	太田藍理助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	非歯原性腫瘍 口腔顎顔面領域に発生 する歯原性腫瘍の分 類、発生病因、診断、 治療法を修得する。	1. 口腔顎顔面領域の非歯原性腫瘍に 関する一般・臨床実地問題を確実に 答えることができる。 [D-3-1-6-1, 2] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p292-327を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。
講義	10/23 (金)	3	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	嚢胞・腫瘍の手術法 嚢胞と腫瘍(良性・悪 性)の手術法を修得す る。	1. 手術法に関する一般・臨床実地問 題を確実に答えることができる。 [D-3-1-5-2, D-3-1-6-2, 3] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p372-386を参照し、レポート用紙半 分程度のレポートをWebClassにアッ プロードしておく。

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/5 (木)	1	矢菅絵里加助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	必修領域の強化1 口腔外科学における知 識を強化する。	1. 総合試験、過去の国家試験等か らみた口腔外科領域の必修を強化す ることができる。 [D-3-1~11] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p378-381, 828-832を参照し、レポ ート用紙半分程度のレポートを WebClassにアップロードしておく。
講義	11/5 (木)	2	川又慎介助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	必修領域の強化2 口腔外科学における知 識を強化する。	1. 総合試験、過去の国家試験等か らみた口腔外科領域の必修を強化す ることができる。 [D-3-1~11] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p378-381, 828-832を参照し、レポ ート用紙半分程度のレポートを WebClassにアップロードしておく。

講義	11/5 (木)	3	川又慎介助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	必修領域の強化3 口腔外科学における知 識を強化する。	1. 総合試験、過去の国家試験等か らみた口腔外科領域の必修を強化す ることができる。 [D-3-1~11] 事前学習：最新口腔外科学第5版 p378-381, 828-832を参照し、レポ ート用紙半分程度のレポートを WebClassにアップロードしておく。
----	-------------	---	-----------------------------------	--	--

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	第1回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/29 (金)	4	野宮孝之助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	選抜講義 5年次臨床試験、必修・ 臨床試験、復習試験、 模擬試験結果から弱点 を見つけ、理解できな かった項目を理解す る。	1. これまで出題された5年次臨床試 験、必修・臨床試験、復習試験、模 擬試験を理解し、一般・臨床実地問 題を確実に答えることができる。 [D-3-1~11]
講義	6/5 (金)	4	野宮孝之助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	選抜講義 5年次臨床試験、必修・ 臨床試験、復習試験、 模擬試験結果から弱点 を見つけ、理解できな かった項目を理解す る。	1. これまで出題された5年次臨床試 験、必修・臨床試験、復習試験、模 擬試験を理解し、一般・臨床実地問 題を確実に答えることができる。 [D-3-1~11]

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/22 (木)	4	高橋美香子助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	選抜講義 到達度評価試験、総合 試験、復習試験、模擬 試験結果から弱点を見 つけ、理解できなかった 項目を理解する。	1. これまで出題された到達度評価 試験、第1回総合試験、復習試験、 模擬試験を理解し、一般・臨床実地 問題を確実に答えることができる。 [D-3-1~11]
講義	10/23 (金)	4	平野大輔講師 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	選抜講義 到達度評価試験、総合 試験、復習試験、模擬 試験結果から弱点を見 つけ、理解できなかった 項目を理解する。	1. これまで出題された到達度評価 試験、第1回総合試験、復習試験、 模擬試験を理解し、一般・臨床実地 問題を確実に答えることができる。 [D-3-1~11]
講義	11/5 (木)	4	高橋美香子助教 (口腔顎顔面再建講 座 口腔外科学分野)	選抜講義 到達度評価試験、総合 試験、復習試験、模擬 試験結果から弱点を見 つけ、理解できなかった 項目を理解する。	1. これまで出題された到達度評価 試験、第1回総合試験、復習試験、 模擬試験を理解し、一般・臨床実地 問題を確実に答えることができる。 [D-3-1~11]

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯科麻酔学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	3/31 (火)	2 前半	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	歯科麻酔学領域の国家 試験の傾向と勉強法 歯科麻酔学の重要項目 を理解し、勉強法をみ つけることができる。	国家試験問題を解説できる。 【出題された問題による】 事前学修：国家試験問題で疑問に感 じたことを抽出しておくこと。 事後学修：国家試験問題に関連する 内容を教科書等で調べて理解を深め ること。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	5/20 (水)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	全身状態評価、周術期 管理 (術前・術中・術後管 理) 術前の全身状態評価法 と術中の呼吸・循環管 理と術後の合併症と疼 痛管理法を理解する。	1. 術前診察の方法を説明できる 2. バイタルサインを説明できる。 3. リスク・重症度の分類ができ る。 4. 術前経口摂取制限を説明でき る。 5. 麻酔前投薬を説明できる。 6. 術中の管理と合併症を説明でき る。 7. 術後の管理と合併症を説明でき る。 【必修8-エ、総論V-1-1、総論VI- 3、4、総論VII-4-イ、各論III-セ】 事前学習：全身状態評価法、周術期 管理について永末書店 第6版 臨床 歯科麻酔学、4年次に使用したレ ジュメ、講義ノートに目を通して講 義に臨むこと。事前学習の時間は最 低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて事後学修を行 うこと。事後学修の時間は40分以 上を要する。

講義	5/27 (水)	3	筑田真未講師 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<p>全身疾患を有する患者の管理 1</p> <p>循環器疾患、呼吸器疾患、代謝系、内分泌系、泌尿器系疾患などを持つ患者の管理法を理解する。</p>	<p>1. 高血圧症、虚血性心疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、感染性心内膜炎、脳血管障害の病態、症候、診断と治療時の留意点を説明できる。</p> <p>2. 気管支喘息、アスピリン喘息、喘息発作・気管支けいれん、慢性閉塞性肺疾患、肺線維症の病態、症候、診断と治療時の留意点を説明できる。</p> <p>[必修-11-ス、総論V-6-ア-a、b、各論-Ⅲ-4-ス-a、b]</p> <p>事前学習：全身疾患について永末書店 第6版 臨床歯科麻酔学 4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。</p>
講義	6/3 (水)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<p>全身疾患を有する患者の管理 2</p> <p>循環器疾患、呼吸器疾患、代謝系、内分泌系、泌尿器系疾患などを持つ患者の管理法を理解する。</p>	<p>1. 代謝・内分泌系疾患患者の病態、症候、診断と治療時の留意点を説明できる。</p> <p>2. 腎疾患患者の病態、症候、診断と治療時の留意点を説明できる。</p> <p>[必修-ス、総論V-6-ア-e、h、各論-Ⅲ-4-ス-h、j]</p> <p>事前学習：全身疾患について永末書店 第6版 臨床歯科麻酔学 4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。</p> <p>事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。</p>
講義	6/5 (金)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<p>局所麻酔</p> <p>局所麻酔法及び局所麻酔薬・血管収縮薬を理解する。</p>	<p>1. 局所麻酔法の目的を説明できる。</p> <p>2. 局所麻酔薬の種類と特徴を説明できる。</p> <p>3. 血管収縮薬の種類、その特徴及び臨床使用上の注意を説明できる。</p> <p>[必修11-カ-a、総論Ⅶ-4-ウ-a]</p> <p>事前学習：局所麻酔法・薬について永末書店 第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。</p> <p>事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。</p>

講義	6/10 (水)	3	筑田真未講師 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	歯科治療時の偶発症 局所麻酔薬投与時の偶 発症とそのメカニズム を理解する。	1. 局所麻酔時の局所的偶発症を説明 できる。 2. 局所麻酔薬及び歯科治療時の全身 的偶発症を説明できる。(血管迷走 神経反射、過換気症候群、アナフィ ラキシーショック、局所麻酔薬中 毒、血管収縮薬に対する反応、メト ヘモグロビン血症) 3. ショックを説明できる。 [各論Ⅲ-4-ソ、各論-V-2-エ] 事前学習：局所麻酔投与時の全身的 偶発症について永末書店 第6版 臨 床歯科麻酔学、4年次に使用したレ ジュメ、講義ノートに目を通して講 義に臨むこと。事前学習の時間は最 低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて事後学修を行う こと。事後学修の時間は40分以上を 要する。
講義	6/17 (水)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	全身管理に必要な生理学 全身管理に必要な生理学 を理解する。	1. 循環生理を説明できる。 2. 呼吸生理を説明できる。 3. 酸塩基平衡を説明できる。 4. 神経生理を説明できる。 [総論Ⅱ-1-ウ、エ、ク] 事前学習：全身管理に必要な生理学 について永末書店 第6版 臨床歯科 麻酔学、4年次に使用したレジュ メ、講義ノートに目を通して講義に 臨むこと。事前学習の時間は最低40 分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて事後学修を行う こと。事後学修の時間は40分以上を 要する。
講義	6/19 (金)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	歯科治療時に注意すべ き疾患 歯科治療時に注意すべ き全身疾患の管理法に ついて理解する。	1. 精神疾患と局所麻酔時の注意点 を説明できる。 2. ステロイドカバーを説明でき る。 3. 虚血性心疾患患者の全身管理を 説明できる。 [総論Ⅶ-4-イ-b-e、各論Ⅲ-ス-b、 e、各論Ⅴ-2-エ-c、g] 事前学習：全身管理に必要な生理学 について永末書店 第6版 臨床歯科 麻酔学、4年次に使用したレジュ メ、講義ノートに目を通して講義に 臨むこと。事前学習の時間は最低40 分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて事後学修を行う こと。事後学修の時間は40分以上を 要する。

講義	6/26 (金)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	患者管理法 1 患者管理に必要な項目 を理解できる。	1. 酸塩基平衡を説明できる。 2. 輸液管理を説明できる。 3. 輸血療法を説明できる。 4. 呼吸器管理(合併症)を説明で きる。 [必修2-コ、総論Ⅶ-4-イ-b-d] 事前学習：全身疾患、偶発症、周術 期に使用する薬剤について永末書店 第6版 臨床歯科麻酔学、今年度A,B 講義に使用したレジュメに目を通し て講義に臨むこと。事前学習の時間 は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて事後学修を行う こと。事後学修の時間は40分以上を 要する。
講義	7/3 (金)	3	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	患者管理法 2 患者管理に必要な項目 を理解できる。	1. 循環器管理(合併症)を説明で きる。 2. 代謝管理(合併症)を説明でき る。 3. 悪性高熱症を説明できる。 4. 筋弛緩薬を説明できる。 [総論Ⅶ-4-イ、各論Ⅲ-ス-i、セ-a- c] 事前学習：全身疾患、偶発症、周術 期に使用する薬剤について永末書店 第6版 臨床歯科麻酔学、今年度A,B 講義に使用したレジュメに目を通し て講義に臨むこと。事前学習の時間 は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて事後学修を行う こと。事後学修の時間は40分以上を 要する。
講義	7/7 (火)	2	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	ペインクリニック 疼痛性及び麻痺性疾患 を理解する。	1. 顎顔面口腔領域の疼痛及び麻痺性 疾患を説明できる。 2. 三叉神経痛の概念、症状及び治療 法を説明できる。 3. 顔面神経麻痺の概念、症状及び治 療法を説明できる。 4. 星状神経節ブロックの適応、方法 及び合併症を説明できる。 [総論Ⅲ-1-サ、各論Ⅲ-3-イ] 事前学習：顔面領域の疼痛性及び麻 痺性疾患について永末書店 第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用した レジュメ、講義ノートに目を通して 講義に臨むこと。

B 講義：臨実特化講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/9 (水)	2	筑田真未講師 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	精神鎮静法 精神鎮静法の特徴を理 解する。	1. 精神鎮静法の内容、目的、適 応、禁忌、種類、実施法を説明でき る。 2. 笑気吸入鎮静法を説明できる。 3. 静脈内鎮静法及びその使用薬剤を 説明できる。 [総論Ⅶ-4-ウ-c] 事前学習：精神鎮静法の特徴につい て永末書店 第6版 臨床歯科麻酔学 4年次に使用したレジュメ、講義 ノートに目を通して講義に臨むこ と。事前学習の時間は最低40分以上 を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて事後学修を行う こと。事後学修の時間は40分以上を 要する。
講義	9/16 (水)	1 ・ 2	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	全身麻酔法 全身麻酔法と全身麻酔 薬を理解する。	1. 全身麻酔薬の理論、概念、機序 を説明できる。 2. 全身麻酔に使用する装置、器 具、回路を説明できる。 3. 全身麻酔における気道確保法を 説明できる。 4. 全身麻酔薬の種類と特徴を説明 できる。 5. 麻酔前投薬、筋弛緩薬の種類と 薬理作用を説明できる。 6. 呼吸のモニタリングを説明でき る。 7. 循環のモニタリングを説明でき る。 [総論Ⅶ-ウ-b] 事前学習：全身麻酔法および麻酔薬 について永末書店 第6版 臨床歯科 麻酔学、4年次に使用したレジュ メ、講義ノートに目を通して講義に 臨むこと。事前学習の時間は最低40 分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて事後学修を行う こと。事後学修の時間は40分以上を 要する。

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/11 (水)	1	筑田真未講師 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	救急蘇生法 救急蘇生法(BLS)を理解する。	1. バイタルサインを説明できる。 2. 成人の1次救命処置を説明できる。 3. 自動体外式除細動器を説明できる。 4. 小児の1次救命処置を説明できる。 5. 異物による気道閉塞とその解除法を説明できる。 [必須10、総論VII-3] 事前学習：救急蘇生法について永末書店 第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	(口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	第1回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	(口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/3 (水)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	弱点領域の強化 歯科麻酔学の弱点領域を整理し、関連する領域の理解を深める。	歯科麻酔学および関連領域の弱点を理解し、その弱点を体系的に説明できる。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/9 (水)	4	筑田真未講師 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	弱点領域の強化 歯科麻酔学の弱点領域を整理し、関連する領域の理解を深める。	歯科麻酔学および関連領域の弱点を理解し、その弱点を体系的に説明できる。
講義	11/11 (水)	4	筑田真未講師 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	弱点領域の強化 歯科麻酔学の弱点領域を整理し、関連する領域の理解を深める。	歯科麻酔学および関連領域の弱点を理解し、その弱点を体系的に説明できる。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯科放射線学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	4/1 (水)	4 前半	泉澤充特任教授 (歯科放射線学)	放射線領域の勉強法 歯科医師として必要な放射線領域の勉強法を見つけることができる。	1. 今春の国家試験で問われた放射線領域の歯科医師に必要な知識を説明できる。 2. 歯科医師として必要な知識を修得するために自分にあった勉強法での年間計画を立案できる。 【出題された問題による】 事前学習：今春の修復領域の国家試験問題を解いておくこと。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	6/4 (木)	3	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	画像診断装置Ⅰ 顎顔面領域の適切な診断を行うため、各種診断装置の原理と適応について理解する。	1. CT値、部分容積効果について説明できる。 2. 歯科用コーンビームCTとX線CTの画像形成原理と適応を説明できる。 3. CTで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 4. MRIの画像形成原理と適応について説明する。 5. MRIで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 6. 超音波断層法の画像形成原理と適応を説明できる。 7. PET検査、核種について説明できる。 8. シンチグラフィ検査と核種について説明できる。 【総論VI-2-オ～ケ】 放射線検査で用いられる画像診断装置の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p163～212を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。 所要時間50分

講義	6/11 (木)	3	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	画像診断装置Ⅱ 顎顔面領域の適切な診断を行うため、各種診断装置の原理と適応について理解する。	1. CT値、部分容積効果について説明できる。 2. 歯科用コーンビームCTとX線CTの画像形成原理と適応を説明できる。 3. CTで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 4. MRIの画像形成原理と適応について説明する。 5. MRIで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 6. 超音波断層法の画像形成原理と適応を説明できる。 7. PET検査、核種について説明できる。 8. シンチグラフィ検査と核種について説明できる。 【総論Ⅵ-2-オ～ケ】 放射線検査で用いられる画像診断装置の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p163～212を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。 所要時間50分
講義	7/16 (木)	1 2	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	画像診断1 歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍、歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞の画像診断を修得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 口腔領域の歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞 【各論Ⅲ-1-エ～オ、2-オ～カ】 顎骨領域の疾患の画像診断知識を得るため、事前学習として教科書p280～318を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。 所要時間50分

<p>講義</p>	<p>7/21 (火)</p>	<p>1 2</p>	<p>田中良一教授 (放射線医学講座)</p>	<p>放射線の基礎 I、II 1. 放射線の性質 2. エックス線の発生原理とエックス線管の構造 3. エックス線の線質と物質との相互作用 4. 放射線防護の基準と方法 5. 被写体コントラストと写真コントラスト 6. フィルムと増感紙 7. 写真現像処理</p>	<p>1. 原子の構造および電離、励起について説明できる。 2. 放射線の種類を類別できる。 3. エックス線の一般的性質を説明できる。 4. 以下の用語を定義、説明できる。照射線量、吸収線量、等価線量、実効線量、放射線加重係数、組織加重係数 5. エックス線発生の原理、エックス線管の構造を説明できる。 6. 焦点と半影、ろ過について説明できる。 7. 制動放射線、特性エックス線の比較、エックス線スペクトルを図示し説明できる。 8. 光電効果、コンプトン効果、散乱について説明できる。 9. 被写体コントラスト、写真コントラストを定義し説明できる。 10. 被写体コントラスト、写真コントラストに影響する因子を説明できる。 11. 黒化度を定義し、特性曲線を作成する。 12. スクリーン、ノンスクリーンフィルムの違いを説明できる。 13. フィルムの感光原理を説明できる。 14. 現像処理（現像、定着）を説明できる。 【必修9-カ-a, b、総論VI-2-ア-a, b、ウ-a, b、エ-a】 15. 放射線防護の基準と方法を説明できる。 【必修9-カ-a, b、総論VI-2-ア-a, b、ウ-a, b、エ-a】 放射線の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p19～32、67～74を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。 所要時間50分</p>
<p>講義</p>	<p>7/23 (木)</p>	<p>1 2</p>	<p>泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)</p>	<p>画像診断2 顎関節疾患、系統疾患の画像診断を修得する。</p>	<p>以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 顎関節疾患、系統疾患 【各論III-3-ウ、4-ア、カ】 顎関節疾患ならびに系統疾患の画像診断に必要な知識を得るために事前学習として教科書P369～383、406～420を読んでおくこと。疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。 所要時間50分</p>

講義	7/30 (木)	1 2	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 座歯科放射線学分野)	画像診断3 上顎洞疾患、口腔領域の悪性腫瘍の画像診断を修得する。 口腔領域の炎症と骨折、唾液腺疾患の画像診断を修得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 上顎洞疾患、悪性腫瘍、炎症性疾患、骨折、唾液腺疾患 【各論Ⅲ-1-オ、2-ウ、エ、3-ア】 上記疾患の画像診断に必要な知識を得るため、事前学習として教科書p269～278、335～351、353～367、384～397を読んでおくこと。 疑問点を挙げて講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。 所要時間50分
----	-------------	--------	--------------------------------------	---	--

B 講義：臨実特化講義

講義	9/17 (木)	1	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学講座 座歯科放射線学分野)	画像診断の弱点補強1 パノラマ正常解剖とCT、MRI正常解剖の知識を補強する。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から明らかになった以下の弱点項目を克服できる。 パノラマ正常解剖、CT、MRI正常解剖 【総論Ⅵ-2-コ】 画像の正常解剖の知識を得るため、事前学習として教科書p130、151～156、185～192を読んでおくこと。 疑問点を挙げて講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。 所要時間50分 パノラマやCT、MRIの正常像をwebclassに公開する。各自、回答を作成できる。
講義	9/28 (月)	1	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 座歯科放射線学分野)	放射線治療 口腔癌の放射線治療について種類、適応について習得する。	1. 口腔癌の放射線治療の方法と口腔の管理を修得できる。 2. 放射線治療に関連した総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の弱点項目を克服できる。 【総論Ⅶ-7-ア、イ、ウ】 口腔領域の放射線治療の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p453～475を読んでおくこと。 疑問点を挙げて講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。 所要時間50分

講義	11/4 (水)	3	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 座歯科放射線学分野)	CT、MRI、US検査 顎顔面領域の適切な診断を行うため、各種診断装置の原理と適応について理解する。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から明らかになった以下の弱点項目を克服できる。 2. 歯科用コーンビームCTとX線CTの画像形成原理と適応を説明できる。 3. CTで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 4. MRIの画像形成原理と適応について説明する。 5. MRIで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 6. 超音波断層法の画像形成原理と適応を説明できる。 7. PET検査、核種について説明できる。 8. シンチグラフィ検査と核種について説明できる。 【総論VI-2-オ～ケ】 放射線検査で用いられる画像診断装置の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p163～212を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分
----	-------------	---	--------------------------------------	--	---

C 講義：必修特化講義

講義	11/18 (水)	1	田中良一教授 (放射線医学講座)	放射線基礎 放射線物理、撮影の基礎等について再確認し、知識を補強する。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から明らかになった以下の弱点項目を克服できる。 エックス線の性質、エックス線の発生原理、エックス線管の構造、線質と相互作用、コントラスト、フィルムと現像処理 【必修9-カ-a, b、総論VI-2-ア-a, b、ウ-a, b、エ-a】 放射線の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p19～32、67～74を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分
----	--------------	---	---------------------	---	--

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 座歯科放射線学分野)	第1回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 座歯科放射線学分野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義①（A講義期間中）

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/11 (木)	4	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	画像診断装置Ⅱ 顎顔面領域の適切な診断を行うため、各種診断装置の原理と適応について理解する。	1. CT値、部分容積効果について説明できる。 2. 歯科用コーンビームCTとX線CTの画像形成原理と適応を説明できる。 3. CTで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 4. MRIの画像形成原理と適応について説明する。 5. MRIで用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 6. 超音波断層法の画像形成原理と適応を説明できる。 7. PET検査、核種について説明できる。 8. シンチグラフィ検査と核種について説明できる。 [総論VI-2-オ～ケ] 放射線検査で用いられる画像診断装置の基礎的知識を得るため、事前学習として教科書p163～212を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。 所要時間50分

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/4 (水)	4	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	画像診断1.2.3 A講義で学んだ顎疾患疾患の画像診断の基礎を再確認し、知識を深める。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から明らかになった以下の弱点項目を克服できる。 2. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 顎関節疾患、系統疾患 口腔領域の歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞 上顎洞疾患、悪性腫瘍、炎症性疾患、骨折、唾液腺疾患 [各論Ⅲ-1-エ～オ、2-オ～カ、各論Ⅲ-3-ウ、4-ア、カ、各論Ⅲ-1-オ、2-ウ、エ、3-ア] 顎骨領域の疾患の画像診断知識を得るため、事前学習として教科書p280～318、P369～383、406～420、269～278、335～351、353～367、384～397を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分 事後学習として事前に挙げた疑問点の理解度を確認。不十分であれば講義資料を用いて整理しておくこと。所要時間50分
講義	12/2 (水)	4	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	画像診断1.2.3 A講義で学んだ顎疾患疾患の画像診断の基礎を再確認し、知識を深める。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から明らかになった以下の弱点項目を克服できる。 2. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 顎関節疾患、系統疾患 口腔領域の歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞 上顎洞疾患、悪性腫瘍、炎症性疾患、骨折、唾液腺疾患 [各論Ⅲ-1-エ～オ、2-オ～カ、各論Ⅲ-3-ウ、4-ア、カ、各論Ⅲ-1-オ、2-ウ、エ、3-ア] 顎骨領域の疾患の画像診断知識を得るため、事前学習として教科書p280～318、P369～383、406～420、269～278、335～351、353～367、384～397を読んでおくこと。 疑問点を列挙して講義に臨む。所要時間30分

総合講義（Ⅱ）講義日程表：歯科矯正学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/2 (木)	4	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	歯科矯正学の重要領域の傾向と勉強法 歯科矯正学の重要領域を確認し、適切な対策を立てることができる。	1. 歯科矯正学の重要領域について説明できる。 2. 歯科矯正学領域における自分自身の弱点を認識し、自分にあった勉強法を見つけることができる。 [各論Ⅰ-5, 6, 7, 8, 9, 10] 事前学習：本年度の国家試験と出題基準に目を通し出題傾向について予習を行うこと。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/28 (木)	1	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	成長発育・不正咬合の特徴 成長発育全般に関する知識と不正咬合の特徴に関する知識を強化できる。	1. 全身成長、頭蓋顔面、歯列の成長発育に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2. 不正咬合に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [必修Ⅴ-ウ-a, b、総論Ⅳ-2-ウ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	5/28 (木)	2	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	不正咬合の病因病態Ⅰ 不正咬合の先天的原因に関する知識を強化できる。	1. 不正咬合の先天的な病因・病態に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅰ-5, 6] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	5/28 (木)	3	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	不正咬合の病因病態Ⅱ 不正咬合の後天的原因に関する知識を強化できる。	1. 不正咬合の後天的な病因・病態に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅰ-5, 6] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/4 (木)	1	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	不正咬合の診断Ⅰ 不正咬合の診察・検査に関する知識を強化できる。	不正咬合の診断に必要な診察・検査に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅰ-6] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

講義	6/4 (木)	2	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	不正咬合の診断Ⅱ 不正咬合の診断・治療計画に関する知識を強化できる。	1. 不正咬合の診断・治療計画の立案に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅰ-6] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/11 (木)	1	菊池恵美子助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正力と固定Ⅰ 矯正力と固定に関する知識を強化できる。	1. 矯正力と固定に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2. アンカースクリューの目的が理解できるようになる。 [各論Ⅰ-7] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/11 (木)	2	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正力と固定Ⅱ 矯正力と固定に関する知識を強化できる。	1. 矯正力と固定に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2. アンカースクリューの目的が理解できるようになる。 [各論Ⅰ-7] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/18 (木)	1	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正力による生体反応/偶発症 矯正歯科治療によって起こる生体反応について理解する。	1. 矯正力による歯、歯周組織の反応を説明できる。 2. 歯の移動に伴う骨改造について説明できる。 3. 適切な矯正力による生体反応の評価を説明できる。 4. 矯正歯科治療により起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。 5. 矯正歯科治療によって生じうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。 [各論Ⅰ-8] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/18 (木)	2	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正歯科治療における抜歯Ⅰ 抜歯に関する知識を強化できる。	1. 矯正歯科治療に必要な抜歯部位が確定できるようになる。 [各論Ⅰ-6-ウ、各論Ⅰ-10-ウ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/25 (木)	1	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正歯科治療における抜歯Ⅱ 抜歯に関する知識を強化できる。	1. 矯正歯科治療に必要な抜歯部位が確定できるようになる。 [各論Ⅰ-6-ウ、各論Ⅰ-10-ウ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

講義	6/25 (木)	2	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正装置Ⅰ-1 機能的矯正装置 機能的矯正装置に関する知識を強化できる。	1. 機能的矯正装置に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅰ-7-イ、各論Ⅰ-9-オ,カ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	7/2 (木)	1	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正装置Ⅰ-2 機能的矯正装置 機能的矯正装置に関する知識を強化できる。	1. 機能的矯正装置に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅰ-7-イ、各論Ⅰ-9-オ,カ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	7/2 (木)	2	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正装置Ⅱ-1 器械的矯正装置 器械的矯正装置に関する知識を強化できる。	1. 器械的矯正装置に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅰ-7-ア、各論Ⅰ-9-ア,イ,エ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	7/9 (木)	1	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正装置Ⅱ-2 器械的矯正装置 器械的矯正装置に関する知識を強化できる。	1. 器械的矯正装置に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅰ-7-ア、各論Ⅰ-9-ア,イ,エ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	7/9 (木)	2	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正装置Ⅲ ブラケット装置 ブラケット、保定装置等に関する知識を強化できる。	1. ブラケット装置や保定装置、その他の矯正装置に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅰ-9-ウ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。

B 講義：臨実特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/17 (木)	2	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	マルチブラケット装置による矯正歯科治療 マルチブラケット装置に関する知識を強化できる。	1. マルチブラケット装置について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2. 矯正歯科治療に必要な抜歯と固定の概念について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論 I-10-ウ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	9/17 (木)	3	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	顎変形症の治療 顎変形症に関する知識を強化できる。	1. 顎変形症について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論 I-10-オ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	9/24 (木)	1	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	口唇裂・口蓋裂患者の治療（発語・構音含む）I 口唇裂・口蓋裂に関する知識と発語・構音等に関する知識を強化できる。	1. 口唇裂・口蓋裂に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2. 発語・構音に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [必修-6-イ-h、各論 I-10-エ、各論 I-1-ア] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	9/24 (木)	2	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	口唇裂・口蓋裂患者の治療（発語・構音含む）II 口唇裂・口蓋裂に関する知識と発語・構音等に関する知識を強化できる。	1. 口唇裂・口蓋裂に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 2. 発語・構音に関して理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [必修-6-イ-h、各論 I-10-エ、各論 I-1-ア] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	9/24 (木)	3	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	先天異常と不正咬合 先天異常により生じる口腔内の病態について説明できるようになる。	1. 先天異常により生じる不正咬合を説明できる。 2. 先天異常により生じる口腔内所見の以上を説明できる。 [必修-6-イ-h、各論 I-1、各論 I-10-エ、各論 III-4-ア] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

講義	10/1 (木)	1	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	睡眠時無呼吸症候群 睡眠時無呼吸症候群に関する知識を強化できる。	1. 睡眠時無呼吸症候群について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅳ-1-ク] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/1 (木)	2	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正材料と器具Ⅰ 矯正材料と器具に関する知識を強化できる。	1. 矯正材料と器具について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [必修11-セ-i、総論Ⅷ-10] 事前学習：医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/5 (月)	1	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正材料と器具Ⅱ 矯正材料と器具に関する知識を強化できる。	1. 矯正材料と器具について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [必修11-セ-i、総論Ⅷ-10] 事前学習：医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/5 (月)	2	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正装置の製作方法Ⅰ 矯正装置の製作方法に関する知識を強化できる。	1. 矯正装置の製作方法について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [総論Ⅷ-10、各論Ⅰ-9] 事前学習：医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/5 (月)	3	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	矯正装置の製作方法Ⅱ 矯正装置の製作方法に関する知識を強化できる。	1. 矯正装置の製作方法について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [総論Ⅷ-10、各論Ⅰ-9] 事前学習：医歯薬出版歯科矯正学、4年次に配布したレジュメ、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/19 (月)	1	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	器械的矯正装置の適用前後の変化 器械的装置適用前後の変化に関する知識を強化できる。	1. 装置装着前後の変化について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅰ-9-ア, イ, エ、各論Ⅰ-10-イ, ウ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/19 (月)	2	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	機能的矯正装置の適用前後の変化 機能的装置適用前後の変化に関する知識を強化できる。	1. 装置装着前後の変化について理解を深め、同領域の問題を解くことができるようになる。 [各論Ⅰ-9-オ, カ、各論Ⅰ-10-イ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

講義	10/26 (月)	1	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	臨床実地Ⅰ 弱点強化 マルチブラケット装置装置に関する臨床実地問題について知識を強化できる。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきた理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 [各論Ⅰ-9-ウ、各論Ⅰ-10-ウ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	10/26 (月)	2	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	臨床実地Ⅱ 弱点強化 外科矯正歯科治療に関する臨床実地問題について知識を強化できる。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきた理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 [各論Ⅰ-10-オ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

C 講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/19 (木)	1	菊池恵美子助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	臨床実地Ⅲ 弱点強化 矯正歯科領域の必修に関する知識を再度確認し、理解を深める。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきた理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 [各論Ⅰ-9-イ,オ,カ、各論Ⅰ-10-イ,ウ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	11/19 (木)	2	菊池恵美子助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	臨床実地Ⅳ 弱点強化 矯正歯科領域の必修に関する知識を再度確認し、理解を深める。	1. 総合試験、必修試験、到達度試験、模擬試験等の結果から見えてきた理解が不十分な領域を説明し、強化することができる。 [各論Ⅰ-9-ア,ウ、各論Ⅰ-10-イ,ウ] 事前学習：到達目標について医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	第1回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	桑島幸紀准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/28 (木)	4	菊池恵美子助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	弱点強化 I 矯正歯科領域の弱点を認識し、対策を立てることができる。	1. 自分自身の弱点を認識し、自分なりの勉強方法を構築することができる。 [各論 I -5, 6, 7, 8] 事前学習：出題された内容に関して医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。
講義	6/18 (木)	4	菊池恵美子助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	弱点強化 II 矯正歯科領域の弱点を認識し、対策を立てることができる。	1. 自分自身の弱点を認識し、自分なりの勉強方法を構築することができる。 [各論 I -9, 10] 事前学習：出題された内容に関して医歯薬出版歯科矯正学、講義ノートに目を通して臨むこと。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/17 (木)	4	菊池恵美子助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	弱点強化 I 矯正歯科領域の弱点を認識し、対策を立てることができる。	1. 自分自身の弱点を認識し、自分なりの勉強方法を構築することができる。 [各論 I -5, 6, 7, 8] 事前学習：全国模試の解説書を持参すること。出題された内容に関して医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通すこと。
講義	9/24 (木)	4	菊池恵美子助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	弱点強化 II 矯正歯科領域の弱点を認識し、対策を立てることができる。	1. 自分自身の弱点を認識し、自分なりの勉強方法を構築することができる。 [各論 I -9, 10] 事前学習：全国模試の解説書を持参すること。出題された内容に関して医歯薬出版 歯科矯正学、講義ノートに目を通すこと。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：小児歯科学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/3 (金)	2	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	小児歯科学領域の歯科医師として必要な知識修得とその勉強法 歯科医師として必要な小児歯科学領域の知識を修得する。	1. 今春の国家試験で問われた小児歯科学領域の歯科医師に必要な知識を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることができる。 [必修5-イ～ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア～ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア～オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ～エ, 各論Ⅰ-2～4, 各論Ⅰ-10-ア-a～b, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d, 各論Ⅱ-3-エ-a～b] 事前学習：今春の小児歯科学領域の国家試験問題を確認しておく。所要時間30分程度。 事後学修：講義中に理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

A 講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/27 (水)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	全身の成長・発達 顔面頭蓋の発達 小児の全身の発達・顔面頭蓋の成長、発達について多角的に理解する。	1. 小児の身体の成長を説明できる。 2. 小児の精神の発達を説明できる。 4. 頭蓋の成長発育を説明できる。 5. 顔面の成長発育を説明できる。 6. 小児の口腔機能の発達について説明できる。 [必修5-イ-a～c, 必修5-ウ-a～b, 総論Ⅱ-7-ア-a～c, 総論Ⅱ-7-イ-a～c, 各論Ⅰ-2-ア, イ, ウ] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	5/27 (水)	2	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	歯の発育と異常 小児期の歯の特徴(乳歯・幼若永久歯) 歯の発生、発育、萌出とその障害の機構を多角的に理解する。 乳歯とその特徴について多角的に理解する。	1. 乳歯並びに永久歯の発生、形成時期、萌出順序を説明できる。 2. 歯の発生の各ステージにおける異常と症状の関連性を説明できる。 3. 乳歯の形態的・組織学的特徴を説明することができる。 4. 乳歯の物理的・化学的特徴を説明することができる。 [必修5-ウ-a, 総論Ⅱ-5-ア-b~c, 総論Ⅱ-7-イ-a~d] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	6/3 (水)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	歯列および咬合の発育と異常 小児の歯列・咬合の成長、発達や異常について、多角的に理解する。	1. 乳歯列の成育を説明できる。 2. 混合歯列の成育を説明できる。 3. 永久歯列の成育を説明できる。 1. 生理的歯間空隙とその意味を説明できる。 2. ターミナルプレーンを理解し、その臨床的意味を説明できる。 3. 乳歯列の咬合の特徴を列挙できる。 4. 第一大臼歯の萌出を説明できる。 5. リーウェイスペースを理解し、その臨床的意味を説明できる。 [必修5-ウ-a, 必修8-カ-a~c, 総論Ⅱ-8-エ-b, 総論Ⅳ-2-ウ] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	6/3 (水)	2	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	小児・障害児への歯科的対応法 小児患者や障害児の特徴や歯科治療の際の正しい対応法を理解する。	1. 小児の恐れや不安の対象を列挙できる。 2. 小児の情動に配慮した対応法を説明できる。 3. 発達障害の特性について説明できる。 4. 障害児の特徴に配慮した対応法を説明できる。 5. 行動変容法を説明できる。 [必修11-I-a~c, 総論V-2, 総論V-6-I, 総論VII-1-U-a,] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	6/10 (水)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	小児の齲蝕 小児期の齲蝕や歯髄疾患の特徴を多角的に理解する。	1. 乳歯齲蝕の特徴を列挙できる。 2. 乳歯齲蝕の疫学を説明できる。 3. 乳歯重症齲蝕の為害作用を説明できる。 4. 乳歯齲蝕の発生過程を多面的に説明できる。 5. 歯髄炎の診断法を説明できる。 6. 生活歯髄切断法を説明できる。 7. 暫間的間接覆髄法を説明できる。 8. 根未完成歯の歯内療法を説明できる。 [必修6-I-a~b, 必修7-I-c, 必修9-O-a, 総論IV-A, 総論VI-1-A-a~b, 総論VII-1-U-a, 各論II-1-I, 各論II-1-E, 各論II-2-U] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	6/10 (水)	2	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	小児の歯周組織の特徴と歯周疾患 小児の歯周組織の特徴と歯周疾患について多角的に理解する。	1. 小児の健全な歯周組織の特徴を列挙できる。 2. 歯肉炎と歯周炎の違いを説明できる。 3. 小児と成人の歯周疾患の違いを説明できる。 [必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 総論Ⅱ-5-イ-b, 総論Ⅲ-2-ア-b, 総論Ⅳ-2-イ, 総論Ⅶ-1-イ-a, 各論Ⅱ-3-エ] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	6/17 (水)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	小児の外傷 小児の歯の外傷を多角的に理解する。	1. 小児の歯の外傷の疫学的特徴を説明できる。 2. 小児の歯の外傷の診査と診断について説明できる。 3. 小児の歯の外傷に対する的確な対応法を説明できる。 [必修2-カ-c, 必修6-イ-i, 各論Ⅰ-4, 各論Ⅲ-ウ-a] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	6/17 (水)	2	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	小児の口腔粘膜疾患・外科処置 小児の口腔粘膜疾患や外科処置（主に抜歯等）について多角的に理解する。	1. 小児の口唇の疾患を列挙できる。 2. 小児の舌の疾患を列挙できる。 3. 小児の歯肉の疾患を列挙できる。 1. 乳歯抜去時の診査事項を説明できる。 2. 乳歯抜歯の適応症、禁忌症を説明できる。 3. 乳歯抜歯の術式を説明できる。 [必修6-イ-m, 必修11-ス-c, 総論Ⅲ-2-d, 総論Ⅳ-2-エ, 総論Ⅵ-1-ア-d, 総論Ⅶ-1-エ-a, 各論Ⅰ-3-ア~ウ] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	7/8 (水)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	咬合誘導 静的咬合誘導を多角的に理解する。	1. 歯の早期喪失の影響を説明できる。 2. 保隙のための分析法について説明できる。 3. 保隙装置の種類と適応症を説明できる。 1. 口腔習癖の種類と特徴を説明できる。 2. 口腔習癖への対応法について説明できる。 1. 各デンタルステージにおける咬合誘導の目標を説明できる。 2. 乳歯列・混合歯列期における咬合誘導の治療法を説明できる。 [総論Ⅱ-8-エ-b, 総論Ⅳ-2-ウ, 総論Ⅵ-1-イ-e, 各論Ⅰ-10-1-ア~イ,] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	7/8 (水)	2	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	全身疾患を有する小児の治療 全身疾患を持つ小児の歯科治療について理解する。	1. 全身疾患を持つ小児の口腔内について述べるができる。 2. 小児科との係わり方を述べるができる。 [必修6-イ-p, 総論Ⅲ-2-ア-g, 各論Ⅰ-1-ア～エ, 各論Ⅲ-4-ア-m～n, 各論Ⅲ-4-イ～キ] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
----	------------	---	--------------------------------------	---	---

B 講義：臨実特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/9 (水)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	臨床実地対策① 小児の診査・診断と歯周疾患 小児患者の診査・診断について理解する。	1. 小児歯科における診査・診断について説明できる。 2. 小児期に見られる主要な疾患の診査方法や診断について説明できる。 [必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 総論Ⅱ-5-イ-b, 総論Ⅲ-2-ア-b, 総論Ⅳ-2-イ, 総論Ⅶ-1-イ-a, 各論Ⅱ-3-エ] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書、問題集を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	9/16 (水)	3	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	臨床実地対策② 小児の歯冠修復 小児期の齲蝕治療（歯冠修復）について理解する。	1. 乳歯齲蝕の特徴を説明できる。 2. 乳歯齲蝕の疫学を説明できる。 3. 乳歯齲蝕の診断・治療方針を立案できる。 4. 乳歯の歯冠修復について説明できる。 5. 乳歯の歯冠修復に用いる器具について使用目的・使用方法について説明できる。 [総論Ⅳ-ア, 総論Ⅵ-1-ア-a~b, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-イ, 各論Ⅱ-1-エ] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書、問題集を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	9/30 (水)	3	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	臨床実地対策③ 小児の歯内療法（乳歯） 小児期の齲蝕治療について理解する。	1. 乳歯の抜髄と歯髄切断法を対比し、説明することができる。 2. 乳歯の感染根管治療と抜髄を対比し、説明することができる。 3. 歯髄疾患に対する処置についてそれぞれ、説明することができる。 [総論Ⅳ-ア, 総論Ⅵ-1-ア-a~b, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ, 各論Ⅱ-2-ウ] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	10/14 (水)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	臨床実地対策④ 小児の歯内療法 (幼若永久歯) 小児の齲蝕が歯髄処置に移行する過程を臨床的に理解する。	1. 幼若永久歯の歯髄炎の鑑別診断を症例に応じて説明できる。 2. 幼若永久歯の歯周炎の鑑別診断を症例に応じて説明できる。 3. 幼若永久歯の歯髄処置法について、臨床に則して説明できる。 [総論Ⅳ-ア, 総論Ⅵ-1-ア-a~b, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ, 各論Ⅱ-2-ウ] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	10/21 (水)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	臨床実地対策⑤ 小児の歯の外傷 小児の歯の外傷を臨床に則して理解する。	1. 様々な小児の外傷の症例について、診査項目を列挙し、正しく診断できる。 2. 様々な小児の外傷の症例について、適切な対応法を説明することができる。 [各論Ⅰ-4, 各論Ⅲ-ウ-a] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	10/28 (水)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	臨床実地対策⑥ 小児の外科処置・粘膜疾患 小児の外科処置・粘膜疾患について多角的に理解する。	1. 乳歯抜去時の診査事項を説明できる。 2. 乳歯抜歯の適応症、禁忌症を説明できる。 3. 乳歯抜歯の術式を説明できる。 4. 小児期にみられる粘膜疾患の特徴とその治療方法について説明できる。 [総論Ⅲ-2-d, 総論Ⅳ-2-エ, 総論Ⅵ-1-ア-d, 総論Ⅶ-1-エ-a, 各論Ⅰ-3-ア～ウ] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	11/4 (水)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	臨床実地対策⑦ 咬合誘導 小児の歯の早期喪失に対する臨床的な対応法を具体的に理解する。	1. 保険を行う際の診断基準を症例に応じて説明できる。 2. 診断に基づいた適切な保険装置の選択法を症例に応じて説明できる。 [総論Ⅱ-8-エ-b, 総論Ⅳ-2-ウ, 総論Ⅵ-1-イ-e, 各論Ⅰ-10-1-ア～イ,] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	11/4 (水)	2	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	臨床実地対策⑧ 特別な配慮が必要な小児の歯科治療 小児の歯の早期喪失に対する臨床的な対応法を具体的に理解する。	1. 全身疾患を持つ小児の口腔内について述べるができる。 2. 全身疾患のある小児の歯科治療時の注意事項について説明できる。 3. 特別な配慮が必要な小児や障害児の歯科治療について説明できる。 [総論Ⅲ-2-ア-g, 各論Ⅰ-1-ア~エ, 各論Ⅲ-4-ア-m~n, 各論Ⅲ-4-イ~キ] 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
----	-------------	---	--------------------------------------	---	--

C 講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/25 (水)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	小児歯科領域の必修項目 小児歯科領域の必修項目に関する知識を再度確認し、理解を深める。	1. 理解不足であった必修項目について改めて、理解し説明できる。 [必修5-イ~ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア~ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア~オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a~d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ~エ, 各論Ⅰ-2~4, 各論Ⅰ-10-ア-a~b, 各論Ⅱ-2-ウ-a~d, 各論Ⅱ-3-エ-a~b] 事前学習：過去5年分の小児歯科領域の国家試験問題について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	11/25 (水)	2	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	小児歯科学領域のまとめ 小児歯科学に関する知識全般の確認を行い、再度理解を深める。	1. 理解不足であった項目について改めて、理解し説明できる。 [必修5-イ～ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア～ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア～オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ～エ, 各論Ⅰ-2～4, 各論Ⅰ-10-ア-a～b, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d, 各論Ⅱ-3-エ-a～b] 事前学習：過去5年分の小児歯科学領域の国家試験問題について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
----	--------------	---	--------------------------------------	---	--

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	第2回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/10 (水)	4	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	小児歯科領域の頻出項目の強化① 小児歯科領域の必修項目に関する知識を再度確認し、理解を深める。	1. 理解不足であった項目について改めて、理解し説明できる。 [必修5-イ～ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア～ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア～オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ～エ, 各論Ⅰ-2～4, 各論Ⅰ-10-ア-a～b, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d, 各論Ⅱ-3-エ-a～b] 事前学習：今までの講義について理解が不十分出会った項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/16 (水)	4	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	小児歯科領域の頻出項目の強化② 小児歯科領域の必修項目に関する知識を再度確認し、理解を深める。	1. 理解不足であった項目について改めて、理解し説明できる。 [必修5-イ～ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア～ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア～オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ～エ, 各論Ⅰ-2～4, 各論Ⅰ-10-ア-a～b, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d, 各論Ⅱ-3-エ-a～b] 事前学習：今までの講義について理解が不十分出会った項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	9/30 (水)	4	<p>齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)</p>	<p>小児歯科領域の頻出項目の強化③ 小児歯科領域の必修項目に関する知識を再度確認し、理解を深める。</p>	<p>1. 理解不足であった項目について改めて、理解し説明できる。 [必修5-イ～ウ, 必修11-イ, 必修11-ケ, 総論Ⅱ-7-ア～ウ, 総論Ⅱ-8-イ, 総論Ⅴ-2-ア～オ, 総論Ⅳ-2-ア, イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-1-イ～エ, 各論Ⅰ-2～4, 各論Ⅰ-10-ア-a～b, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d, 各論Ⅱ-3-エ-a～b] 事前学習：今までの講義について理解が不十分出会った項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。</p>
----	-------------	---	--	---	---

総合講義（Ⅱ）講義日程表：障害者歯科学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	3/31 (火)	2 後半	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学)	障害者歯科領域の試験の傾向と勉強法 障害者歯科領域の試験問題を理解し、勉強法を見つけることができる。	1. 今春の障害者歯科領域の国家試験問題を通して傾向を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることができる。 【出題された問題による】 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	5/20 (水)	1	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学)	障害者歯科での主な障害、行動調整 障害者歯科での主な障害と行動調整を理解する。	1. 障害者歯科で取り扱う主な障害、行動調整について説明できる。 【必修Ⅰ1イa・b・c、総論Ⅰ2カc、総論Ⅴ2オa・b・c、総論Ⅴ3ア・イ・ウ・エ・オ・カ、総論Ⅴ6アg、総論Ⅶ1オ、各論Ⅰ1エa・b、各論Ⅴ2オ、各論Ⅴ8アa・b、イa・b・c、ウ、エ】 事前学修：教科書p40～65とp208～244を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/20 (水)	2	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学)	症候群 障害者歯科で取り扱う症候群について理解する。	1. 障害者歯科で取り扱う症候群について説明できる。 【各論Ⅰ1イa・b・c・d・e、各論Ⅰ1ウa・b・c・d・e、各論Ⅳ4アa・b・c・e・j・m・n・o】 事前学修：教科書pp168～200を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/24 (水)	3	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学)	神経・運動障害 神経・運動障害ごとの特徴、歯科治療と予防法について理解する。	1. 筋ジストロフィー、脊髄損傷、関節リウマチ、てんかんについて説明できる。 【総論Ⅴ6アg・k、総論Ⅶ1エh】 事前学修：教科書p58～105を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
----	-------------	---	-------------------------------------	--	---

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	11/25 (水)	3	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学)	障害者歯科の必修領域 障害者歯科の必修領域（総論、知的能力障害、自閉スペクトラム症、運動障害、てんかん）について理解する。	1. 試験解説を通して障害者歯科領域（総論、知的能力障害、自閉スペクトラム症、運動障害、てんかん）の必修問題を解くことができるようになる。 【必修11イa・b・c】 事前学修：過去5年分の障害者歯科領域の必修問題の疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	※	※	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 【出題された問題による】 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	※	※	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学)	第2回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 【出題された問題による】 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/25 (水)	4	熊谷美保准教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学)	弱点領域の強化 到達度試験、第1回総合試験、復習試験での弱点領域を整理し、関連領域の知識も総合的に理解する。	1. 障害者歯科領域の到達度試験、第1回総合試験、復習試験問題を確実に答えることができる。 [必修11イa・b・c、総論I2カc、総論V2オa・b・c、総論V3ア・イ・ウ・エ・オ・カ、総論V6アg、総論VII1オ、各論I1エa・b、各論V2オ、各論V8アa・b、イa・b・c、ウ、エ] 事前学修：障害者歯科の到達度試験、第1回総合試験、復習試験問題を見直して疑問点を抽出しておく。所要時間30分程度。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。

総合講義（Ⅱ）講義日程表：関連医学・内科学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	4/3 (金)	4 後半	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野)	内科領域の歯科医師として必要な知識修得とその勉強法 歯科医師として必要な内科領域の知識を修得することができる。	1. 今春の国家試験で問われた内科領域の歯科医師に必要な知識を説明できる。 2. 歯科医師として必要な知識を修得するために自分にあった勉強法での年間計画を立案できる。 【必修11-ス-b】【総論V6-ア-a, b, c, d, e, f, g, h, I, j, k】【必修11-ス-b】【総論V6-ア-c】【各論Ⅲ4-ス-a, b, c, d, e, f, g, h, I, j, k】【各論V2-エ-a, b, c, d, e, f, g, h, I, j, k, l, m】 事前学修：内科学に関する国家試験問題を確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

A講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	7/15 (水)	3	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野)	消化器疾患（胃腸疾患、肝胆膵疾患） 代表的な消化器疾患（胃腸疾患、肝胆膵疾患）について理解する。	1. 代表的な消化器疾患（胃腸疾患、肝胆膵疾患）について理解し説明できる。 【必修11-ス-b】【総論V6-ア-c】【各論Ⅲ4-ス-c】【各論V2-エ-d】 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。講義に関する国家試験問題を解きまとめること。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/29 (水)	3	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野)	循環器疾患、脳血管疾患、認知症 代表的な循環器疾患、脳血管疾患、認知症について理解する。	1. 代表的な循環器疾患、脳血管疾患、認知症について理解し説明できる。 【必修11-ス-b】【総論V6-ア-b】【各論V2-エ-c】【各論Ⅲ4-ス-b】【各論V2-エ-h】 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。講義に関する国家試験問題を解きまとめること。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	8/4 (火)	3	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野)	呼吸器疾患、アレルギー疾患、膠原病 代表的な呼吸器疾患、アレルギー疾患、膠原病について理解する。	1. 代表的な呼吸器疾患、アレルギー疾患、膠原病について理解し説明できる。 [必修11-ス-b][総論V6-ア-a][総論V6-ア-k][各論Ⅲ4-ス-a, j][各論V2-エ-b][各論V2-エ-j] 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。講義に関する国家試験問題を解きまとめること。
講義	8/5 (水)	3	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野)	糖尿病、脂質異常症、腎疾患、内分泌疾患 代表的な糖尿病、脂質異常症、腎疾患、内分泌疾患について理解する。	1. 代表的な糖尿病、脂質異常症、腎疾患、内分泌疾患について理解し説明できる。 [必修7-ウ-h][必修11-ス-b][総論V6-ア-e][総論V6-ア-h][各論V2-エ-f][各論V2-エ-i] 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。講義に関する国家試験問題を解きまとめること。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	8/19 (水)	3	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野)	血液疾患、出血性疾患、抗凝固療法、産科、他 代表的な血液疾患、出血性疾患、抗凝固療法、産科について理解する。	1. 代表的な、血液疾患、出血性疾患、抗凝固療法、産科などについて理解し説明できる。 [必修11-ス-b][総論V6-ア-d][各論Ⅲ4-ス-d][各論V2-エ-e] 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。講義に関する国家試験問題を解きまとめること。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

C講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/18 (水)	3	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野)	個体の死、血液検査の読み方、その他重要事項 個体の死、血液検査の読み方について理解を深める。	1. 個体の死、血液検査の読み方などについて理解を深め説明できる。 [必修9-エ-b, c, d][総論I3-ア-b] 事前学習：内科学に関する過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。 事後学習：講義に関する国家試験問題を解きまとめること。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野)	第1回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野)	第2回総合試験 解説講義 試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅱ）講義日程表：衛生学・公衆衛生学・予防歯科学・社会歯科学

国家試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/2 (木)	2	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	予防歯科学領域の勉強法 予防歯科学領域学習目標 とそれに対する、勉強 法を見つけることができ る。	1. 予防歯科学領域に求められる学力 の水準を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけれ ることができる。 [出題された問題による] 事前学習：歯科医師国家試験問題を 解答して講義に臨むこと。

A 講義：基盤形成講義Ⅱ

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/14 (火)	3	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	必修の基本的事項Ⅰ 医の倫理 歯科医療の社会的背景 保健医療と医学研究の 倫理の変遷を学ぶこと で医療倫理の包括的意 義を理解する。 歯科医療の社会的背景 を学ぶことで現代の歯 科医師への社会的要請 を理解する。	1. 医師の職業倫理を概説できる。 2. 医学研究の倫理を概説できる。 3. 患者の権利を列挙できる。 4. ヒトを対象とした医学研究の倫理 について概説できる。 5. 疾病構造の変化と医療の社会的 ニーズの関連を概説できる。 6. 疾病予防の原則を概説できる。 [必修1-ア・イ、必修2-ア-a、必修 2-エ] 事前学習：スタンダード社会と歯学 p3-15を読んで疑問点を整理してお くこと。
講義	4/27 (月)	3	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	必修の基本的事項Ⅱ 医療の質と安全性の確 保 医療現場におけるリス クを学ぶことで医療行 為のリスクマネジメン トを理解する。	1. ICFとICIDHの違いを説明できる。 2. 医療・保健・福祉関連職を概説で きる。 3. クリニカルパスの目的を概説でき る。 4. 医療事故防止の原則を概説でき る。 [必修2-ア-b~d、必修2-イ-e、必修 2-ウ-a、b、必修2-オ、カ] 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学 p223-225、スタンダード社会と歯学 p131-145を読んで疑問点を整理して おくこと。

講義	4/28 (火)	1	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	必修の基本的事項Ⅲ 診療記録、健康日本21 診療記録の重要性を学ぶことで、医療関連個人情報管理について理解する。 健康日本21について理解する。	1. 医療廃棄物の取り扱いを概説できる。 2. 医事紛争の流れを概説できる。 3. 主な診療記録の必須記載事項を列挙できる。 4. 診療情報の取り扱いについて概説できる。 5. 健康日本21の基本的方向を概説できる。 [必修2-キ、ク、ケ、コ、サ、必修3-ア-d] 事前学習：口腔保健・予防歯科学 p211-216、スタンダード社会と歯学 p146-156を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	4/28 (火)	2	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	保健・医療関係法規Ⅰ 歯科医療関連法規を学ぶことで歯科医療供給体制の概要を理解できる。	1. 医療法が規定する事項を列挙できる。 2. 医療計画を概説できる。 3. 歯科医師法に定められた歯科医師の義務と業務を列挙できる。 [必修2-イ-a, b、総論Ⅰ-1-エ-a、総論Ⅰ-1-オ-b, h, i, j] 事前学習：スタンダード社会と歯学 p51-89を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	4/28 (火)	3	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	保健・医療関係法規Ⅱ 保健、衛生関係法規を学ぶことで地域保健の仕組みを理解する。	1. 健康増進法が規定する事項を列挙できる。 2. 地域保健法が規定する事項を列挙できる。 3. 歯科口腔保健の推進に関する法律を概説できる。 4. 感染症法、予防接種法、検疫法を概説できる。 [必修2-イ-a, b, e、必修3-ア-f、必修3-イ-a、総論Ⅰ-1-エ-b, d、総論Ⅰ-1-オ-a, b, f] 事前学習：スタンダード社会と歯学 p157-168、口腔保健・予防歯科学 p204-222を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	5/11 (月)	3	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	社会保障制度、国民医療費 社会保障制度の仕組みを学ぶことで制度における歯科医師の役割を理解する。 国民医療費について学ぶことで超高齢社会の問題点を把握する。	1. 社会保障制度の種類を列挙できる。 2. 医療保障制度を概説できる。 3. 所得保障制度を概説できる。 4. 国民医療費の内訳を列挙できる。 5. 制度別、財源別、診療行為別、年齢別国民医療費について説明できる。 [必修2-イ-g、総論Ⅰ-1-ウ、総論Ⅰ-4-ア] 事前学習：スタンダード社会と歯学 p169-184, p195-201を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	5/25 (月)	1	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	疫学総論 医学全般に共通の疫学 を学ぶことで疫学の基 本概念が理解できる。	1. 疫学の研究方法を列挙できる。 2. 疫学指標を算出できる。 3. 因果関係の判定基準を列挙でき る。 4. 標本抽出法を列挙できる。 [必修9-ク-b, d、総論 I-6-ア- a, e, f、総論 I-6-イ-a] 新編衛生学・公衆衛生学p18-32を読 み疑問点を整理しておくこと。
講義	5/25 (月)	2	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	歯科疾患の疫学指標 口腔疾患に固有の疫学 指標を学ぶことで歯科 疾患・リスクの分布頻 度の把握方法を理解で きる。	1. 歯科集団検診の方法を概説でき る。 2. 齲蝕の疫学指標を算出できる。 3. 歯周疾患の疫学指標を列挙でき る。 4. 口腔清掃度の疫学指標を列挙でき る。 [総論 I-6-イ-b] 事前学習：口腔保健・予防歯科学 p148-153、p106-135を読んで疑問点 を整理しておくこと。
講義	5/26 (火)	1	衣斐美歩講師 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	スクリーニング スクリーニングについ て学ぶことで集団の健 康管理法について理解 できる。	1. スクリーニングの意義を概説でき る。 2. スクリーニングの有効性の指標を 算出できる。 3. 尤度比の意義を説明できる。 4. 臨床検査の基準範囲の意味を統計 学的に説明できる。 [必修9-ア-c、総論 I-6-ア-b] 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学 p35-38を読み疑問点を整理しておく こと。
講義	5/26 (火)	2	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	人口統計、保健統計調 査 I 健康指標として最も代 表的な人口指標を学ぶ ことで、超高齢社会の 問題点を把握できる。	1. 人口静態と人口動態の指標を列挙 し、主な指標を説明できる。 2. 基幹統計と一般統計を列挙でき る。 [総論 I-6-ウ] 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学 p47-58を読み疑問点を整理しておく こと。
講義	6/2 (火)	1	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	保健統計調査 II 国の行う保健医療統計 調査を学ぶことで、現 代日本の構造と問題点 を理解するようになる。	1. 国が行う主な保健統計調査とその 目的を列挙できる。 2. 歯科疾患実態調査結果を概説でき る。 [総論 I-6-ウ] 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学 p58-62を読み疑問点を整理しておく こと。
講義	6/2 (火)	2	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	地域保健 地域保健活動の総論を 学ぶことで各論的保健 活動を理解できるよう になる。	1. プライマリヘルスケアとヘルスプ ロモーションを概説できる。 2. 地域保健活動のすすめ方を説明で きる。 3. 保健所と市町村保健センターの役 割を説明できる。 [必修3-ア-a, b, c、必修3-イ-a, h、 総論 I-1-オ-a, c, d, e, f] 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学 p132-140、口腔保健・予防歯科学 p204-222を読み疑問点を整理してお くこと。

講義	6/8 (月)	1	杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	母子保健 母子保健・母子歯科保 健について学ぶことで 地域母子保健における 歯科医師の役割が理解 できる。	1. 母子保健事業を概説できる。 2. 母子歯科保健事業を列挙できる。 3. 乳幼児歯科健康診査を説明でき る。 [必修3-イ-b、総論 I-2-ア] 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学 p149-161、口腔保健・予防歯科学 p225-244を読み疑問点を整理してお くこと。
講義	6/8 (月)	2	佐藤華子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	学校保健 学校保健・学校歯科保 健について学ぶことで 学校保健における歯科 医師の役割が理解でき る。	1. 学校保健の領域を説明できる。 2. 学校保健統計調査結果を概説でき る。 3. 学校歯科健康診断の方法を説明で きる。 [必修3-イ-c、総論 I-2-イ] 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学 p162-178、口腔保健・予防歯科学 p245-264を読み疑問点を整理してお くこと。
講義	6/22 (月)	1	杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	産業保健・成人保健 歯科保健を含めた産業 衛生・保健、成人保健 を学ぶことで成人の口 腔保健管理を理解す る。	1. 職業性疾患を列挙できる。 2. 職業性疾患の予防手段を列挙でき る。 3. THPを概説できる。 4. 成人保健の概要を説明できる。 5. 特定健康診査、特定保健指導を説 明できる。 [必修3-ア-e、必修3-イ-d, e、総論 I-2-ウ、エ] 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学 p179-210、口腔保健・予防歯科学 p265-286を読み疑問点を整理してお くこと。
講義	6/22 (月)	2	佐藤華子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	国際保健、環境保健 国際保健を学ぶことで グローバルな医療人と して社会貢献をする態 度が身につく。 環境の健康影響を学ぶ ことで地域の衛生環境 や歯科診療所の環境改 善を重視するようになる。	1. 国際協力組織を列挙できる。 2. WHOの口腔保健戦略を列挙でき る。 3. 大気、水、温熱環境の健康影響を 説明できる。 4. 環境基準項目を列挙できる。 [総論 I-5-ア、総論 I-9-ア] 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学 p97-123、p240-245を読み疑問点を 整理しておくこと。
講義	6/30 (火)	1	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	齲蝕の予防 齲蝕の原因と予防法を 学ぶことで個別または 集団への齲蝕予防のた めの介入ができるよう になる。	1. 齲蝕の発生要因を列挙できる。 2. 齲蝕の要因別リスク評価法を列挙 できる。 3. 齲蝕の予防手段を概説できる(含 む予防の3相5段)。 4. 代用甘味料の種類を列挙できる。 5. 代表的な代用甘味料の構造を説明 できる。 [総論 I-6-エ-a、各論 II-1-ア- a, b、各論 II-1-イ-a] 事前学習：口腔保健・予防歯科学 p35-47、p148-153を読んで疑問点を 整理しておくこと。

講義	6/30 (火)	2	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	フッ化物による齲蝕予防 フッ化物による齲蝕予防法の効果とリスクを学ぶことで地域歯科保健活動においてフッ化物を応用できる。	1. フッ化物の齲蝕予防法を列挙できる。 2. フッ化物の齲蝕予防機序を説明できる。 3. フッ化物の中毒を説明できる(含むフッ化物濃度の計算)。 [必修3-ウ-a、各論Ⅱ-1-イ-c] 事前学習：口腔保健・予防歯科学 p48-56、p155-159を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	7/28 (火)	1	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	口臭の予防 口臭の原因と対応について学ぶことで適切な口臭診療について理解できる。	1. 口臭原因を列挙できる。 2. 口臭測定法を列挙できる。 3. 口臭への対応法を列挙できる。 [必修9-オ-h、総論Ⅵ-1-ア-f、各論Ⅲ-3-イ-l、各論Ⅲ-5-イ-e] 事前学習：口腔保健・予防歯科学 p69-74、p167-171を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	7/28 (火)	2	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	周術期口腔ケア概論 周術期の口腔ケアの意義を理解する。	1. 周術期の口腔ケアの意義を概説できる。 2. 周術期の口腔症状を列挙できる。 3. 口腔カンジダ症について説明できる。 [必修7-ウ-d, l、総論Ⅶ-4-イ-a、各論Ⅲ-1-ク-j、各論Ⅴ-6-キ] 事前学習：口腔保健・予防歯科学 p79-81、p197-203を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	8/18 (火)	1	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	高齢者保健・介護保険 高齢者の保健・歯科保健と介護保険制度を学ぶことで超高齢社会の保健医療について理解する。 超高齢社会の問題としてのフレイルを理解する。	1. 地域支援事業を概説できる。 2. 介護保険制度を概説できる。 3. フレイルを概説できる。 4. フレイルとサルコペニアの診断基準を列挙できる。 [必修2-イ-c, f、必修3-イ-e、総論Ⅰ-1-エ-g, i、総論Ⅰ-1-カ、総論Ⅰ-2-オ] 事前学習：スタンダード社会と歯学 p185-195、新編衛生学・公衆衛生学 p211-222、口腔保健・予防歯科学 p287-291を読み疑問点を整理しておくこと。
講義	8/18 (火)	2	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	国民栄養と食品保健、薬事関連法規 栄養と健康について学ぶことで口腔保健における栄養指導の重要性が理解できる。 薬事関連法規を体系的に理解する。	1. 国民栄養の問題点を列挙できる。 2. 栄養関連法規を概説できる。 3. 食事摂取基準、食事バランスガイドを説明できる。 4. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律が定める項目を列挙できる。 5. 歯科領域の医薬品、医薬部外品、医療機器を列挙できる。 6. 治験とGCPについて概説できる。 [必修2-ケ、コ、総論Ⅰ-1-エ-b, e、総論Ⅰ-8-ア・イ] 事前学習：スタンダード社会と歯学 p95-111, p80-96を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	8/18 (火)	3	衣斐美歩講師 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	感染症の予防 感染症の要因と予防法を学ぶことで歯科医療における感染対策を理解する。	1. 感染症の成立要因と要因別予防手段を列挙できる。 2. 感染症法1-3類の感染症を列挙できる。 3. 定期予防接種を列挙できる。 [必修2-キ、総論 I-7-ア] 事前学習：新編衛生学・公衆衛生学 p63-79を読み疑問点を整理しておくこと。
----	-------------	---	----------------------------	---	---

C 講義：必修特化講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/9 (月)	1	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	社会歯科まとめ1 社会歯科学関連の知識を強化する。	1. 社会歯科学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 [必修1-ア・イ、必修2-ア-a~d、必修2-イ-a, b, c, e, f、必修2-ウ-a、b、必修2-エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、必修3-ア-a~f、必修3-イ-a~f, h、総論 I-1-エ-a, b, d, g, i、総論 I-1-オ-a~f, h, i, j、総論 I-1-カ、総論 I-2-ア~オ] 事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。
講義	11/9 (月)	2	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	社会歯科まとめ2 社会歯科学関連の知識を強化する。	1. 社会歯科学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 [必修1-ア・イ、必修2-ア-a~d、必修2-イ-a, b, c, e, f、必修2-ウ-a、b、必修2-エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、必修3-ア-a~f、必修3-イ-a~f, h、総論 I-1-エ-a, b, d, g, i、総論 I-1-オ-a~f, h, i, j、総論 I-1-カ、総論 I-2-ア~オ] 事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。
講義	11/9 (月)	3	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	社会歯科まとめ3 社会歯科学関連の知識を強化する。	1. 社会歯科学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 [必修1-ア・イ、必修2-ア-a~d、必修2-イ-a, b, c, e, f、必修2-ウ-a、b、必修2-エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、必修3-ア-a~f、必修3-イ-a~f, h、総論 I-1-エ-a, b, d, g, i、総論 I-1-オ-a~f, h, i, j、総論 I-1-カ、総論 I-2-ア~オ] 事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。

講義	11/16 (月)	1	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	疫学・公衆衛生まとめ1 疫学・公衆衛生学関連の知識を強化する。	1. 疫学・公衆衛生学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 [必修9-A-c、必修9-K-a~d、総論I-6-A、イ、ウ] 事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。
講義	11/16 (月)	2	岸 光男客員教授 佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	疫学・公衆衛生まとめ2 疫学・公衆衛生学関連の知識を強化する。	1. 疫学・公衆衛生学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 [必修9-A-c、必修9-K-a~d、総論I-6-A、イ、ウ] 事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。

第1回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	第1回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

第2回総合試験解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	第2回総合試験解説講義 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第6学年授業時間割の項に記載

選抜講義① (A講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/2 (火)	4	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	EBM(根拠に基づいた医療)、基礎統計 EBMの概念と基礎的な医療統計を学ぶことで、歯科疾患の治療・予防に適用する。	1. EBMの5つのステップを列挙できる。 2. 二次研究 (システマティックレビュー、メタアナリシス) の意義を説明できる。 3. 診療ガイドラインの意義を概説できる。 4. 基礎統計量を列挙できる。 5. 提示されたデータから適切な統計解析法を選択できる。 [必修9-ク-a, b, c, d、総論 I-6-ア-c, d、総論 V-1-オ] 事前学修：新編衛生学・公衆衛生学 p32-35、p40-46をを読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	6/8 (月)	4	衣斐美歩講師 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	口腔清掃法 口腔清掃法とそれに関する器具、歯磨剤等を学ぶことで効果的な歯科保健指導ができるようになる。	1. 口腔清掃法を列挙できる。 2. 歯磨剤の基本成分と薬用成分を列挙できる。 [必修3-ウ-b, c、必修3-エ、各論 II-1-イ-e] 事前学修：口腔保健・予防歯科学 p72-183を読んで疑問点を整理しておくこと。

選抜講義② (B-C講義期間中)

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/9 (月)	4	衣斐美歩講師 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	計算問題演習1 種々の計算問題に対応する。	1. 様々な疫学指標を算出できる。 2. リスク指標を算出できる。 [総論 I-6-ア-a, b, e, f、総論 I-6-イ-a, b、総論 I-6-ウ、各論 II-1-イ-c] 事前学習：国家試験等の当該計算問題を演習しておくこと。
講義	11/16 (月)	4	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	計算問題演習2 種々の計算問題に対応する。	1. フッ化物の急性中毒量を算出できる。 2. 人口統計指標を算出できる。 3. スクリーニングの指標を算出できる。 [総論 I-6-ア-a, b, e, f、総論 I-6-イ-a, b、総論 I-6-ウ、各論 II-1-イ-c] 事前学習：国家試験等の当該計算問題を演習しておくこと。

講義	11/30 (月)	4	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	<p>臨床予防歯科学まとめ1</p> <p>臨床予防歯科学関連の 知識を強化する。</p>	<p>1. 臨床予防歯科学分野の知識を補強し、自らにフィードバックできる。</p> <p>[必修3-ウ-a, b, c、必修3-エ、必修7-ウ-d, l、必修9-オ-h、総論 I -6-エ-a、総論VI-1-ア-f、各論 II -1-ア-a, b、各論 II -1-イ-a, c, e、各論 III-1-ク-j、各論 III-3-イ-l、各論 III-5-イ-e、各論 V-6-キ]</p> <p>事前学習：A講義の当該資料および国家試験等の当該問題を復習・演習しておくこと。</p>
----	--------------	---	--------------------------------	--	---

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	特定の教科書は指定しない。本講義は「知識の統合」を目的とするため、1年次から5年次までに各科で使用した全ての教科書、講義プリント、および自作の講義ノートを最大の教材として活用すること。			
参	歯科医師国家試験出題基準（令和5年版）：自身の知識の到達度を確認し、学修の指針とするための資料として活用すること。			

成績評価方法・基準・配点割合等

本講義の成績評価は、歯科医師国家試験の合格水準に基づいた「一次判定」および「卒業判定保留解除試験」によって厳正に決定する。

1. 一次判定の配点割合および構成

年間を通じて実施される各試験の得点を以下の割合で合算し、総合的に評価する。

実力確認試験・到達度評価試験：5%、第1回総合試験：40%、第2回総合試験：55%

2. 一次判定における合格基準

以下のすべての基準（領域別および総点）を完全に満たした者を合格とする。

必修問題：75%以上、総論・各論一般問題：65%以上、各論臨床実地問題：65%以上

総点：70%以上

・卒業判定保留解除試験について

一次判定において合格基準に達しなかった者を対象に、以下の条件に基づき「卒業判定保留解除試験」を実施する。

1. 受験資格 本試験を受験するためには、以下の条件をすべて満たしていなければならない。

・原則として、第1回総合試験および第2回総合試験の両方を受験していること。一次判定の合格基準点（必修75%、一般65%、臨実65%、総合70%）のうち、少なくとも1つ以上の項目で合格基準に到達していること（全項目が基準未達の場合は受験資格を与えない）。

・総合得点が 63%以上 であること（63%未満の者は、本試験を受験することができない）。

2. 合格基準 一次判定と同様に以下の数値をすべて満たすこととする。

必修問題：75%以上、総論・各論一般問題：65%以上、各論臨床実地問題：65%以上

総点：70%以上

到達目標	DP	実力確認試験、到達度評価試験	定期試験	合計
1,3	1,3	1	10	11
2	1,2,3,4	1	10	11
4,5,6	4	1	30	31
7,10,11,12	4,6	1	25	26
8,9,13,14	2,3,4,6	1	20	21
合計		5	95	100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

- ・本講義は、第5学年までに修得した全科目の知識を横断的に統合し、実効性のある臨床判断能力へと展開させることを目的とする。
- ・そのため、既習内容については既に十分な修得がなされているものと見なして講義を進行する。
- ・国家試験出題基準に基づいた思考力および臨床推論能力を向上させるため、双方向のディスカッション方式を積極的に取り入れることがある。
- ・事前学修に基づいたレポート作成を求め、それらをもとにプレゼンテーションや質疑応答を実施し、言語化能力を評価する場合がある。
- ・講義の途中または終了時に、クリッカーやWebClass、DESS演習等を活用し、知識の定着度および理解度を逐次確認することがある。
- ・DESS演習を通じて、断片的な知識を国家試験の出題形式（必修・総論・各論）に即して定着させる。

知識の確実な定着を担保するため、講義当日に復習試験を実施し、その結果をもって学習の到達度を確認する。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う。）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的